

うみがめニュースレター

UMIGAME NEWSLETTER OF JAPAN

No.105 2017



【原著論文】鹿児島県種子島周辺におけるウミガメ類の来遊と海域の利用状況・・・	2
・・・久米満晴・石原孝・デニス パーカー・ジョージ バラース	
沖縄島における右前肢が欠損したヒメウミガメ幼体の漂着	・・・11
・・・志村亜理佐・真栄田 賢・井上尚志・河津 勲	
西表島ウブ浜とサザレ浜におけるアオウミガメの上陸状況とその脅威について・・・	13
・・・亀田 和成・若月 元樹・岩瀬 文人・黒柳 賢治・島 達也	
近藤 鉄也・御前 洋・浅井 康行・佐藤 文宏・小寺 昌彦・亀崎 直樹	
2016年ウミガメ速報・・・・・・・・・・・・・・・・・・日本ウミガメ協議会	・・・15
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・石原 孝	・・・46
うみがめニュースレターに投稿される方へ	・・・47

■デジタル(PDF)版も利用できます

専用サイト (http://www.umigame.org/J1/katsudou_newsletter.html) からネット上でデジタル版(PDF版) うみがめニュースレターをダウンロードしていただくことができます。デジタル版の利用が可能な方で、アナログ版(紙に印刷され郵便で届く従来の冊子)の配信中止をご希望の方は、お手数ですが、newsletter@umigame.orgまでご連絡ください。タイトルに、「アナログ版不要」とご記入の上、本文には、受取人氏名(封筒に明記してある個人名または団体名)を明記してメールを送信してください。経費削減と紙資源の節約に対する皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

■寄付のお願い

下記の方からご寄付を頂戴しました。誠にありがとうございました。

太田英利様 丸山一子様

「うみがめニュースレター」は、これまで小笠原村からの補助を受けて発行されてきましたが、2011年度を持ちまして本補助事業が休止となりました。現在は日本ウミガメ協議会より補助を受けて発行を継続しておりますが、財政状況はこれまで以上に厳しい状況にあります。今後も皆様からの温かいご寄付をお待ちしております。切手の寄付も大歓迎です。また、協賛広告も併せて募集中です。詳細はメールで newsletter@umigame.org までお問い合わせ下さい。

郵便振替口座 10120-25391001 加入者名 うみがめニュースレター編集委員会
連絡先 〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町3-17-18-302 日本ウミガメ協議会内
Tel: 072-864-0335 Fax: 072-864-0535 e-mail: newsletter@umigame.org

■寄稿者へのお知らせ

本誌はウミガメに関する国内唯一の総合情報誌として、関連するあらゆる情報を取り扱い掲載しています。生物学的知見はもちろんのこと、ウミガメに関わる民俗、保護、論評や意見、会議報告なども含みます。様式は特に定めるものではありませんので、読者の皆様もどうぞお気軽にご寄稿ください。なお、本誌はISSN番号の登録を受けた定期刊行物で、海外の関連機関や研究者へも配布しております関係上、編集の際に英文の要旨とタイトルをつけております。予めご了承下さい。

■表紙の写真

表紙の写真は、高知県の溝渕幸三氏が2016年7月31日の朝撮影された、アカウミガメの孵化幼体が海へと向かう様子です。5月30日に産卵された巣から15匹が旅立っていったということです。

鹿児島県種子島周辺におけるウミガメ類の来遊と海域の利用状況

Habitat use of sea turtles in the coastal waters around Tanegashima Island,
Kagoshima Prefecture久米満晴^{1,2,3}・※石原孝^{2,4}・デニス パーカー⁵・ジョージ バラズ⁵

Mitsuharu KUME, Takashi ISHIHARA, Denise M. Parker, and George H. BALAZS

ABSTRACT

We recorded the sea turtle species found in a *teichiami* fishery (i.e., set net or pound net fishery) at Tanegashima Island, Japan (N 30° 27' 50" , E 130° 58' 30"), between April 2007 and June 2016. This *teichiami* takes a pause during the typhoon season, which usually occurs from July to October. After the preliminary phase had ended on July 2009, the main phase was initiated to record all individuals and measure straight carapace length (SCL). A total of 535 sea turtles were recorded throughout the entire period. Out of them, 278 loggerhead, 61 green, two hawksbill and four unidentified turtles were found at the main phase. We tracked eight loggerhead sea turtles using satellite tags and found that they migrated to different locations, such as the East China Sea, North West Pacific, and Sea of Japan. Immature turtles comprised 77.3% of the loggerheads and were observed during each season. There is no doubt that mature female loggerheads aggregate around Tanegashima Island in June, which is the peak of the nesting season; however, the mature females were observed almost exclusively in April and May. This suggests that mature females move around to locate their nesting sites in April and May, but settle in before June. In contrast, mature male loggerheads were observed to enter the area before females, beginning in January, and could be waiting to mate with females. In addition, since mating couples were found in the *teichiami*, the waters around Tanegashima Island are considered to be a loggerhead mating ground. The distribution of

SCL in the green turtles exhibited a bimodal pattern, with peaks at 40–49.9 cm and 60–69.9 cm. This size distribution coincides with previous studies using *teichiami* in Kochi, Mie, and Kagoshima prefectures. Because only five of the green turtles were mature, Tanegashima Island is more likely to be a feeding habitat for immature green turtles than a reproductive ground for mature green turtles.

Key words: bycatch, *Caretta caretta*, *Chelonia mydas*, mating ground, and seasonality

はじめに

鹿児島県の大隅諸島に属する種子島は国内有数のアカウミガメ (*Caretta caretta*) の産卵地であり、西隣にある屋久島に次ぐ規模の産卵が確認される (日本ウミガメ協議会まとめ)。また、アオウミガメ (*Chelonia mydas*) も産卵しており、北西太平洋において恒常的に産卵する北限となっている (亀田, 2013)。一方で、砂浜へ上陸してくるのは産卵期の成熟した雌だけであり、非産卵期や雄、未成熟の個体、さらには種子島で産卵しないタイマイ (*Eretmochelys imbricata*) など、ウミガメ類全般について種子島周辺での生息状況は分かっていない。そこで、待ち受け型の漁業であり、漁獲対象魚のみならずウミガメ類も無作為に入網する定置網の特性を活かして、種子島周辺でのウミガメ類の生息状況を調べた。加えて、アカウミガメについては標識放流および衛星発信機による追跡調査を実施し、本海域における回遊状況を取りまとめた。

¹ NPO 法人 Turtle Crew² NPO 法人 日本ウミガメ協議会³ 浜山水産⁴ 神戸市立須磨海浜水族園⁵ NOAA Pacific Islands Fisheries Science Center

※ 責任著者

方法

調査は鹿児島県熊毛郡中種子町熊野地先に設置された定置網（以下、熊野定置とする）において実施した（図1）。熊野定置は島の南東岸で水深 20m の砂地に設置されており、台風による被害を避けて休漁する 7 月から 10 月を除く、11 月から 6 月（年度によっては 7 月上旬まで）の期間に毎年操業している。魚獲り部となる箱網まですべて海面に開いた網形（落網式）で、ほとんどのウミガメは怪我もなく生きた状態で発見される。

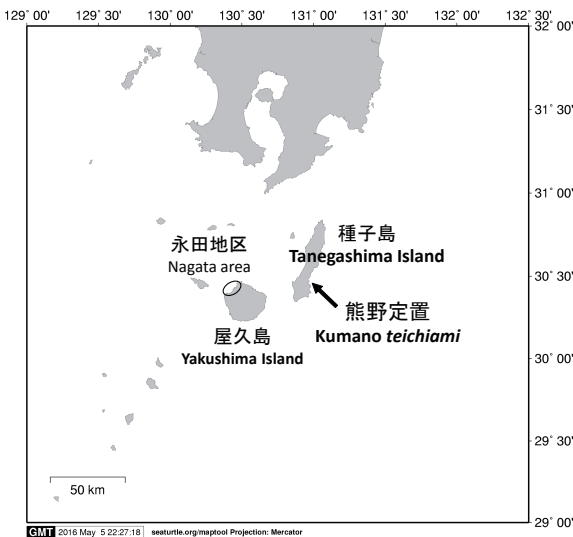


図1. 調査地である熊野定置の位置図。種子島の西隣にはアカウミガメの北太平洋最大の産卵地である屋久島がある。その中でも最も産卵数の多い永田地区の位置も○で示した。(seaturtle.org/maptool を使用して作成)

Figure 1. Location of Kumano teichiami. The largest rockery of loggerhead turtle in the northern Pacific, Nagata area in Yakushima Island (indicated by a circle), is located to the immediate west of Tanegashima Island. (This map was drawn using seaturtle.org/maptool.)

調査は 2007 年 4 月より開始して現在も継続しており、本報では 2007 年 4 月から 2016 年 7 月までのデータを扱った。定置網は 11 月から 7 月と年をまたいで操業されるため、データを集計する際は後半の年度とした。例えば、2009 年 11 月から 2010 年 7 月ならば 2010 年度とした。当初は大まかな甲長のみ記録しており、多忙時には正確に記録できないこともあった。このため、2007 年から 2009 年度までは、各種の出現数のデータのみを利用した。2010 年度から

2016 年度までは、専用大型ノギスを用いた正確な計測を実施し、出現数だけでなく、標準直甲長（以下 SCL「Standard Carapace Length の略」）および下記の方法で性別を記録した。

性別の判定は大型の個体が入網したアカウミガメとアオウミガメについて行った。アカウミガメでは種子島西隣にある屋久島での産卵雌の平均 SCL85.4cm（亀崎ほか, 1995）、アオウミガメでは東京都小笠原諸島での交尾雄の平均 SCL90.8cm（立川, 1991）以上を成熟個体とみなし、それらのうちで尾部の伸長がみられる個体を雄、伸長の見られない個体を雌とした。

放流に際しては、個体識別用の標識（Dulton 社製プラスチック製ジャンボタグおよび National Band and Tag Company 製インコネルタグ Style681）1 つを左右いずれかの後肢に装着し、再発見情報より放流後の移動について調べた。また、2009 年 3 月には、8 個体のアカウミガメの背甲にアルゴシステムを利用した衛星発信機（Telonics 社製, Telonics ST-24, model A-119）を取り付け、その後の移動経路の追跡を行った。この時、発信機の電源は 6 時間 on の後 48 時間 off となるよう設定し、バッテリー消費を減らした。

結果

2007 年 4 月から 2016 年 7 月の期間中、延べ 534 個体のウミガメ類の入網が確認された（表 1）。2009 年 11 月から 2016 年 7 月までの期間にアカウミガメ 273 個体、アオウミガメ 61 個体、タイマイ 2 個体、種不明 4 個体の 340 個体が入網した。SCL の平均 ± 標準偏差 (SD) はアカウミガメが 78.3±8.2cm (n=261)、アオウミガメが 63.0±16.2cm (n=59) で、タイマイ 2 個体は 61cm と 76cm であった。出現するウミガメ類の甲長組成をみるため、入網数に応じてアカウミガメでは 5cm、アオウミガメでは 10cm ごとに階級分けしたヒストグラムを作成したところ、アカウミガメは 70.0-74.9cm と 85.0-89.9cm に、アオウミガメは 40.0-49.9cm と 60.0-69.9cm にそれぞれピークのある二山形を示した（図 2）。なお、アカウミガメ 2 個体は計 6 回入網したが、甲長組成の分析には最初に捕獲された時の甲長のみを利用した。

成熟個体とみなされた個体の割合はアカウミガメで 23.0% (60/261 個体)、アオウミガメで 8.9% (5/59 個体) と、両種ともに入網したウミ

表1. 2007年4月から2015年6月に熊野定置に入網したウミガメ類の個体数. 毎年6月末または7月上旬から10月頃は休漁となるため, 前年11月から7月を一年度とした. ()内は熊野定置への再入網を含めた延べ個体数.

Table 1. Sea turtles found in Kumano *teichiami* from April 2007 to June 2015. From November of the previous year to July was treated as one research year, because Kumano *teichiami* pause the operation between end of June or middle of July to around October to avoid the typhoon. Gross number of turtles including recapture is shown in ().

	アカウミガメ loggerhead	アオウミガメ green	タイマイ hawksbill	種不明 unidentified	計 total
2007	32	15	0	0	47
2008	67	14	0	15	96
2009	40	7	0	0	47
2010	51(55)	12	1	2	66(70)
2011	71	6	0	0	77
2012	43	6	0	2	51
2013	41	9	1	0	51
2014	24	19	0	0	43
2015	17	4	0	0	21
2016	26	5	0	0	31
計 total	412(416)	97	2	19	530(534)

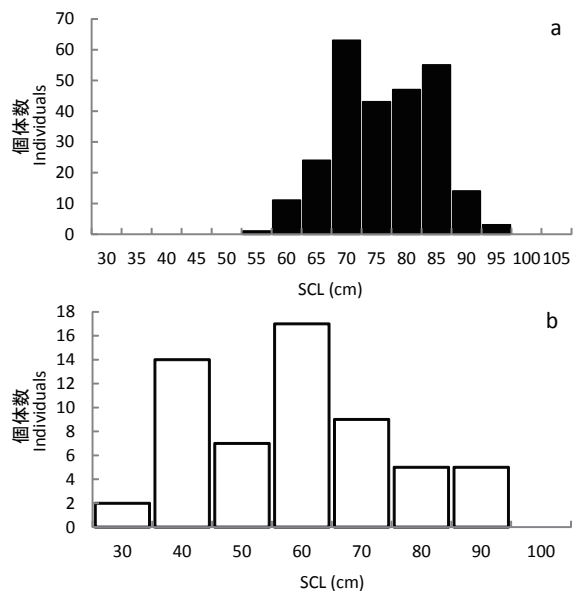


図2. 2009年11月から2015年7月に熊野定置に入網したアカウミガメ(a)とアオウミガメ(b)の甲長組成. Figure 2. Size distribution of loggerhead turtle (a) and green turtle (b) found in the Kumano *teichiami* from November 2009 to July 2015.

ガメの大半は未成熟とみられる個体であった. 一月間あたりの入網頻度と傾向は種, 性別, 成熟度で異なった. アカウミガメでは成熟雄は1月から5月に0.3-0.9個体/月の頻度で入網し, 成熟雌は4月と5月にほぼ集中して2.0と2.6個体/月で入網したのに対し, 未成熟個体はす

べての月で入網した. ただし, 未成熟個体の入網頻度にも月によって差があり, ピークとなった2月と5月はそれぞれ7.7と4.6個体/月であり, 比較的少なかった11月と6月はそれぞれ0.9と1.0個体/月であった(図3a). アオウミガメでは, 成熟個体の入網は2010年3月にSCL 93.4cmの雌, 2011年6月に91.0cmの雌雄未記録個体, 2012年2月に91.0cmの雄, 2016年2月に92.0cmと97.0cmの雌の5個体のみであった. アオウミガメ全体としては4月が1.7個体/月と最も多く, 最も少なかったのは0.1個体/月で6月であった(図3b). 2010年度以降の年間入網数をみると, アカウミガメでは2011年と2016年が前年より増えたものの, 全体的には減少傾向にあった. アオウミガメは2014年度に増加が見られたもののほぼ横ばいであった(図4).

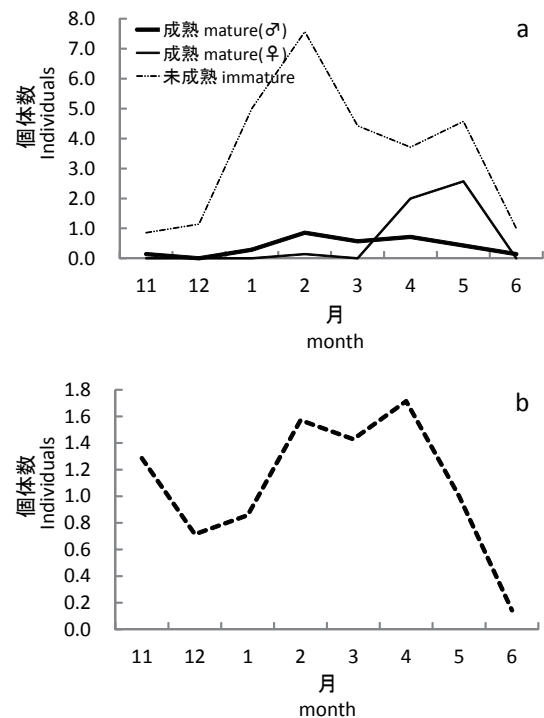


図3. アカウミガメ(a)とアオウミガメ(b)の一月あたりの入網個体数. 集計期間は2009年11月から2015年6月. 7月は年によって休漁に入る日が異なるため, 除外した. アオウミガメは成熟個体が少ないため, 成熟・未成熟を合算.

Figure 3. Number of loggerhead turtle (a) and green turtle (b) per month from November 2009 to July 2015. Lines were indicated as mature male (bold solid), mature female (fine dash) and immature (fine solid) in loggerhead turtle and all combined (bold dash) in green turtle.

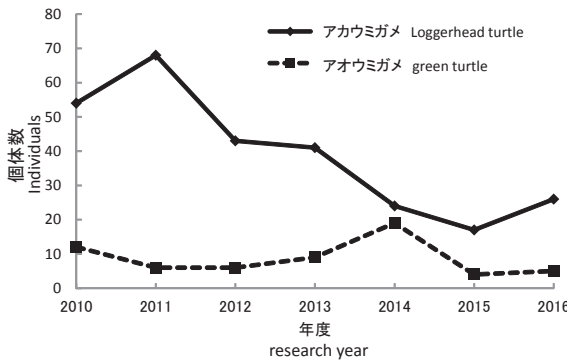


図4. 年度ごとの入網数の変化.
Figure 4. Number of loggerhead turtle (solid) and green turtle (dash) in the research years.

次に、2007年4月から2013年7月までに連絡のあった標識をつけたウミガメの再発見情報をまとめた。それまでの期間にアカウミガメ336個体、アオウミガメ62個体、タイマイ2個体、種不明17個体の計417個体に標識を装着して放流した。37個体42回の再発見情報が寄せられ、アオウミガメ1個体1回を除く36個体41回はアカウミガメであった。唯一のアオウミガメの再発見は2007年5月24日に入網・放流され、540日後の2008年11月14日高知県土佐清水市の定置網で再発見された曲甲長約75cm個体であった。アカウミガメについてまとめると、再捕獲率は標識放流した336個体の10.7%であり、上陸・産卵中の再発見が30個体32回と大半を占め、すべて屋久島の砂浜であった(図5)。混獲または漂着による再発見は6個体9回であり、熊野定置への再入網が3個体5回、鹿児島県上甕島で1個体1回、宮崎県宮崎市で1個体1回、高知県土佐清水市で1個体1回、北海道函館市を経て青森県むつ市で再発見されたのが1個体であった。標識をつけて放流した個体の中で、最も遠くまで移動したのは、2007年5月9日に入網・放流された曲甲長50cmと見積もられたアカウミガメであった。この個体は放流から135日後の同年9月21日に北海道函館市で、162日後の同年10月18日に青森県むつ市で、いずれも津軽海峡の東、太平洋側に設置された定置網で再発見された。最も再発見までの期間が長かったのは2008年5月28日に放流したアカウミガメで、放流の1,112日後となる2011年6月14日に屋久島へ産卵のため上陸したことが確認された。最も数多く再発見されたのは、2010年6月23日に放流されたアカウミガメで、放流の153日後の同年11月23日、162日後の

同年12月2日、176日後の同年12月16日の3回、調査地である熊野定置に再入網した。なお、3回目の再捕獲時、網の中で溺死していた。

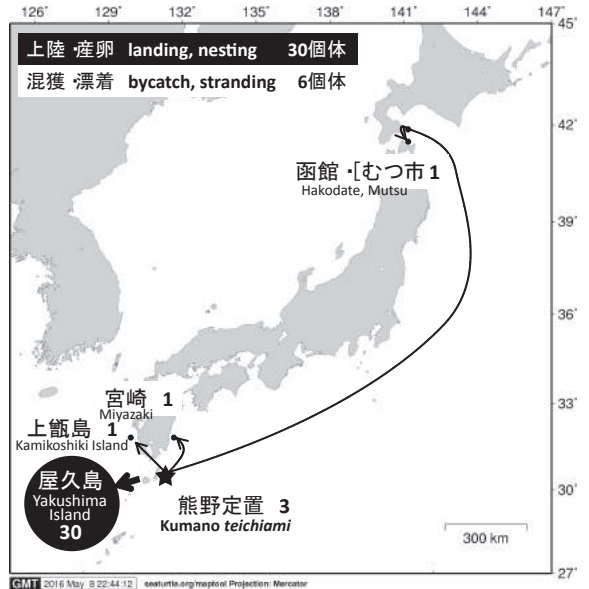


図5. 標識放流したアカウミガメの再発見場所と再発見状況。放流地点である熊野定置の位置(★)および再発見された場所と個体数を図中に示した。再発見時の状況は白抜き文字が上陸・産卵、黒抜き文字が混獲・漂着を示す。(seaturtle.org/maptoolを使用して作成)
Figure 5. Recapture place and the situation of 36 loggerhead turtles released around Kumano teichiami shown as the black star.

アルゴス衛星発信機はアカウミガメの雄3個体、雌2個体、性別不明3個体に取り付け、2009年3月20日から21日に放流した。各個体の情報および追跡結果の詳細は表2および図6に示した。8個体中3個体は20-31日と1ヶ月ほどの追跡に留まり、最も長く追跡できたのはSCL91.0cmの成熟雄で、173日間であった。8個体中1個体は、琉球列島にそって南下したが、その他の7個体は北・東・西方向に移動した。これら7個体の放流後の進路は実に様々であり、東に移動して太平洋の沖合いを移動し続ける個体、種子島を含む大隅諸島近海に留まる個体、北へ移動して東シナ海へ入る個体、九州西岸を回って日本海まで入る個体が見られた。

考察

定置網に入網するウミガメ類の出現時期と成熟度あるいは甲長組成については、アオウミガメとアカウミガメに関する報告がある。アオウ

表 2. 衛星発信機で追跡したアカウミガメ.

Table 2. Eight loggerhead turtles tracked by satellite telemetry.

名前 turtle name	放流日 release (YYMMDD)	最終受信日 last (YYMMDD)	追跡日数 days	SCL (cm)	Bw (kg)	性別 sex
ネンジ (Nenji)	2009 .3 .20	2009 .9 .19	173	91.0	91	♂
フミオ (Fumio)	2009 .3 .20	2009 .3 .26	20	89.2	95	♂
ヘイジロウ (Heijiro)	2009 .3 .20	2009 .5 .16	66	77.2	57	♂
モナル (Moharu)	2009 .3 .20	2009 .4 .19	31	68.9	45	不明
フジコ (Fujiko)	2009 .3 .21	2009 .6 .29	100	80.1	69	♀
ヌマ (Numa)	2009 .3 .21	2009 .5 .4	65	78.5	71	♀
ホテル (Hotatu)	2009 .3 .21	2009 .3 .29	20	75.9	55	不明
ニントロー (Nintaro)	2009 .3 .21	2009 .7 .14	115	74.9	56	不明

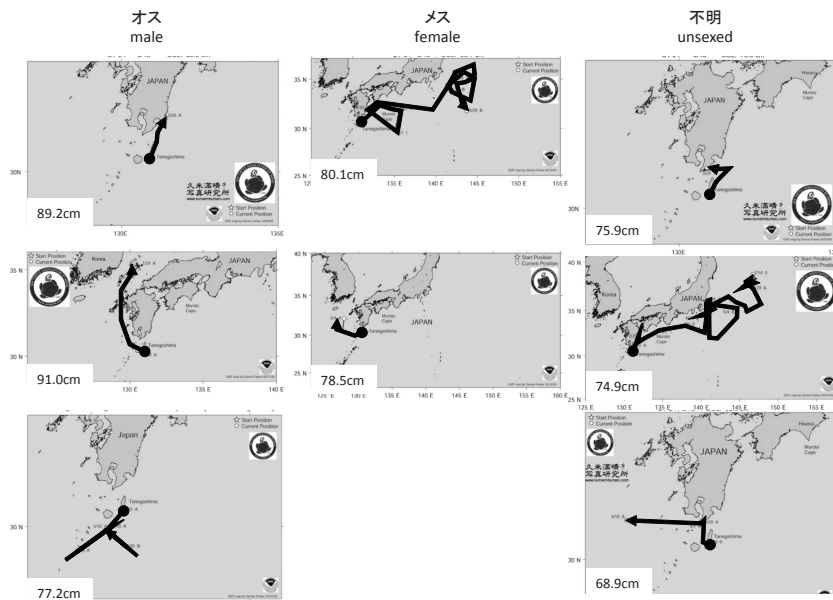


図 6. 衛星発信機による追跡図. 各地図左下は SCL. 個体情報は表 2 を参照. 1 日の中で最も位置精度の高い位置情報を用い, 移動距離と移動速度を計算して時速 5km 以上の場合には除外した. また, 陸上を示した位置情報も除外した.

Figure 6. Tracking maps of satellite telemetry of 8 loggerhead turtles. Individual data were shown in table 2. All positions were included on a map unless the position was on land, or the speed between 2 positions was greater than 5 km/h. One position per day was used to calculate distance traveled and speeds and this was the most accurate position for that day.

ミガメは岩手県三陸沿岸 (Narazaki, 2009), 三重県紀北町 (岡本ほか, 2011), 同御浜町 (谷口・亀崎, 2011), 和歌山県串本町 (宮脇, 1994), 高知県室戸市 (石原ほか, 2006), 鹿児島県笠沙町 (武内, 2008), 沖縄県宜野座村 (平手, 2000) で調べられており, アカウミガメはこれらに加えて高知県室戸市 (Ishihara and Kamezaki, 2011; Ishihara et al., 2011) と沖縄県読谷村 (Kawazu et al., 2013) で報告されている.

これらの先行研究および熊野定置では, いずれの地域でもアオウミガメは 30cm 以下の階級の個体はなく, 40-50cm にピークが見られたことから, 日本沿岸では 40-50cm の個体を中心に沿岸に加入すること (Bolten, 2003; 石原, 2012;

亀田, 2013) が改めて支持された. また, 50-60cm を底とした二山形が見られたのは熊野定置に加え, 三重県紀北町, 鹿児島県笠沙町, 沖縄県宜野座村の定置網である. この第二ピーク位置は熊野定置 (60-70 cm) と沖縄県宜野座村 (60-75 cm) ではほぼ同様の階級であったのに対し, この 2 調査地点よりも北に位置する地点では少なくとも 70cm 以上の階級にピークが見られた. これは第二ピークを形成する集団が, 種子島以南ではより甲長の小さな, より未熟な個体で構成されている可能性が示された. ただし, 調査された地点が少なく, 調査された年代も考慮していないため, 断定的なことは言えない.

アカウミガメの甲長組成は Kawazu et al. (2013) が SCL 85-90cm, その他が SCL 70-80cm にピークのある一山形を示しており, 二山形となった種子島の結果は特徴的であった。種子島でも第一ピークは多くの地域と同様 70-75cm にあり, 日本周辺に生息するアカウミガメが全体として未成熟サイズ, 特に 70cm 台が多いことが伺えた。一方で, 第二ピークは SCL 85-90cm にあり沖縄県読谷村のものと同じ化した。この読谷村のピークは成熟した個体の集団によって形成されたことが確認されており (Kawazu et al., 2013), 屋久島の産卵個体の平均 SCL が $85.6\text{cm} \pm 4.68\text{cm}$ (亀崎ほか, 1995) であることから, 種子島においても, 第二ピークは繁殖のために来遊した成熟個体によるものと考えられた。種子島と屋久島は国内最大のアカウミガメの産卵地であることから, 成熟個体が繁殖のために来遊し, その結果, 成熟個体の全体に占める割合が多くなり, ヒストグラムに第二ピークが現れたものと考えられた。実際に, 成熟雌は産卵期の初期にあたる 4 月から 5 月に集中して出現し, 成熟雄が集中して出現した 2 月から 5 月は交尾期に重なる (河津・岡部, 2014; Miller, 1997) ことは成熟個体が繁殖のために種子島周辺に来遊していることを裏付けている。

ここで, アカウミガメの成熟雌が産卵の盛期となる 6 月に出現しなかった理由についても考えてみたい。成熟雌は産卵のない時期には東シナ海や太平洋の沖合などを摂餌域としており (Hatase et al., 2002c; 畑瀬, 2013), 産卵期の始まる数ヶ月前に産卵地近く, あるいはいくらか離れた, 交尾海域へと回遊を始める (Limpus and Limpus, 2003; 松沢, 2012)。産卵期間中は産卵場周辺の沿岸域に留まり (Plotkin et al., 2003), 餌を食べないか (田中ほか, 1995), 食べても比較的少量である (齋藤, 2009; 齋藤ほか, 2008)。スクーバダイビング中に海底で休んでいる姿も目撃されていることから (興克樹, 私信), 産卵期間の雌は産卵場の沿岸で休んであまり移動しないものと考えられる。以上のことを考え合わせると, 成熟雌の入網した 4 月から 5 月は産卵のため種子島近海に来遊して間もない時期で, 産卵に適した砂浜を探索している個体が定置網に入網したものと推測できる。裏返せば, 産卵盛期となる 6 月に成熟雌が定置網に入網しなかったのは, すでに産卵場所は決まっており動き回ることが少ないため, 待ち受け方の漁業である定置網には入網し難いと考えられた。

成熟雄の入網し始める時期が成熟雌に比べて早かったのは, 雄が雌より先に繁殖海域へと来遊し, 交尾のために雌を待ち構えるためであると推察される。沖縄島の周辺海域においては, 12 月から 6 月に集中して出現するアカウミガメの中には交尾を目的とした雄がおり (平手, 2005; Kawazu et al., 2013), 交尾の盛期は 4 月以降であると推察されている (河津・岡部, 2014)。また, アセンション島のアオウミガメでは産卵の盛期になる前に交尾ペアの数は低い水準まで落ち込むことも報告されている (Godley et al., 2002)。種子島での成熟雄の出現時期はこれら先行研究とよく一致しており, 入網した成熟雄の多くは交尾のために雌を探して動き回っている個体であることが示唆された。実際に, 定置網の中で交尾をしている個体も観察されており (久米, 私信), 種子島周辺はアカウミガメの交尾海域であることが強く示唆された。

日本で産卵するアカウミガメの交尾海域は最近少しずつ明らかになりつつある。沖縄島西側海域では, 定置網に入網するアカウミガメについて, 交尾の時期に同一個体の成熟雄が繰り返し入網することから, 交尾海域のひとつであろうことが報告されている (河津・岡部, 2014)。また, 鹿児島県奄美大島周辺でもアカウミガメが交尾をしている様子が記録されており (興, 2001), アカウミガメの交尾海域は少なくとも種子島周辺から沖縄島周辺にかけて広がっているものと考えられた。その他, アカウミガメの主要産卵地の一つである宮崎県宮崎市の海岸に近い青島 (西・大牟田, 2013) や和歌山県の潮岬 (石原, 漁業者よりの伝聞) での交尾観察例もあり, 交尾域はより広範囲に広がっていたり, 本州を含めた日本列島の沿岸に点在していたりする可能性もある。

成熟個体が種子島近海へ来遊するのは交尾や産卵のためだとすると, 非繁殖期の摂餌域は別の海域にあり, 種子島周辺はアカウミガメにとって摂餌には向かない場所であるとも考えられる。一方で, まだ繁殖には参加せず, 摂餌のみを行っているはずの未成熟個体が調査期間を通して種子島周辺に来遊していたことは何を意味するのだろうか。アカウミガメを含めたウミガメ類では, 生まれた地域に戻って産卵すること (Bowen and Karl, 1997, 2007; Hatase et al., 2002a; Lohmann et al., 2013; Watanabe et al., 2011) および同じ砂浜で産卵する個体であっても異なる摂餌域を利用していること (例えば Hatase et

al., 2002c, 2010, 2013; Hawkes et al., 2006; Limpus and Limpus, 2001)が報告されている。すなわち、産卵地によって摂餌海域が定まるわけではないことが知られている。そこから考えられるのは、それぞれの個体が成長していく過程で餌場とする海域を探し、定めているという仮説である。いずれも証拠となるデータはまだないが、将来の解明の一助となることを願って、以下に仮説を記しておきたい。

仮説 1：成熟個体の学習説。成熟個体は非繁殖期に栄養を蓄積し、次の繁殖に備える必要がある。そのため、成熟するまでに各個体が見つけた中でも優良な、確実に餌資源のある海域に固執するという仮説。この場合、種子島よりも優良な餌場が他の海域にあるため、非繁殖期には種子島周辺で成熟個体が見られなくなったと考えられる。

仮説 2：未成熟個体の冒険的な探索説。仮説 1 を補足する仮説。成熟個体は繁殖期に十分な摂餌活動が行えないのとは対照的に、未成熟個体には繁殖という制限がない。そのため、未成熟個体は未知の摂餌海域を探索する余裕があり、成熟個体が摂餌をしない時期や海域にも来遊してくるという仮説。

一方で、餌資源を巡る成熟個体と未成熟個体との棲み分けの結果という可能性もある。しかし、本種は外洋に広く分布し、他個体と接触する機会が少ないために、種内での社会性が発達し難いと考えられる。加えて、幅広い動物群を捕食し（上野ほか, 2014）、同一場所では成熟度による食性の違いがない（齋藤, 2009; 齋藤ほか, 2008）ため棲み分けているとは考えづらい。従って、東太平洋から日本周辺へと戻ってきた未成熟個体は、生まれた地域を起点として各個体が好ましい餌場を探索しながら成長し、成熟する頃にそれぞれの摂餌海域を定めているのではないだろうか。

標識放流して再発見されたウミガメ類は、ほとんど（36/37 個体）がアカウミガメであり、アオウミガメやタイマイについては放流後の移動はよく分からなかった。アカウミガメについても、30 個体は種子島西隣の島、屋久島の永田地区で上陸・産卵した際の再発見であり（図 5）、種子島周辺で産卵場所を探していたアカウミガメの中には屋久島の永田地区を産卵場所と定めた個体が一定数いたことが示された。それでは、概算としてもどの程度の割合で屋久島永田地区を産卵場所としているのだろうか。まず、SCL

を計測しはじめた 2009 年 11 月から再発見情報を取りまとめた 2013 年 7 月までの期間に、熊野定置に入網した成熟サイズ（SCL>85.4cm）のアカウミガメは 40 個体おり、そのうち雌が 20 個体であった。この 20 個体のうち、永田地区に上陸・産卵したのは 9 個体 45.0% であった。このことは、熊野定置周辺に来遊したアカウミガメ成熟雌の半数近くが屋久島の永田地区を産卵場所としていることを示唆している。一方で、種子島や屋久島の永田地区以外の砂浜では夜間の個体識別調査が体系的に行われていないため、標識をつけた個体が上陸していてもわからない。大隅海峡を渡った北側、宮崎県宮崎市の海岸線では、夜間の個体識別調査が行われているが、現在までのところ、熊野定置で標識をつけた個体の再発見情報は無い。屋久島と宮崎はそれぞれ別の産卵集団であるとの遺伝学的な研究結果もあり（Hatase et al., 2002a; Watanabe et al., 2011; Matsuzawa et al., 2016）、熊野定置に入網した成熟雌が九州本土や四国の砂浜で産卵することは少ないと思われる。残りの約半数の成熟雌がどこの砂浜を産卵場所としているのかは明らかではないが、種子島や屋久島の永田地区以外の砂浜で産卵していると推察される。

本研究では放流後の移動経路を調べるため、成熟度を問わずアカウミガメ 8 個体に衛星発信機を装着して追跡した。その後の動きは様々であり、東シナ海、日本海、太平洋のいずれにも移動していた。日本近海での先行研究では和歌山県みなべ町の産卵雌、和歌山県串本町や鹿児島県笠沙町の定置網に入網した雄などが衛星発信機によって回遊経路を追跡されているが（Hatase et al., 2002b, 2002c; Saito et al., 2015; Sakamoto et al., 1997）、それらの個体も西部太平洋や東シナ海、日本海への入り口となる玄界灘沖に回遊している。また、これら先行研究の中で、同一場所から放流・追跡されていても、個体によって回遊先となる摂餌海域が異なることが知られており、本研究結果も回遊ルートや摂餌海域が個体ごとに大きく異なることを示していた。

謝辞

本研究は調査を実施した定置網の所有者である（有）浜山水産の岩下文男氏と乗組員の皆様のご理解とご協力によって実施することができました。調査体制の構築には NPO 法人日本ウミガメ協議会に助力いただきました。水谷志津江

さん, 増山涼子さんはじめ NPO 法人 Turtle Crew のメンバーには様々な面で支えていただきました. ここに深く感謝申し上げます.

引用文献

- Bolten, A.B. 2003. Variation in Sea Turtle Life History Patterns: Neritic vs. Oceanic Developmental Stages. p.243-257. In: Lutz, P, Musick, J, and Wyneken, J (eds.). The Biology of Sea Turtles, Volume II. CRC Press, Boca Raton, Florida.
- Bowen, B.W. and S.A. Karl. 1997. Population Genetics, Phylogeography, and Molecular Evolution. p.29-50. In: Lutz, P.L. and J.A. Musick (eds.). The Biology of Sea Turtles. CRC Press, Boca Raton, Florida.
- Bowen, B.W. and S.A. Karl. 2007. Population genetics and phylogeography of sea turtles. *Mol. Ecol.* 16: 4886–4907.
- Godley, B.J., A.C. Broderick, R. Frauenstein, F. Glen and G. Hays. 2002. Reproductive seasonality and sexual dimorphism in green turtles. *Mar. Ecol. Prog. Ser.* 226: 125–133.
- 畑瀬英男. 2013. ウミガメ類の回遊生態と生活史に関する研究. *日本水産学会誌*, 79: 634–637.
- Hatase, H., M. Kinoshita, T. Bando, N. Kamezaki, K. Sato, Y. Matsuzawa, K. Goto, K. Omuta, Y. Nakashima, H. Takeshita, and W. Sakamoto. 2002a. Population structure of loggerhead turtles, *Caretta caretta*, nesting in Japan: bottlenecks on the Pacific population. *Mar. Biol.* 141: 299–305.
- Hatase, H., Y. Matsuzawa, W. Sakamoto, N. Baba, and I. Miyawaki. 2002b. Pelagic habitat use of an adult Japanese male loggerhead turtle *Caretta caretta* examined by the Argos satellite system. *Fish. Sci.* 68: 945–947.
- Hatase, H., K. Omuta, and K. Tsukamoto. 2010. Oceanic residents, neritic migrants: a possible mechanism underlying foraging dichotomy in adult female loggerhead turtles (*Caretta caretta*). *Mar. Biol.* 157: 1337–1342.
- Hatase, H., K. Omuta, and K. Tsukamoto. 2013. A mechanism that maintains alternative life histories in a loggerhead sea turtle population. *Ecology* 94: 2583–2594.
- Hatase, H., N. Takai, Y. Matsuzawa, W. Sakamoto, K. Omuta, K. Goto, N. Arai, and T. Fujiwara. 2002c. Size-related differences in feeding habitat use of adult female loggerhead turtles *Caretta caretta* around Japan determined by stable isotope analyses and satellite telemetry. *Mar. Ecol. Prog. Ser.* 233: 273–281.
- Hawkes, L.A., A.C. Broderick, M.S. Coyne, M.H. Godfrey, L.-F.F. Lopez-Jurado, P. Lopez-Suarez, S.E. Merino, N. Varo-Cruz, B.J. Godley, L.A. Wawkes, A.C. Broderick, M.S. Coyne, M.H. Godfrey, L.-F.F. Lopez-Jurado, P. Lopez-Suarez, S.E. Merino, N. Varocruz, and B.J. Godley. 2006. Phenotypically linked dichotomy in sea turtles foraging requires multiple conservation approaches. *Curr. Biol.* 16: 990–995.
- 平手康市. 2000. 沖縄近海に出現するウミガメ類集団の種, 性, サイズ組成とその季節変動に関する研究. 修士論文, 琉球大学大学院理工学研究科, 沖縄.
- 平手康市. 2005. 竜宮城への招待. p.173–184. In: 矢野和成 (編) 南の島の自然誌 沖縄と小笠原の海洋生物研究のフィールドから. 東海大学出版会, 神奈川.
- 石原孝. 2012. 生活史—成長と生息場所 p.57-84. 亀崎直樹 (編). ウミガメの自然誌 産卵と回遊の生物学. 東京大学出版会, 東京.
- Ishihara, T., N. Kamezaki, Y. Matsuzawa, F. Iwamoto, T. Oshika, Y. Miyagata, C. Ebisui, and S. Yamashita. 2011. Reentry of juvenile and subadult loggerhead turtles into natal waters of Japan. *Curr. Herpetol.* 30: 63–68.
- 石原孝・亀崎直樹・山崎千亜希・山下傑. 2006. 高知県室戸岬周辺に出現するウミガメ. うみがめニュースレター (70): 14.
- 亀田和成. 2013. 日本におけるアオウミガメの生態. p.23-42. 亀田和成 (編). 日本のアオウミガメ, NPO法人日本ウミガメ協議会, 枚方.
- 亀崎直樹・後藤清・松沢慶将・中島義人・大牟田一美・佐藤克文. 1995. 日本で産卵するアカウミガメのサイズ. うみがめニュースレター (26): 12–13.
- 河津勲・岡部晴菜. 2014. 沖縄島西海域におけるアカウミガメの交尾期. うみがめニュースレター (100): 2–7.
- Kawazu, I., K. Maeda, M. Kino, and S. Oka. 2013. Structure of the loggerhead turtle assemblage in Okinawan waters estimated from variation in body size and blood profile. *Curr. Herpetol.* 32: 190–196.

- Limpus, C.J. and D.J. Limpus. 2001. The loggerhead turtle, *Caretta caretta*, in Queensland: breeding migrations and fidelity to a warm temperate feeding area. *Chelonian Conserv. Biol.* 4: 142-153.
- Limpus, C.J. and D.J. Limpus. 2003. Biology of the Loggerhead Turtle in Western South Pacific Ocean Foraging Areas. p.142-153. In: Bolten, A.B. and Witherington, B.E. (eds.). *Loggerhead Sea Turtles*. Smithsonian Books, Washington, D.C.
- Lohmann, K., C.M.F. Lohmann, J.R. Brothers, and N.F. Putman. 2013. Natal Homing and Imprinting in Sea Turtles. p.59-77. In: Wyneken, J., K.J. Lohmann and J.A. Musick (eds.). *Biology of Sea Turtles*. CRC Press, Boca Raton, Florida.
- Matsuzawa, Y., N. Kamezaki, T. Ishihara., K. Omuta, H. Takeshita, K. Goto, T. Arata, H. Honda, K. Kameda, M. Kashima, Y. Kayo, I. Kawazu, J. Kodama, Y. Kumazawa, K. Kuroyanagi, K. Mizobuchi, K. Mizuno, K. Oki, K.K. Watanabe, A. Yamamoto, Y. Yamashita, T. Yamato, T. Hamabata, A. Ishizaki, and P.H. Dutton, 2016. Fine scale genetic population structure of loggerhead turtles in the northwest pacific. *Endanger. Species Res.* 30: 83-93.
- 松沢慶将. 2012. 繁殖生態—交尾と産卵. p.115-140. 亀崎直樹 (編). *ウミガメの自然誌産卵と回遊の生物学*, 東京大学出版会, 東京.
- Miller, J.D. 1997. Reproduction in Sea Turtles. p.51-81. In: Lutz, P., J.A. Musick and J. Wyneken (eds.). *CRC Press*, Boca Raton, Florida.
- 宮脇逸朗. 1994. 和歌山県串本町地先で捕獲されたウミガメ類とその直甲長について. P.75-80. 亀崎直樹・藪田慎司・菅沼弘行 (編). *日本のアカウミガメの産卵と砂浜環境の現状*, 日本ウミガメ協議会, 大阪.
- Narazaki, T. 2009. Diving behaviour of loggerhead turtles, *Caretta caretta*, migrating to the Northern Pacific coast of Japan. Ph.D. Thesis. University of Tokyo, Tokyo. 129pp.
- 西隆一郎・大牟田一美. 2013. アカウミガメの産卵地固執性調査および子ガメの脱出モニタリング手法の開発. *鹿児島大学総合研究博物館 News Letter* 33: 20-22.
- 岡本慶・石原孝・谷口真理・山下訓右・亀崎直樹. 2011. 熊野灘沿岸に出現するウミガメ類. *うみがめニュースレター* (88): 13-17.
- 興克樹. 2001. アカウミガメの交尾の観察例. *うみがめニュースレター* (50): 20-21.
- Plotkin, P. 2003. Adult Migrations and Habitat Use In: Lutz, P, Musick, JA, and Wyneken, J (eds.). *The Biology of Sea Turtles, Volume II*. CRC Press, Boca Raton, Florida.
- 齋藤晃司. 2009. アカウミガメ産卵前個体の摂餌特性. 卒業論文, 東海大学海洋学部, 静岡. 25pp.
- 齋藤晃司・横地洋之・石原孝・亀崎直樹・岩本太志・山下傑. 2008. 室戸近海におけるアカウミガメの卵を持つ雌と持たない雌の摂餌量. *うみがめニュースレター* (78): 23-24.
- Saito, T., M. Kurita, H. Okamoto, I. Uchida, D. Parker, and G. Balazs. 2015. Tracking male loggerhead turtle migrations around southwestern Japan using satellite telemetry. *Chelonian Conserv. Biol.* 14: 82-87.
- Sakamoto, W., T. Bando, N. Arai, and N. Baba. 1997. Migration paths of the adult female and male loggerhead turtles *Caretta caretta* determined through satellite telemetry. *Fish. Sci.* 63: 547-552.
- 立川浩之. 1991. 小笠原産成熟アオウミガメの甲長と体重. *うみがめニュースレター* (8): 7-10.
- 武内有加. 2008. 鹿児島県野間池沿岸におけるアオウミガメ (*Chelonia mydas*) の個体群構造とその季節変動. 修士論文, 鹿児島大学大学院理工学研究科, 鹿児島. 67pp.
- 田中秀二・佐藤克文・松沢慶将・坂本亘・内藤靖彦・黒柳賢治. 1995. 胃内温変化からみた産卵期アカウミガメの摂餌. *日本水産学会誌* 61: 339-345.
- 谷口真理・亀崎直樹. 2011. 熊野灘に出現するウミガメ類. *南紀生物* 53: 65-67.
- 上野真太郎・笹井隆秀・石原孝・谷口真理・三根佳奈子・亀崎直樹. 2014. 日本に産するカメ類の食性 (総説). *爬虫両棲類学会報*, 2014: 146-158.
- Watanabe, K.K., H. Hatase, M. Kinoshita, K. Omuta, T. Bando, N. Kamezaki, K. Sato, Y. Matsushita, K. Goto, Y. Nakashima, H. Takeshita, J. Aoyama, and K. Tsukamoto. 2011. Population structure of the loggerhead turtle, *Caretta caretta*, a large marine carnivore that exhibits alternative foraging behaviors. *Mar. Ecol. Prog. Ser.* 424: 273-283.

沖縄島における右前肢が欠損したヒメウミガメ幼体の漂着

Observation of a stranded pelagic-stage juvenile olive ridley turtle with a missing right front flipper on Okinawa Island, Japan

志村亜理佐¹・真栄田 賢²・井上尚志¹・河津 勲²

Alisa SHIMURA, Ken MAEDA, Naoshi INOUE, and Isao KAWAZU

ヒメウミガメ *Lepidochelys olivacea* はインド洋から太平洋, 大西洋の熱帯海域を中心に分布する(亀崎, 2001; Marquez, 1990). 西部太平洋の産卵地としては, マレーシアやパプアニューギニアが有名であるが(亀崎, 2001), 日本国内における本種の産卵は確認されていない一方で, 本種の混獲や漂着は北海道から南西諸島に至るまで広く確認され(例えば, 亀崎, 2001; 木野・河津, 2014; 菅沼, 1994), 未だ移動生態について不明な点が多く, その解明のためには出現記録の蓄積が重要となる.

2015年1月13日, 沖縄島中部の西海岸に位置する恩納村の瀬良垣海岸で, 右前肢が欠損したウミガメの幼体が漂着した(図1). 筆者の一人である志村がしばらく観察していると動き始め, 海へ放流すると左前肢のみを使って沖へ泳いで行った. さらに, 2015年1月16日, 瀬良垣海岸から北西7kmに位置する名護市喜瀬ビーチにおいて, 右前肢が欠損したウミガメの幼体が漂着した. この個体は衰弱している様子だったことから, 海洋博公園において緊急保護した. Marquez (1990) に基づき外部形態から

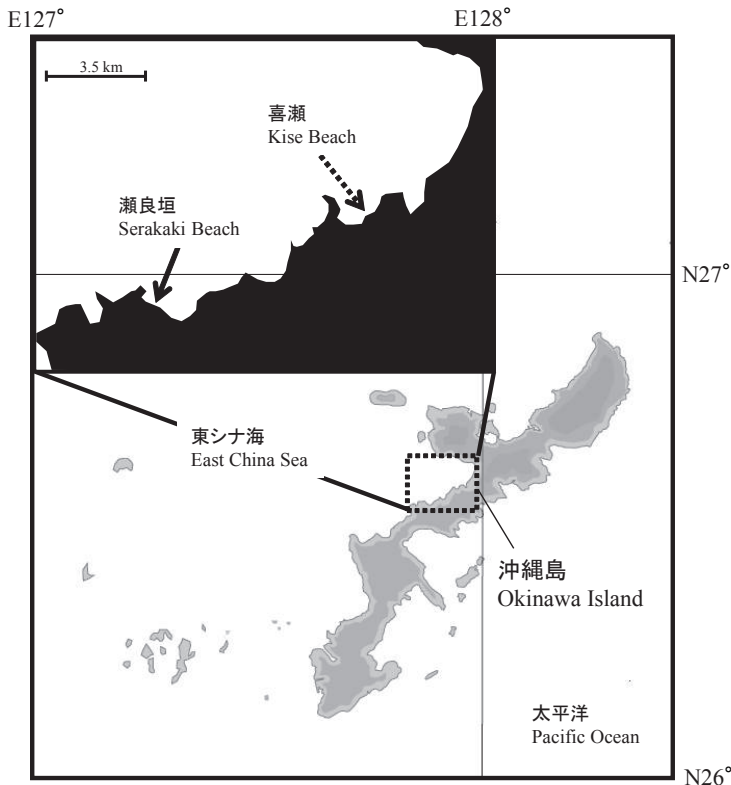


図1 沖縄島の地図と右前肢が欠損したヒメウミガメ幼体が漂着した場所(2本の矢印で示している)

Fig. 1. A map of Okinawa Island, Japan, showing the locations where the early juvenile olive ridley turtle with a missing right front flipper was found stranded (indicated by two arrows).

¹ 恩納読谷ウミガメ調査隊

² 一般財団法人 沖縄美ら島財団 905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川 888 i-kawazu@okichura.jp

同定したところ、本個体はヒメウミガメであることが明らかとなった。さらに、本個体は3日前に瀬良垣海岸で漂着した個体と、目視であるが体サイズや痩せた様子が概ね一致したことや、右前肢が欠損しているという特徴が一致したことから、これらは同一個体と判断した(図2)。海洋博公園にて保護収容した際に計測した本個体の標準直甲長および体重は、それぞれ180 mm, 850 gであった。右前肢の欠損部位に外傷はなく皮膚が完全に再生していたことから、受傷して数ヶ月あるいは数年程度は経過していると考えられた。

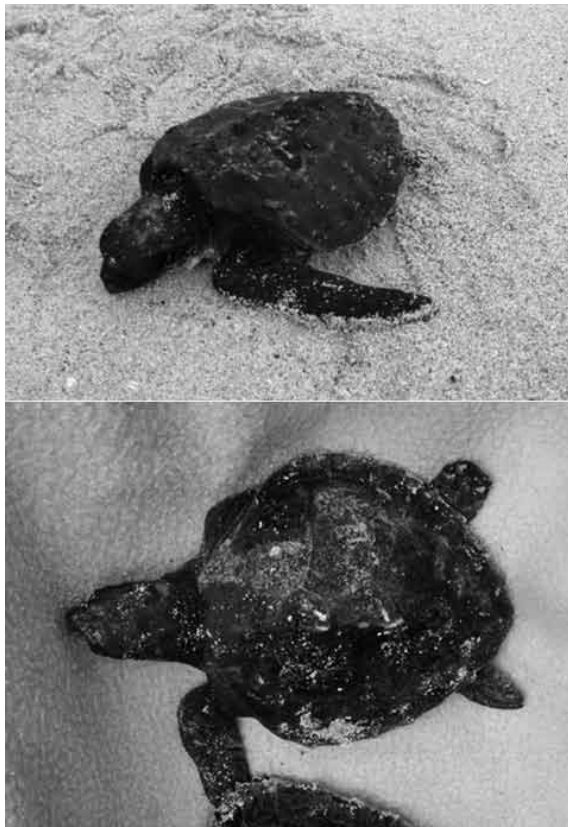


図2 右前肢が欠損したヒメウミガメ幼体の写真。上および下の写真は、それぞれ恩納村瀬良垣および名護市喜瀬で発見された同じヒメウミガメと考えられる。

Fig. 2. Photographs of a stranded early juvenile olive ridley turtle with a missing right front flipper. Upper and lower photographs were taken at the sandy beach of Serakaki (Onna-son) and at Kise (Nago City), respectively, on Okinawa Island, Japan.

ヒメウミガメの未成熟期の生活史は不明な点が多いが(Musick and Limpus, 1997), ふ化直後から外洋に分散し、個体群によって生涯を外洋

で過ごしたり成長した後に沿岸域へ加入したりするとされる(石原, 2012)。日本近海を利用する個体群が沿岸に加入するのかどうか、加入する場合の体サイズがどの程度なのかは明らかでないが、近縁種のケンプヒメウミガメ *Lepidochelys kempii* が沿岸に加入するのは甲長20-25cm (Bjorndal, 1997) 少なくとも本種の産卵地であるオーストラリアでもこのようなサイズの本種幼体は沿岸で確認されていないことから(Limpus et al., 1994), いずれにしても本個体は外洋で分散中の体サイズであると思われる。また、2013年11月4日にも、沖縄島に隣接する屋我地島(沖縄島と橋でつながっている)で甲長135.2 mmの衰弱したヒメウミガメが漂着し、この個体も左前肢の半分が欠損していた(木野・河津, 2014)。これらの個体のように前肢やその一部を失ったウミガメ類の遊泳能力や、索餌および摂餌に関わる能力が著しく低下することは、容易に想像できる。このことが原因で外洋生活を送るべきサイズの個体が沿岸に漂着したものであると思われる。

特筆すべきは、木野・河津(2014)の報告を含め、ここ数年の間に沖縄島周辺において前肢が欠損したヒメウミガメ幼体の漂着が2例もあったことである。今回のように、沖縄島で前肢が欠損したウミガメ類が緊急保護されることはほとんどなく、さらにはヒメウミガメが発見されることも稀である(河津, 未発表)。西部北太平洋におけるヒメウミガメの産卵地は、主にマレーシアやパプアニューギニアに分布し(亀崎, 2001), これらが沖縄島から最も近い大きな産卵地となっている。漂着したヒメウミガメの幼体がこれらの産卵地を起源に持つ可能性が考えられるが、実際のところはよく分かっていない。この証明のためにはミトコンドリアDNA分析による出生地の推定が必要で、それによってヒメウミガメの外洋への分散過程や移動生態が明らかになっていくことを期待したい。

謝辞

本個体の漂着情報を頂いた沖縄県民の方々には深く感謝の意を表します。

引用文献

Bjorndal, K. A. 1997. Foraging ecology and nutrition of sea turtles. p. 199–231. In: P. L. Lutz and J. A. Musick (eds.). *The Biology of Sea Turtles*: CRC press, Boca Raton, Florida.

- 石原孝 . 2012. 第 3 章 生活史-成長と生活場所 . p. 57-83. 亀崎直樹 (編) . ウミガメの自然史 . 東京大学出版会 . 東京
- 亀崎直樹 . 2001. ヒメウミガメ . p. 94-97, 小原秀雄・太田英利・浦本昌紀・松井正文 (編) 動物世界遺産レッド・データ・アニマルズ (2) -アマゾン . 講談社, 東京 .
- 木野将克・河津勲 . 2014. 沖縄県屋我地島に漂着したヒメウミガメ *Lepidochelys olivacea* の幼体 . うみがめニュースレター 100: 7-11.
- Limpus, C. J., T. A. Walker, and J. West. 1994. Post-hatchling specimens and records from the Australian Region. p. 86-91. In: R. James (Comp.). Proceedings of the Marine Turtle Conservation Workshop. Australian National Parks and Wildlife Service, Canberra.
- Marquez, R. 1990. FAO species catalogue Vol.11: Sea turtles of the world. FAO Fisheries Synopsis No. 125. FAO, Rome. p. 81.
- Musick, J. A. and C. J. Limpus. 1997. Habitat utilization and migration in juvenile sea turtles. p. 137-163. In: P. L. Lutz and J. A. Musick (eds.) The Biology of Sea Turtles. CRC press, Boca Raton, Florida.
- 菅沼弘行 . 1994. ヒメウミガメ . p. 507-518. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (I) . 水産資源保護協会, 東京 .

SUMMARY

An early juvenile olive ridley turtle with a missing right front flipper was stranded on the sandy beach of Serakaki, Onna-son, Okinawa Island, Japan, on January 13, 2015, and was subsequently released. Three days later, this turtle was stranded at Kise Beach, Nago City, Okinawa Island. Straight carapace length and body weight of the turtle were 180 mm and 850 g, respectively. To our knowledge, this is the first recorded observation of a stranded pelagic-stage juvenile olive ridley turtle with a missing right front flipper on Okinawa Island.

西表島ウブ浜とサザレ浜におけるアオウミガメの上陸状況とその脅威について

Green turtle track trends and possible nesting threats in Ubu and Sazare hama (Iriomote Island, Japan) from 1984 to 2016.

亀田 和成¹・若月 元樹¹・岩瀬 文人²・黒柳 賢治³・島 達也⁴
近藤 鉄也³・御前 洋⁵・浅井 康行³・佐藤 文宏³・小寺 昌彦⁶・亀崎 直樹⁷

Kazunari KAMEDA, Motoki WAKATSUKI, Fumihito IWASE, Kenji KUROYANAGI, Tatsuya SHIMA, Tetsuya KONDO, Hiroshi MISAKI, Yasuyuki ASAI, Fumihiko SATO, Yoshihiko KOTERA, and Naoki KAMEZAKI

はじめに

アオウミガメ *Chelonia mydas* は、世界各地で食用として利用され大きく数を減らした歴史がある (Frazier, 2003; Chaloupka and Balazs, 2007). このため世界各地で保護対策が実施され、現在では世界的に産卵数が増加している (Chaloupka et al., 2008 など).

我が国ではアオウミガメの産卵地は小笠原諸島と南西諸島に2分される。このうち、小笠原諸島では、精力的なモニタリング調査が実施され、アオウミガメの産卵数の増加が確認されている (山口ほか, 2005). もう一方の南西諸島では、座間味島ニタ浜、奄美諸島の請島・与路島、石垣島の伊原間、西表島のウブ浜・サザレ浜な

¹ NPO 法人日本ウミガメ協議会附属黒島研究所 e-mail: Kuroshima@umigame.org

² 四国海と生き物研究室

³ 南知多ビーチランド

⁴ オーピーバイオファクトリー株式会社

⁵ サンゴを食害する動物駆除実行委員会

⁶ 串本海中公園センター

⁷ 岡山理科大学 生物地球学部

どがアオウミガメの主要な産卵地として知られている (Kamezaki, 1989; 興・水野, 2013). このうち、石垣島伊原間でも精度の高い調査が実施され、アオウミガメの産卵回数が増加していることが明らかになっている (Abe et al., 2004). しかしながら、その他の産卵地では、陸路が無い、もしくは崖をおりなければ到達できない位置にあり、正確な上陸・産卵回数の実数の把握は困難である。

西表島の南岸に位置するウブ浜とサザレ浜は、南西諸島で屈指のアオウミガメの産卵地として知られている (亀崎, 1991) (図 1). 砂浜の延長はウブ浜 350m, サザレ浜 600m 程度である。陸路がなく、沖に船を停泊し泳いで上陸する必要があるため、荒天時には調査できない (図 2). 特に 7-9 月は、台風の襲来が多く調査が困難である。黒島研究所では旧八重山海中公園センターの時代である 1984 年から定期的に調査を実施しているが、周年を通して調査した年があれば、調査そのものできない年など、調査の回数にばらつきがある。また、黒島から本調査地への移動は、船で片道 2 時間ほどかかる。現場では多数の産卵痕跡があるにも関わらず、移動に時間がかかり産卵巣を探索する時間がない。このため、年によっては上陸数のみをカウントし、他の産卵地で行われているような一年間の産卵回数で経年変化を比較できない状況にある。そこで、本報では周年を通じた調査年度からウブ浜とサザレ浜の上陸・産卵のピークを推定し、ピーク時における 1 回の調査で確認される上陸数から、アオウミガメの産卵状況の推移を検討した。

方法

黒島研究所では 1984 年から西表島南岸のウブ浜とサザレ浜でモニタリング調査を実施している。公開されている出版物としては、Kamezaki (1989), 亀崎 (1991), 亀崎 (1994), 環境省 (1992), 沖縄県教育委員会 (2001), 近藤・小寺 (2001) などがある。本報では、これらの文献を引用するとともに、黒島研究所に保管されている未発表データもとりまとめた。

八重山諸島ではアカウミガメ *Caretta caretta*, アオウミガメ, タイマイ *Eretmochelys imbricata* の 3 種が産卵する (宮脇, 1981). 上陸痕跡からの種の判別は、アカウミガメとタイマイはクロールのように前足を交互に出して進むのに対して、アオウミガメはバタフライのように両方

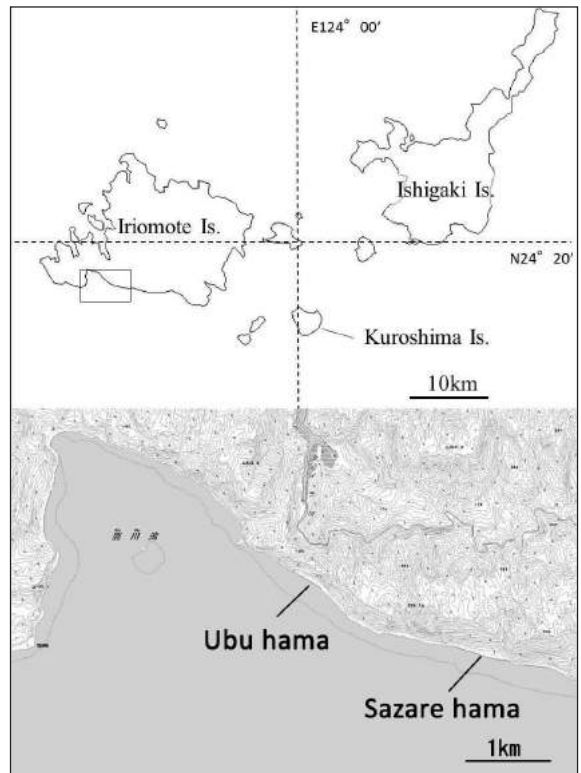


図 1. 八重山諸島におけるウブ浜とサザレ浜の位置 (国土地理院発行 25000 分の 1 を改変)

Figure 1. Location of Ubu hama and Sazare hama in Yaeyama Islands



図 2. 船上からみたサザレ浜。陸路がないため、船から泳いで上陸する

Figure 2. Sazare hama: Sazare and Ubu hama can not be accessed from land. Researchers have to swim from the ship to research those two areas.

前足を同時出して進むため識別は容易である。また、上陸痕跡のカウントは、砂の中の産卵巣を探す場合と異なり、砂の表面にある足跡を数

えるだけである。このため、人員の数による探索率に違いはない。

過年度のデータを比較するにあたって、下記を前提とした。

1. アオウミガメの産卵シーズンのピークにおける、一回あたりの調査で確認された上陸痕跡の数（以下、上陸数）を比較にもちいた。ウミガメの上陸痕跡は、天候にもよるが、概ね2週間は残る。このため上陸数は、2週間以上間をあけて調査された場合をもちいた。

2. 産卵のピークを推定するための年度として、周年を通して2週間もしくは1月間毎に調査され、かつ、調査回数が10回以上の2000年・2001年・2010年・2011年の4年間を用いた。

3. 上記2の結果より、産卵のピークは7月もしくは8月であった（下記、結果を参照）。7・8月の両月ともに調査している、もしくは、7・8月の間に複数回調査している場合は、その平均値を一回当たりの上陸数とした。なお、全ての調査間隔は2週間以上経過している。7・8月に調査を実施していない場合は、6月もしくは9月の調査のうち、どちらか産卵数の多い月の一回当たりの上陸数を用いた。

4. 1984年から1988年のデータは、Kamezaki (1989)を引用した。しかしながら、Kamezaki (1989)には産卵痕跡のみが記され、上陸数の記載がない。このため、2と同様の4年間における産卵数 / 上陸数の割合である44.1%（下記、結果を参照）を産卵痕跡数に除して上陸数を推定した。

結果

1984-2016年の期間に91回の調査を実施した（表1）。1989年、1993年、1994年、2005年、2007年の5年間は調査記録がなかった。また、2002年と2004年は調査回数が不明であった。確認されたアオウミガメのべ上陸数は1,567回、産卵回数は635回であった。なお、痕跡が古いために種の判別ができなかった上陸痕跡は除いている。

2000年・2011年・2010年・2011年における月ごとのアオウミガメの上陸痕跡数を図3に示す。年によって異なるものの、アオウミガメの上陸シーズンは5月から9月までであった（図3）。2000年と2010年は7月、2001年と2011年は8月に最も上陸痕跡が多く確認された。この4年間で確認されたのべ産卵回数は199回、上

陸数は451で、産卵成功率（産卵回数 / 上陸数）は44.1%であった。

7月もしくは8月において調査1回あたりで確認された上陸数の推移を図4に示す。1987年、1995年、2006年は7月もしくは8月に調査を実施していないため、1987年は6月、1995年、1996年、2006年は9月の上陸数を用いた（白い棒で示す）。西表島と同じ八重山諸島に属する石垣島においてアオウミガメの産卵回帰のピークは4年である(Abe et al., 2004)。このため、図4には4年間の移動平均を加えた。なお、この移動平均は、調査を実施しなかった年の上陸数は、前年と同じと仮定している。上陸数の移動平均は、80年代には30-40回であったが、90年代から2005年までは10-30回に減少した。2006年以降は増加し、2012年以降は60-70回となった。

考察

アオウミガメの産卵数は、年変動が大きいことが知られている(Chalopuka et al., 2008)。また、八重山諸島と同じ太平洋西部の亜熱帯域に属する小笠原諸島や台湾では、産卵期は5月から8月である(菅沼ら, 1994; Cheng et al., 2009)。本調査地においてもアオウミガメの上陸数は、各年による増減が大きかった(図4)。アオウミガメの上陸は5月から始まり9月に終了していた(図3)。上陸数は7・8月に最も多く確認されたが、本調査は痕跡調査であるため、実際の上陸のピークは6月末から7月と推測される。また、アオウミガメの産卵成功率は、同じ八重山諸島に属する黒島西の浜では43.5% (亀田ら, 2007)、小笠原諸島では40-50%である(菅沼, 1994)。本調査から推定された産卵成功率は44.1%であった。すなわち、年変動が大きい、産卵のシーズンが5-9月、産卵成功率40%代であることについては他の産卵地と同様であった。

2012年以降は産卵シーズンに1回の調査で60回ほどの上陸数を記録している(図4)。両砂浜を合せた延長は950mであるため、仮に上陸痕跡が等間隔に並んでいれば約15m (950m÷60回)の間隔で上陸痕跡がある計算となる。実際のウブ浜の写真からも、高密度で上陸痕跡があることがわかる(図5)。また、2週間分の上陸痕跡が残っていたとすれば、一晚の平均的な上陸数は4.3回(上陸60回÷14日)と考えられる。著者の亀田は、2006年から

表 1. サザレ浜とウブ浜におけるアオウミガメの上陸・産卵状況
Table 1. Number of green turtle nests and track on Sazare beach and Ubu beach

Year	IR-5(Sazare hama)		IR-6(Ubu hama)		Total		Number of Survey times	Reference
	Track	Nest	Track	Nest	Track	Nest		
1984	-	0	-	0	-	0	1	Kamezaki (1989)
1985	-	3	-	0	-	3	2	Kamezaki (1989)
1986	-	14	-	28	-	42	1	Kamezaki (1989)
1987	-	1	-	0	-	1	2	Kamezaki (1989)
1988	-	15	-	6	-	21	1	Kamezaki (1989)
1989	-	-	-	-	-	-	-	
1990	5	1	6	1	11	2	5	
1991	21	-	19	-	40	-	1	
1992	6	-	6	-	12	-	5	
1993	-	-	-	-	-	-	-	
1994	-	-	-	-	-	-	-	
1995	6	-	0	-	7	0	1	
1996	6	-	1	-	7	-	1	
1997	17	-	17	-	34	-	1	
1998	13	3	18	-	31	3	2	
1999	5	1	4	1	9	2	1	
2000	35	14	40	13	75	27	13	近藤・小寺 (2001)
2001	29	9	16	5	45	14	12	
2002	45	3	49	4	94	7	unknown	
2003	18	3	8	5	26	8	4	
2004	27	-	30	3	57	-	unknown	
2005	-	-	-	-	-	-	-	
2006	28	-	12	-	40	-	1	
2007	-	-	-	-	-	-	-	
2008	13	-	12	-	25	-	1	
2009	65	-	37	15	102	-	2	
2010	96	56	52	34	148	90	10	
2011	130	48	52	19	182	67	10	
2012	125	45	112	50	237	95	3	
2013	39	22	45	39	84	61	3	
2014	65	31	43	32	108	63	7	
2015	85	49	18	12	103	61	2	
2016	55	44	35	24	90	68	1	

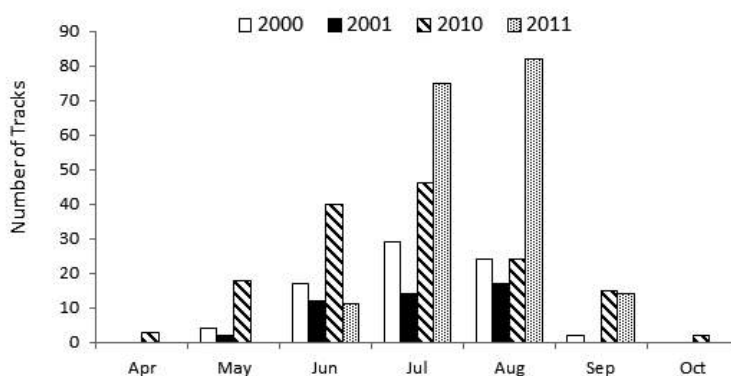


図 3. 月ごとのウブ浜とサザレ浜を合計したアオウミガメの上陸数
Figure 3. Number of green turtle tracks by month on Ubu hama and Sazare hama in 2000, 2001, 2010 and 2011.

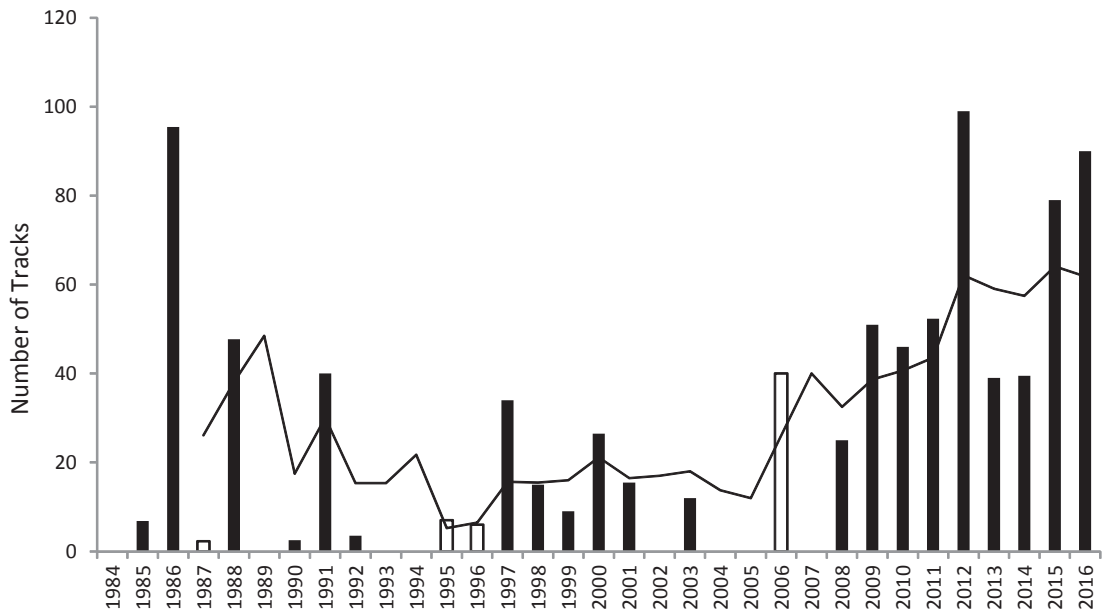


図4. アオウミガメの上陸数の推移. 7・8月の一回当たりの調査による. 白い棒で示した1995年・1996年・2006年は6月もしくは9月の上陸数. 近似曲線は4年間移動平均

Figure 4. Number of estimate tracks per one survey on July or August in 1984-2016.

White bar is date of June or September, not July and August. Line: Simple moving average of 4 year.

2009年にかけて亀崎(1991)に記載されている八重山諸島の主要なウミガメ産卵地約50カ所、2014年から2016年までに沖縄島の産卵地30カ所を訪れているが、本調査地ほどアオウミガメの上陸密度が高いところを知らない。沖縄県教育委員会(2001)以降の16年間、沖縄県全域での定量的な調査は実施されていないが、現在もウブ浜とサザレ浜は沖縄県内で屈指のアオウミガメの産卵地と考えられる。

一回当たりの調査で確認される上陸数は、2006年以降に徐々に増加していた(図4)。また、本調査地では、天候にも左右されるが、上陸痕跡は2週間から1か月間ほど残る。2000年・2001年・2010年・2011年は、調査を2週間ごとに実施しているため、実際の上陸数に近いと考えられる。この4年間を2分して比較すると、2000年と2001年はのべ上陸120回に対して、2010年と2011年はのべ上陸330回と約2.7倍であった(表1)。これらのことは、西表島南岸においてアオウミガメの上陸数が増加していることを支持している。産卵のために上陸したウミガメは、人の気配や人為的な灯り、砂質が砂利などで産卵する穴を掘り難いと産卵せずに海へ戻る。このような砂浜は何度も上陸を繰り返すため、産卵数の割に上陸数が増える。本調

査地においては調査を開始した1980年から現在をとおして、人為的な構造物が設置されておらず、人の出入りが急に増えた様子はない。また、八重山諸島の他の産卵地が荒廃したために自然の残る本調査地にアオウミガメが集まった可能性は、石垣島では全体にアオウミガメの産卵が増加傾向にあること(Abe et al., 2004)、西表島の他のアオウミガメの産卵地が荒廃した事例がないことから否定される。したがって、2006年以降の上陸数の増加は、砂浜環境の悪化ではなく、産卵にくる母ガメの個体数が増えたものと推察される。

アオウミガメの個体数の増加の主な原因として、主にウミガメ漁が衰退したことが考えられる。2004年までは素潜りによるウミガメ漁がおこなわれ、年間に100頭以上のアオウミガメが捕獲されていた。ウミガメ漁は、主に未成熟個体を対象としていたが、年に数頭は成熟した個体も捕獲していた。アオウミガメは年間に平均5.7回ほどの産卵をする(Cheng et al., 2010)。このため、2010年にはウブ浜とサザレ浜では90回の産卵を確認しているが、母ガメの数にすれば約16個体でしかない。年に数頭の捕獲でも産卵個体群に影響を与えていたと考えられる。さらに、八重山諸島にいる未成熟のアオウ

ミガメは西表島で生まれた個体の割合も多い (Nishizawa et al., 2013). このため、当時の未成熟個体が成熟して産卵に加入していることも考えられる。



図5. ウブ浜における上陸痕跡の状況 (2012年8月19日撮影)

Figure 5. Green turtle tracks on Ubu hama in Aug-19, 2012.

脅威について

八重山諸島では、上記のウミガメ漁だけでなく、ウミガメ卵も食用とされていた。2000年頃までは恒常的に盗掘が行われていた (近藤・小寺, 2001)。しかしながら、2005年以降はウミガメ卵の盗掘は確認されておらず、盗掘の脅威は無くなったといえる。一方で、西表島では以前からキャンプを楽しむ人がおり、ウミガメへの影響が問題視されてきた (近藤・小寺, 2001)。現在でも主にサザレ浜において度々キャンパーを確認している。野営中に焚火をしていたキャンパーに話を聞くと、実際にウミガメが引き返してしまったという話もあった。本地域は国立公園内にあり本来テントの設置は禁止されているが、現実的には機能していない。現在のところ、キャンパーが急に増えた様子はないが、今後多くの人を訪れるようになれば、利用人数の制限やキャンプサイトを砂浜の特定の位置に決めるなど、利用者と折り合いをつける必要がある。

近年のアオウミガメにとっての大きな脅威として、リュウキュウイノシシ *Sus scrofa riukiuanus* によるウミガメ卵の捕食があげられる (亀田ら, 2013; 図6)。イノシシによる捕食は2008年に初めて確認された。2010年からイノシシによる捕食数をカウントしているが、その数は2010年60巣 (産卵巣数全体の66%)、

2011年22巣 (32%)、2012年30巣 (31%)、2013年35巣 (57%)、2014年43巣 (68%)、2015年54巣 (88%)、2016年65巣 (95%)であり、近7年では平均61%の産卵巣が捕食されている。イノシシによって掘り返された産卵巣は全ての卵が捕食されており、ふ化が期待できるものはない (笹井ら, 印刷中)。

アオウミガメは近い産卵地でも遺伝的に異なることがある (Cheng et al., 2008)。この西表島南岸の産卵個体群も同じ八重山諸島に属する石垣島とは遺伝的に異なる (Nishizawa et al., 2011)。すなわち、アオウミガメは生まれた地域に戻って産卵する可能性があることから、ウブ浜とサザレ浜で生まれたアオウミガメは再びウブ浜とサザレ浜に戻って来る可能性がある。そして、アオウミガメの成熟年齢が約20-40年ほどである (Balazs et al., 2015)。これらのことを踏まえると、今後イノシシによるウミガメ卵の捕食が継続すれば、20年後以降に、西表島南岸の産卵個体群が減少する可能性がある。



図6. ウミガメの産卵巣を探すリュウキュウイノシシ
Figure 6. Wild boar was foraging to sea turtle nest.

謝辞

本調査は、1989-1991年環境省、1992-1996年竹富町、1998-2000年沖縄県教育委員会、2001-2002年経団連自然保護基金、2010-2011年一般財団法人沖縄美ら島財団、2014年沖縄海邦銀行の支援を得て実施された。また、串本海中公園の野村恵一氏、森美枝氏、須磨海浜水族園の柏原正尚氏、重井明男氏には八重山海中公園センター時代に調査にご協力頂いた。英文の作成と校閲については東京大学大学院農学生命科学研究科の高瀬麻以氏にご協力頂いた。そ

して、現地での調査は、当研究所に来所した多くの学生らやボランティアの方にご協力頂いた。本来ならば、学生、ボランティアの方々も一人ずつお名前を挙げるべきであるが、研究所の歴史は長く、第一著者である亀田の把握していない方々も多い。割愛させて頂くことをどうかお許し頂きたい。

引用

- Abe, O., T. Shibuno, Y. Takada, K. Hashimoto, S. Tanizaki, H. Ishii, Y. Funakura, K. Sano, and Y. Okamura. 2004. Nesting populations of sea turtle in Ishigaki Island, Okinawa. Proceeding of the 4th Sea Star 2000, Work Shop. 40-43.
- Balazs, G.H., K. S. Van Houtan, S. A. Hargrove, S. M. Brunson, and S. K. K. Murakawa. 2015. A Review of the Demographic Features of Hawaiian Green Turtles (*Chelonia mydas*). *Chelonian Conservation and Biology*, 14(2): 119-129
- Chaloupka, M. and G. H. Balazs. 2007. Using Bayesian state-space modelling to assess the recovery and harvest potential of the Hawaiian green sea turtle stock. *Ecological Modelling* (205): 93-109.
- Chaloupka, M., K.A. Bjondal, G.H. Balazs, and A. B. Bolten, L. M. Ehrhart, C.J. Limpus, H. Suganuma, S. Troëng, M. Yamaguchi. 2008. Encouraging outlook for recovery of a once severely exploited marine megaherbivore. *Global Ecology and Biogeography* (17):297-304.
- Cheng, I. J., P. H. Dutton, C. L.Chen, H. C. Chen, Y. H. Chen, and J. W. Shea. 2008. Comparison of the genetics and nesting ecology of two green turtle rookeries. *Journal of Zoology*. (276): 375-384.
- Cheng, I. J., C. T. Huang, P. Y. Hung, B. Z. Ke, C. W. Kuo, and C. L. Fong. 2009. Ten Years of Monitoring the Nesting Ecology of the Green Turtle, *Chelonia mydas*, on Lanyu (Orchid Island), Taiwan. *Zoological Studies* (48): 83-94.
- Frazier, J. 2003. Prehistoric and ancient historic interactions between humans and marine turtles. P.1-38. In: P.L. Lutz, J.A. Musick and J. Wyneken (eds.) *The biology of sea turtles* Vol. 2. CRC Press, Boca Raton, FL.
- 亀田和成・阿部悠・笹井隆秀・伊澤雅子. 2013. 琉球列島におけるリュウキュウイノシシによるウミガメ卵の捕食の記録. うみがめニュースレター (97): 2-8.
- 亀田和成・若月元樹・島達也・成瀬貫・小寺昌彦. 2007. 八重山諸島黒島西の浜における上陸・産卵状況 (2001-2006) ならびに 1978 年以降の上陸・産卵回数の推移. うみがめニュースレター (72): 4-11.
- Kamezaki, N. 1989. The Nesting Sites of Sea Turtle in the Ryukyu Archipelago and Taiwan. *Current Herpetology in East Asia*: 342-348.
- 亀崎直樹. 1991. 琉球列島におけるウミガメ類の産卵場の分布とその評価 (予報). 沖縄生物学会誌 (29): 29-35.
- 亀崎直樹. 1994. 南西諸島のウミガメ類の産卵場. P. 7-15. In: 亀崎直樹・藪田慎司・菅沼弘行 (編). *日本のウミガメ産卵地*. 日本ウミガメ協議会, 大阪.
- 環境省. 1992. 八重山諸島における海洋動物繁殖地等の保全対策検討調査報告書. 環境省自然保護局西表国立公園管理事務所. 石垣市. 87pp.
- 近藤鉄也・小寺昌彦. 2001. 西表島南西部海岸におけるウミガメ類の産卵状況. うみがめニュースレター (47): 2-4.
- 宮脇逸郎. 1981. 八重山列島黒島で産卵するウミガメ類. *海中公園情報* (53): 15-18.
- Nishizawa, H., Y. Naito, H. Suganuma, O. Abe, J. Okuyama, K. Hirate, S. Tanaka, E. Inoguchi, K. Narushima, K. Kobayashi, H. Ishii, S. Tanizaki, M. Kobayashi, A. Goto, and N. Arai. 2013. Composition of green turtle feeding aggregations along the Japanese archipelago: implications for changes in composition with current flow. *Marine Biology*. DOI 10.1007/s00227-013-2261-1
- Nishizawa, H., O. Abe, J. Okuyama, M. Kobayashi, and N. Arai. 2011. Population genetic structure and implications for natal philopatry of nesting green turtles *Chelonia mydas* in the Yaeyama Islands, Japan. *Endangered Species Research* (14): 141-148.
- 興克樹・水野康次郎. 2013. 平成 24 年 (2012 年) 奄美大島とその属島におけるウミガメ上陸・産卵全島調査報告. うみがめニュースレター (96): 9-13.
- 沖縄県教育委員会. 2001. ウミガメ類生息実態調査報告書 III. 八重山諸島における調査結果. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第 40 集. 沖縄県教育委員会. 那覇. 102pp.
- 笹井隆秀・亀田和成・伊澤雅子. 印刷中. 西表島南海岸におけるリュウキュウイノシシ *Sus*

scrofa riukiuanus によるウミガメ卵捕食と砂浜利用の季節的变化. 哺乳類科学.

菅沼弘行・立川浩之・佐藤文彦・山口真名美・木村ジョンソン. 1994. 1983-1990年の小笠原諸島・父島列島におけるアオウミガメ (*Chelonia mydas*) の産卵状況. p. 95-102. In: 亀崎直樹・藪田慎司・菅沼弘行 (編). 日本のウミガメ産卵地. 日本ウミガメ協議会, 大阪.

山口真名美・菅沼弘行・鳴島浩二. 2005. 小笠原諸島父島列島で繁殖するアオウミガメ (*Chelonia mydas*) の上陸・産卵状況 (2005) と過去 27 年間の産卵巣数の経年変化. うみがめニューズレター (66) : 2-6.

SUMMARY

Ubu and Sazare hama of Iriomote Island is one of the largest green turtle rookeries in Ryukyu Archipelago. Numbers of nests and turtle tracks of

green turtle in those sites, from 1984 to 2016, were summarized. The main nesting season was from May to September, peaking in late June to July. Nesting success rate was 44.1%. Average of 60 tracks were observed per survey in July and August (from 2012 to 2016). This is equivalent to average of 4.2 landings per night. These numbers imply that Ubu and Sazare hama are one of the most popular green turtle rookeries in Okinawa prefecture. Despite the annual small fluctuation in observed sea turtle tracks after 2006, the overall number gradually increased. Possible reason for this change can be attributed to increase of mother green turtle population due to decline of sea turtle fisheries. Recent threat to sea turtle nests and eggs was predation by wild boars. 61% of nests were dug up from 2010 to 2016. If this trend were to continue, it can have serious effect on number of mature green turtles returning to this area in the future.

2016年ウミガメ速報

A Circular Notice on Sea Turtles in 2016

日本ウミガメ協議会

Sea Turtle Association of Japan

(2016年内に配信されたウミガメ速報を掲載しています。)

■ウミガメ速報16 -1(1/1)

あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年は、全国的にアカウミガメの少子化が問題となりましたが、当会事務局では結婚、出産と祝い事が続きました。そのため、戦力不足気味で、関係者の皆様方には何かとご不便ご迷惑をおかけいたしました。改めてお詫び申し上げます。また、そのような中でも、引き続き全国の産卵・ストランディング・標識調査のとりまとめ、混獲調査、黒島研究所の運営、第26回日本ウミガメ会議（一宮会議）の開催、定置網脱出装置の開発のほか、種子島での産卵個体識別調査など新しい取り組みも挑み成果を上げることができましたのは、職員の奮闘はさることながら、当会の理念と活動にご理解ご賛同いただき、変らぬご支援ご協力をくださった皆様方のご厚情の賜物です。心から厚く御礼申し上げます。近年、各地で調査を牽引されてきた大先輩達が一人また一人と引退されていく中、蓄積されてきた知恵とデータを世に残すことと、後継者育成、

世代交代は急務です。私どもは、先輩達から引き継いだバトンを実に次代に受け渡せるよう、今年も初心を忘れず、真摯に汗をかいていく所存です。引き続きご支援ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。なお、今年のウミガメ会議は、12月9-11日に高知県室戸市に開催いたします。大勢の皆様にご参加いただきたく思います。今から手帳にご記入いただきますよう、宜しくお願いします。2016年丙申の年が、ウミガメと取り巻く自然環境、そして関係者の皆様方にとって良い年となりますことをお祈り申し上げます。日本ウミガメ協議会会長 松沢慶将

理科授業「ロケット打上げとウミガメのつながり」で参加者募集中

三菱重工グループは、アカウミガメの一大産卵地である種子島の宇宙センターからロケットを打ち上げていますが、生物多様性の保全を目的として、2015年から地元団体「Turtle Crew」との連携による日本ウミガメ協議会の保全調査を支援していただいています。今回の理科授業では、松沢が、ウミガメの生態と産卵の神秘、絶滅危惧種の決め方、そしてNASAによるウミガメ保全の取組みなどを、ご紹介いたします。小学生から一般の方まで無料でご参加いた

けますので、お近くの方、ぜひお申込みください。

奄美会議招待講演者 ジョージ・バラーズ博士 (米国ハワイ州) より

国際ウミガメ学会の会員になれば、投票できます。世界中のウミガメに関わる人々が参加する、国際ウミガメ学会には下のウェブサイトから簡単に会員登録が可能です。日本ウミガメ協議会のホームページにも図解しています。個人的には、2018年に日本の神戸で国際シンポジウムが開催されることになれば、これほど素晴らしいことはありません。ちなみに、2017年のシンポジウムは米国ネバダ州ラスベガスで開催です。

■ウミガメ速報16-2 (1/14)

事務局より番組のお知らせ

1月16日(土) 14:20~16:00に、テレビ朝日の人気番組「林修の今でしょ!講座」のスペシャル版で東京大学大気海洋研究所教授佐藤克文さんが出演します。アカウミガメが外洋でどのようにしてエサをとるか、貴重な映像とともにわかりやすく解説します。昨年、12月8日には放送されていない内容もたくさんです。どうぞ、お見逃しなく。なお、テロップ・ナレーションの監修は前回同様、当会会長の松沢が担当しました。

神奈川県 エバーラスティングネイチャー 井ノ口 栄美 様 より(12/28)

沖縄でのストランディング情報がありました。連絡者: オキナワマリリサーチセンター、漂着場所: 沖縄県国頭郡恩納村山田3425-2ルネッサンスリゾートオキナワ内、発見日時: 2015/12/28 12:10、種類: アオウミガメ、その他(漂着場所の目印など): 体重5kg、甲長44.6cm、甲幅38.1cm、外部損傷なし。

石川県 のとじま水族館 池口 新一郎 様 より(12/31)

ウミガメの混獲情報がありましたので、お知らせします。発見年月日: 2015.12.21、場所: 石川県鳳珠郡能登町 波並大敷、種: アカウミガメ、目測甲長: 約20cm、生死: 生、処置: 放流、備考: 他1個体は死亡していた。

福岡県 福津市うみがめ課 大藤 孝基 様 より(1/7)

昨年12月25日に、本市福岡海岸にてアカウミガメのストランディングがありましたので報告いたします。発見日時: 平成27年12月25日(金) 15時30分頃、発見現場: 福岡県福津市福岡海岸、発見者: 福津市民、確認日時: 平成27年12月25日(金)16時00分ころ、種: アカウミガメ、性別: 不明、標準直甲長: 913mm、直甲幅、610mm、タグ: 無、フジツボ: 無、外傷: 有

兵庫県 神戸市立須磨海浜水族園 石原 孝 様 より(1/7)

一昨日、南あわじ市の定置網でアオウミガメが混獲死しているとの連絡をいただき、昨日引取り、本日解剖を行いましたのでお知らせいたします。また、

昨年11月20日にも生きたアオウミガメが獲れたとの連絡がありました。複数の網を操業されていますので、同じ網かどうかは不明です。1件目 種: アオウミガメ、発見日: 2015.11.20、発見場所: 兵庫県南あわじ市土生漁港、連絡者: 西野恵介氏、状況: 西野氏が操業する底定置にて混獲。生存。処置: 神戸市立須磨海浜水族園にて引取り。暖くなる時期を待つか、神戸空港のラグーンでリハビリをさせた後に放流予定。個体情報: 標準直甲長45.2cm、最小直甲長44.7cm、直甲幅34.7cm。性別不明。2件目 種: アオウミガメ、発見日: 2016.1.5、発見場所: 兵庫県南あわじ市土生漁港、連絡者: 西野恵介氏、状況: 西野氏が操業する底定置にて混獲。死亡。処置: 神戸市立須磨海浜水族園にて引取り解剖 (1/7) 個体情報: 標準直甲長44.0cm、最小直甲長43.0cm、直甲幅38.1cm、体重11.46kg。未成熟の雄と判別。胃には若干の内容物(海藻および消化済みの肉片?)

沖縄県 環境省西表自然保護官事務所 日名 耕司 様 より(1/12)

ウミガメの漂着個体(死亡)2体分が発見されたので報告します。1個体目 発見日: 2016.1.10、発見者: 関東準之助(西表野生生物保護センター職員)、場所: 西表島ホネラ海岸、種別: アオウミガメ、備考: ほぼ骨だけの状態で未計測、小さな個体。2個体目 発見日: 2016.1.10、発見者: 関東準之助(西表野生生物保護センター職員)、場所: 西表島ホネラ海岸、種別: アオウミガメ、備考: ほぼ骨だけの状態で未計測、小さな個体。事務局より: いただいた写真には打ち上がってから時間が経ったとみられるアオウミガメが写っていました。

■ウミガメ速報16-3 (4/2)

砂浜が気になる季節になりましたが、まだ 初産卵の情報はありません。皆様のフィールドで、すでに上陸しているなら、是非お知らせください。

和歌山県 みなべ町教育委員会 前田 一樹 様 より(1/14)

みなべ町千里浜にて、甲長約40cmのアオウミガメのストランディングを発見しました。

環境省 西表野生生物自然保護センター 日名 耕司 様 より(1/14)

ウミガメの漂着個体(死亡)が発見されたので報告します。種がはっきり分からないので、可能なら判別してもらってもいいですか? 発見日:

2015.12.19 11:54 発見者: 関東準之助(西表野生生物保護センター職員) 場所: ユツンの浜 種別: アカウミガメ 位置座標: N24° 23' 11.3" E123° 53' 6.2" 最小直甲長: 8.0cm(背甲尾側端欠損のため参考値) 標準直甲幅: 8.0cm、計測方法: ノギス 事務局より: いただいた写真にはアカウミガメの子ガメが写っていました。

神奈川県 エバーラスティングネイチャー 田中 真一 様 より(1/19)

標識が装着されたアカウミガメの漂着がありまし

たので、お知らせいたします。種：アカウミガメ、
発見日：2016年1月15日、調査日：2016年1月15日、
漂着場所：千葉県館山市坂田、標識番号：右後肢
JPN91423、左後肢 JPN91424、標準直甲長：77.8cm、
雌雄：メス、事務局より：この個体は当会戸野基地
から放流したものでした。放流日：2013/4/28、種：
アカウミガメ、放流場所：高知県戸野市椎名、体デ
ータ：標準直甲長760mm標識装着：インコネル
89641、89642/プラタグ 91423、91424

黒島研究所 亀田 和成 より (1/24)

黒島にてアオウミガメの漂着がありましたので報
告します。発見日：2016年1月24日、発見場所：沖縄
県黒島 伊古栈橋周辺、種：アオウミガメ、標準直甲
長390mm、最小直甲長 甲羅欠損のため不明、直甲幅
356mm、状態：腐敗、処置：埋設

匿名の方より (1/24)

沖縄県宮古島パイナガマビーチにてウミガメが漂
着しているのを発見しました。事務局より：いただ
いた写真には甲長60-70cmほどのアオウミガメが写っ
ていました。

匿名の方より (1/28)

沖縄県今帰仁村の村民の浜近くにてウミガメの漂
着がありましたので連絡します。事務局より：いただ
いた写真には大きなオスのアオウミガメが写って
いました。沖縄ちゅら海水族館に対応をお願いします。

匿名の方より (2/5)

初めて海でこのようなウミガメを見つけました。
最初は海を泳いであおるのかと思ったのですが。だ
んだん岩場の方へ近づいてきたので、よく見ると頭
の部分が無く死んでいました。今日も気になったの
で同じ場所に行ってみると波に打ち上げられ岩場
の間に挟まっている状態です。引き上げようにも波が
荒くウミガメ自体もかなり大きいためどうすることも
できません。場所は山口県下関市の日本海側です。
事務局より：写真には漂流しているアオウミガメが
写っていました。

沖縄県 西表野生生物自然保護センター 日名 耕司
様 より (2/10)

ウミガメの漂着個体 (4個体) が発見されたので報
告します。小さい写真ですが、種判別が可能でしたら
ご教授いただければと思います。1：発見日時：
2016.2.4 11:53、発見者：吹抜さん (地元住民)、
場所：高那海岸。2：発見日時：2016.2.7 9:2、
発見者：吹抜さん (地元住民)、場所：野原崎西部海
岸。3：発見日時：2016.2.8 12:47、発見者：吹抜
さん (地元住民)、場所：カサ崎西部海岸。4：発見
日時：2016.2.8 12:58、発見者：吹抜さん (地元住
民)、場所：カサ崎西部海岸。事務局より：いただ
いた写真より全てアオウミガメとわかりました。

徳島県 日和佐うみがめ博物館カレッタ 長楽 美保
様 より (2/10)

カレッタで放流したアカウミガメが高知で再捕さ
れたみたいなので、データを送ります。捕獲日：
2016年2月1日 (場所：徳島県海陽町鞆浦)、放流
日：2016年2月1日 (場所：徳島県海陽那佐)、標準
直甲長677mm。その他情報：尾部にカニ2匹、甲羅に
フジツボ、全体的に黒っぽい、右前肢に傷跡

鹿児島県 岡本 様 より (2/10)

はじめまして、鹿児島県の志布志湾で底引き網漁
をしています。昨日標識の付いたウミガメが網に入
りましたのでとりあえず御一報、以下詳細です。
2016年2月9日19時頃、標識番号：100572、場所：鹿
児島県曾於郡大崎町沖、水深10m付近を曳網した時
に入っていました、生きていたのでそのまま逃がしま
した。漁をしていると季節を問わず年間5~6回くら
いウミガメに遭遇します、標識に気付いたのは今回
が初めてです。(ちなみに5月~6月は志布志湾内が
底引き網漁禁漁になるためその期間は除きます。)
事務局より：この個体は宮崎野生動物研究会と宮崎
大学の学生さんによって放流されたものでした。
2014年6月13日宮崎県宮崎市松崎海岸で産卵した個体
で、大きさは標準直甲長：77.1cm 直甲幅：61.5cmで
す。

山口県 しものせき水族館 井上 美紀 様 より (2/11)

ウミガメのストランディングがありましたのでご
報告いたします。発見日時：2016年2月9日 (火)、
発見場所：山口県下関市綾羅木海水浴場、種類：ア
オウミガメ、状態：腐敗強度。頭部、両前肢、尾部
欠損。助甲数が4枚だったことからおそらくアオウミ
ガメと判断。現地にて埋設。直甲長：75.6cm。尾：
欠損、備考：地元サーファーより当館へ連絡があり、
当館のスタッフが計測、埋設実施。冬に下関で80 c
mほどのサイズはあまり記録がないです。

徳島県 濱直大 様 より (2/14)

こんばんは、美波町の浜です。今日電話しました
ウミガメのストランディングの画像を送りますので、
よろしくお願い致します。発見場所：徳島県海部郡
海陽町の大砂海水浴場、備考：波打ち際だったので、
砂浜の奥 (陸側) に埋めました。事務局より：いただ
いた写真には、甲長40cmほどのアオウミガメが写
っていました。

匿名の方より (2/14)

今日、沖縄県那覇市瀬長島でウミガメの死体を見
つけました。場所は瀬長島のふたてにわかれた道の
左側の駐車場の下にありました。事務局より：琉球
大学ちゅらがーミーの学生さんに調査を依頼しまし
た。なお、いただいた写真には成熟しているとみら
れるオスのアカウミガメが写っていました。

三重県 鳥羽水族館 若林 郁夫 様 より (2/18)

本日、三重県鳥羽市の刺し網にアカウミガメの混
獲があり、右後肢に白のロートタグが装着されてい
ましたので報告いたします。番号はJPN26406です。
よろしくお願ひ申し上げます。なお、個体は死亡し
ており、大きさは標準直甲長695mmでした。事務局よ

り：この個体は日本栽培漁業協会（当時）により放流されたものでした。放流年月：2002年10月（日は不明）、年齢1歳、標準直甲長282.0mm、体重3.5kg、放流場所：沖縄県石垣島の野底

山口県 水産振興課 山根 知樹 様 より (2/19)

本日、ウミガメの死亡個体が発見されましたので、連絡いたします。なお、ウミガメの甲羅長は80cmで、97962の標識が付いていました。事務局より：この個体はのとじま水族館により放流されたものでした。放流日：2015年11月3日、放流場所：石川県志賀町・高浜町の海岸、種：アオウミガメとタイマイの交雑個体、標準直甲長78.0cmです。

■ウミガメ速報16-4 (4/12)

黒島と座間味島からウミガメの上陸と産卵の情報が入ってきました。沖縄本島でも3月末に産卵があったという情報があります。

神奈川県 岡田 真人 様 より (2/23)

今年初のストラレンジング個体です。千葉県館山市伊戸漁港の東の小さな湾で発見しました。全長60cm、甲羅の幅40cm、沿わせて43cm、甲羅の長さ50cm、沿わせて51cmぐらいです。また付近の湾で、その個体のものと思われる下顎骨も見つけました。そして平砂浦海岸では、小型のアオウミガメとアカウミガメが落ちていました。事務局より：いただいた写真にはアオウミガメのストラレンジング個体、小型のアオウミガメとアカウミガメの骨が写っていました。

毎日新聞より (3/2)

帰って来てね 保護のウミガメ、井田小生が放流 紀宝/三重：定置網に掛かり、紀宝町井田の町ウミガメ公園で保護されたメスのアカウミガメ（甲長81・6センチ）を、町立井田小6年生14人が29日、近くの七里御浜海岸から放流した。児童たちは19日の卒業式を前に、アカウミガメが回遊する熊野灘の雄大な自然に触れた。放流した亀は1月24日、御浜町の定置網に掛かり、鶴殿港で保護された。この日、児童らは海岸で田中楓・飼育員から亀を保護した経緯を聞いた後、タワシで甲羅をきれいに磨いた。亀を放すと、水際までの約15メートルを7分かけて歩き、波間に消えると、拍手で見送った。6年の庄司りょうさん（12）は「今度は産卵のために来てほしい」と話していた。

毎日新聞より (3/9)

ウミガメの卵：食害深刻化 イノシシ、産卵巣 24. 8%襲う 奄美大島/鹿児島：奄美大島でウミガメの卵が野生のリウキュウイノシシに食べられる被害が深刻化している。ウミガメの産卵を調べている奄美海洋生物研究会（興克樹会長）によると、昨年に食害を受けた産卵巣は調査開始以来最高の24・8%。恒常的に食害が起きている浜があり、研究会は「個体の減少が懸念され、今後の産卵状況を注視したい」と話している。研究会の調査によると、奄美

大島（加計呂麻島、請島、与路島を含む）では昨年、ウミガメの産卵が355回確認され、島内5市町村の12の浜、計88カ所の産卵巣が食害を受けていた。産卵回数が2倍の715回だった2014年（116カ所）と比べると、被害に遭う率が高くなっている。奄美市住用町で食害が初めて確認されたほか、瀬戸内町請島ではすべての産卵巣が4年連続で被害に遭っていた。また、食害が拡大している大和村の浜では昨年6月、親子と思われる2頭のイノシシの足跡と、砂浜を掘り起こし産卵巣に頭を突っ込んでいる姿が、研究会が設置したカメラに映っていた。イアカウミガメの産卵回数は近年大幅に減っており、研究会の興会長は「このまま食害が続くと、産卵に来るウミガメがいなくなる。何らかの対策が必要」と危機感を募らせている。

香川県 四国新聞社 宮川 豪介 様 より (3/14)

読者からアカウミガメが上陸したとの情報がありました。発見者によると産卵していたように見えたとのことでした。日時は3月11日（金）午後5時ごろで、香川県東かがわ市小松原海岸で撮影したもようです。事務局より：さらに情報を聞いていただいたところ、連絡者の息子さんが岩場に居るところを発見し撮影したそうですが、砂浜に上陸はしておらず漂着だったようです。また、同一個体について後日、香川県の中村さんから情報をいただき、頭～甲が目測100cm、甲幅が目測85cmであったことがわかりました。

井上 留美 様 より (3/20)

種子島にてウミガメが漂着していたので連絡しました。事務局より：いただいた写真にはアオウミガメが写っており、ターゲットルルーに対応をお願いしました。

長崎県 野崎 祝 様 より (3/21)

五島列島の中通島にてアカウミガメの漂着を発見しました。すでに死亡していましたが、P型87716の標識が付いておりました。事務局より：この個体は屋久島うみがめ館により放流された個体でした。いただいた放流情報は下記の通りです。種：アカウミガメ、TAG種：P型87716（左前）、TAG装着日：2012.5.8装着、TAG装着地：鹿児島県屋久島いなか浜、甲長：90cm（2012.6.13）*****

沖縄県 西表野生生物保護センター 日名 耕司 様 より (3/24)

ウミガメの漂着個体（死亡）が発見されたので報告します。発見日：2016.03.24、発見者：新盛一雄さん（地元）、場所：沖縄県西表島古見海岸、種別：アオウミガメ、位置座標：N24.31612° E123.90807°、標準曲甲長：63.0cm、最小曲甲長：62.5cm、曲甲幅：58.5cm、計測方法：メジャー、中程度腐敗、腐敗により頭部・左前ヒレ欠損、事務局より：いただいた写真にはアオウミガメが写っていました。

沖縄県 西表野生生物保護センター 日名 耕司 様 より (3/26)

ウミガメの漂着個体（死亡）が発見されたので報告します。発見日：2016.03.26、発見者：井上さん（日本大学動植物研究会）、場所：沖縄県西表島美田良海岸、種別：アオウミガメ、位置座標：N24.373762° E123.75294° 付近、未計測、頭部破損、背甲にキズあり、事務局より：いただいた写真には、甲長40cmほどのアオウミガメが写っていました。

匿名の方より（3/27）

突然失礼致します。お役に立てる情報であるかはわかりませんが、本日の朝6時頃、釣りをしているときに見つけました。場所は高知県の三津漁港の南側の磯場です。事務局より：当会室戸基地の濱田が調査に行かせていただきました。種：アカウミガメ、標識：なし、標準直甲長：710mm、処理：測定後近くの砂浜に埋設。

東京都 日本位置漁業協会 森 様より（3/29）

長崎県五島の株式会社三井楽定置ミチシタさんより標識の付いたウミガメが混獲されたとの情報がありましたので、連絡します。発見日：平成28年3月2日、発見場所：長崎県五島 三井楽定置、状況：生存放流、標識：Y5063、事務局より：この個体は屋久島うみがめ館により放流された個体でした。放流情報は下記の通りです。種：アカウミガメ、TAG装着日：2015.6.19装着、TAG装着地：鹿児島県屋久島前浜。

黒島研究所より（4/7）

沖縄県竹富町黒島の黒島研究所のすぐ前の浜でアカウミガメの上陸跡を発見しました。残念ながら卵は発見できず。

琉球大学ウミガメ研究会ちゅらがーみー より（4/9）

3月26日に座間味島のニタ浜でアオウミガメの初産卵を確認しました。

朝日新聞（4/9）

フェリーでウミガメ飼育…その狙いは？ 乗客にも公開へ：鹿児島県の屋久島と鹿児島市を結ぶフェリーの一室でウミガメの飼育が始まった。常に揺れる条件で育て、水族館育ちのカメとの生態の違いなどを調べる。ウミガメ保護に取り組むNPO法人が企画。アカウミガメとアオウミガメ計6匹を飼育する水槽を今月から公開し、保護を呼びかけるパネルも設けた。夏ごろに個体識別タグを付けて放流し、回遊の経路を追跡する。船長は「今のうちから波に慣れてたくましく育て」と新たな「乗客」の成長を祈った。

■ウミガメ速報16-5（4/28）

屋久島、沖縄島、八重山黒島から初産卵の情報が届きました。本州からの産卵情報をお待ちしております。

沖縄県 沖縄美ら島財団 河津 勲 様より（4/7）

沖縄県名護市屋部で標識付のストランディングが

ありました。漂着日：2016/4/7、種：アカウミガメ、標識：黄タグ46759、サイズ：SCL79.0cm、SCW59.5cm、メス（生殖腺確認）。事務局より：この個体は琉球大学ちゅらがーみーが沖縄県読谷村の定置網から放流したものでした。放流日：2016/4/2、場所：沖縄県読谷村定置網。

神奈川県 岡田 真人 様より（4/9）

千葉県館山市伊戸海岸で様々な部位のカメの骨を見つけました。また、平砂浦海岸では腕や背甲の骨に加えて、アオウミガメのストランディングも発見しました。場所としては、南房総市白浜町根本です。サイズは、直甲長45cm、曲甲長47cm、直甲幅35cm、曲甲幅42cmでした。全長は頭骨がなかったので測れませんでした。事務局より：いただいた写真にはアオウミガメのストランディング個体と、アオウミガメやアカウミガメのものと思われる骨が写っていました。

沖縄県 琉球大学ちゅらがーみー 中西 悠 様より（4/12）

ウミガメの産卵と標識の付いた個体の混獲がありましたので連絡します。まず、産卵についてですが、座間味は3月26日にニタ浜で確認しました。次に混獲については、沖縄県都屋の定置網にて4月2日（金）に確認されました。種：アカウミガメ、サイズ：SCL88.6cm MCL86.6cm SCW65.5cm 腹甲長67.0cm、タグ番号：右後肢JPN28938、左後肢JPN28949でした。事務局より：この混獲個体は、ペイン留美さんによって放流されたものでした。放流場所は沖縄県恩納村塩屋の浜で、2008年に上陸産卵の際タグ29838装着、サイズは甲長87cm x 甲幅67cm、2011年に産卵で再来してタグ28949装着、甲長88cm x 甲幅61cmとのことでした。

沖縄県 沖縄美ら島財団 河津 勲 様より（4/12）

3/19に名護市のヌーフア浜（嘉陽と天仁屋のあいだぐらい）でアオウミガメの産卵がありました。

沖縄県 宮古島 高辻 恵理 様より（4/13）

4/10に宮古島のトゥリバ人工ビーチにて1m位のウミガメの死体を発見しました。事務局より：いただいた写真にはアオウミガメが写っていました。

鹿児島県 屋久島うみがめ館 丸野 宏夏 様より（4/18）

屋久島でのアカウミガメの初上陸をお知らせします。4月16日：いなか浜上陸のみで帰りました。4月17日：前浜で産卵1回がありました。

大分県 国東市手と手とまちづくりたい 海原 明子 様より（4/20）

4月15日にウミガメの混獲がありました。混獲個体の画像を送信します。種：アカウミガメ、甲長：75cm、甲幅：63cm、状況：14日午前中タテ網を揚げた時にはいなかった。15日同時刻網を揚げた時に発見しました。残念ながら死亡していました。

日向市アカウミガメ研究会 黒木 豊 様より (4/22)
アカウミガメの死体が2頭あがりました。おそらく先週打ち上げられていたか、自力で上がってきたが力尽き浜で亡くなったのでしょうか。可愛そうでした。2頭とも甲羅の寸法を計測し、写真に収め埋設しました。

種子島 久米 満晴 様より (4/24)

4月19日にアカウミガメの混獲があり、95871の標識がついていました。ウミガメの混獲は20日ぶりでした。大きさは甲長89cm、甲幅70cm、性別はメスでした。97295番の標識を新たに装着し放流しました。事務局より：屋久島ウミガメ館さんにお送りした標識で、2012年7月19日に装着したものでした。その時の大きさは甲長90.2cm、甲幅70.8cmでした。このウミガメの上陸状況は、2012年上陸2回（いなか浜2回）・産卵1回（いなか浜1回）、2014年上陸5回（いなか浜5回）・産卵4回（いなか浜4回）です。また既着PITタグ0006593C73が装着されています。

千葉県 根上 昌久 様より (4/25)

千葉県館山市見物海岸で漂着がありました。事務局より：いただいた写真にはアカウミガメが写っていました。また、エバーラスティングネイチャーさんに対応を依頼しました。

沖縄県 西表野生生物保護センター 日名 耕司 様より (4/25)

アオウミガメの漂着個体（死亡）が発見されたので報告します。発見日：2016.04.24、発見者：新盛翠（西表野生生物保護センター）、場所：沖縄県西表島古見 前の浜 種別：アオウミガメ、甲長約40cm（メジャーにて計測）。

黒島研究所より (4/27)

4/25に黒島西の浜でアカウミガメの初産卵がありました。アカの産卵は3年ぶりです。

沖縄県 ペイン 様より (4/26)

塩屋の浜で4月25日夜アカウミガメの初産卵ありました。例年よりも早いです。

沖縄県 国頭村 嘉陽 様より (4/26)

4/25に沖縄島北部の奥の浜でアカウミガメの上陸1回と宇座浜で産卵1回がありました。

■ウミガメ速報16-6 (5/20)

本土でも続々と上陸・産卵の情報が入ってきました。

石川県 仙北屋 圭 様より (5/2)

石川県珠洲市の沿岸で漂着したウミガメ（死亡個体）を発見したので報告します。日時：2016年4月24日午前6時20分、場所：珠洲市三崎町宇治（37.473125, 137.347374）、種類：アオウミガメと推測、性別：不明、特徴：甲羅が一部剥がれていた。右後肢がなかった。事務局より：写真には甲長40cmほどのアオウミガメが写っていました。

徳島新聞より (5/3)

美波・大浜海岸「うみがめ監視小屋」建て替え 老朽化で木造に一新

アカウミガメの上陸シーズンを前に、美波町は同町日和佐浦の大浜海岸前の「うみがめ監視小屋」を木造平屋に建て替えた。従来のプレハブ建屋が老朽化していたため、リニューアルは約20年ぶり。新しい監視小屋は約15平方メートルで、県産スギをふんだんに使っている。町から委嘱されたウミガメ保護監視員が待機し、上陸・産卵状況を確認するための見回りや、産卵情報を見学希望者に知らせる「ウミガメメール♪」の配信といった活動の拠点となる。事業費は130万円。大浜海岸は20日から8月20日まで、夜間の立ち入りやウミガメ上陸時の見学を制限する保護規制期間に入る。午後7時半～翌日午前4時は海岸への立ち入りが禁止され、午後8時以降は海岸前の車両通行も禁じられる。同海岸の昨年の上陸数は延べ15匹で、産卵回数は13回。観測史上で最も早い5月1日に初上陸と初産卵を確認し、上陸数の大幅な増加が期待されたが、過去10年で3番目に少なかった。

長谷川 麻紀 様より (5/6)

今日、午前中に神奈川県真鶴町真鶴半島、三ツ石海岸にてウミガメの死骸がありました。70センチくらいで少し前のものなのか、頭はくさってありませんでした。真鶴ケープから海岸に行く階段を降りて、岩場のなかの砂地の部分を左手にいったところです。どのくらい希少なカメさんかはわかりませんが、とりあえずメールしました。ウミガメが増えることを祈って。

高知県 溝渕 幸三 様より (5/6)

5月6日黒潮町入野浜で初産卵がありました。開催中の〈Tシャツアート展〉を観に来ていたようです。甲長94cm・甲幅85cm・巻尺測定・午前6時過ぎに帰海。

大分県 おおいた環境保全フォーラム 中井 真理子様より (5/7)

本日、タグ付きアカウミガメの死亡漂着がありましたので、ご報告いたします。発見日：2016年5月7日、場所：大分県佐伯市鶴見羽出浦（敷場）、種：アカウミガメ、雌雄：メス、状態：腐敗、タグ：（左後足）黄色JPN101138、（右前足）JP8427-A、計測値：（甲長）650mm、（甲幅）501mm、事務局より：この個体は当会室戸基地より放流したものでした。放流日：2016年1月25日、放流場所：高知県室戸市高岡、種：アカウミガメ、標準直甲長：647mm、直甲幅：512mm、標識：P型101138、I8427A、備考：定置網に混獲、2016年1月26日にも同じ定置網で再捕獲され、そのまま放流。

村上 秀典 様より (5/7)

ウミガメの死体を発見しましたので報告いたします。発見場所：神奈川県逗子市逗子海岸、逗子海岸映画祭の会場の前、海から3～4mの位置で発見、発見日時：2016/5/7 AM7:00くらい、GW中逗子海岸では逗子海岸映画祭というイベントをやっていて、夜の9時

～10時まで映画をやっている人多いので深夜に上陸または漂着したものと思われます。死体の状況：タグや無線機は付いていませんでした。大きなキズや腐敗等は見られず比較的きれいな状態でした。事務局より：写真にはアカウミガメが写っていました。

千葉県 真木 節子 様 より (5/7)

5/5(木) 犬の散歩で海岸を歩いていて海ガメの死骸を見つけました。場所は下記になります。千葉県南房総市和田町下三原423-2、この住所は「盛栄堂」という和菓子店なのですが、このお店の前の海岸です。かわいそうで写真は撮らなかったのですが体長は80cm位で、標識や種類は不明です。事務局より：エパーラスティングネイチャーさんに対応を依頼し、アカウミガメとわかりました。

沖縄県 喜屋武岬ダイビングサービスかりゆし 大山 様 より (5/9)

はじめまして、沖縄県糸満市でダイビングサービスをしている大山と申します。先日(5月7日)に糸満市喜屋武(きゃん)のリーフエッジ(海岸から約200m位)から30mの所にアオウミガメの死骸が浮いていました。なにかのお役に立てればと思いいご報告いたしました。事務局より：写真には大きなアオウミガメが写っていました。

沖縄県 木村 悟志 様 より (5/11)

ウミガメのストランディングを確認しましたので、確認地点等の情報をお送りさせて頂きます。仕事で伊是名島に滞在していた所、死亡しているウミガメを確認しました。確認種：アオウミガメ、確認日時：2016/5/6 18:50、確認場所：沖縄県伊是名島の西側の海岸(緯度：26.918980、経度：127.922022)、甲長：64cm(巻尺で計測)、甲幅：52cm(巻尺で計測)、状態：少し膨張しているようでしたが、見た目は新鮮で腐敗はあまりしていないようでした。また、死因となりそうな外傷等は見受けられませんでした。ヒレに装着する個体識別用のタグはありませんでした。事務局より：写真にはアオウミガメが写っていました。

毎日新聞より (5/11)

保護を 上陸跡や卵に気をつけて 市民団体、目撃情報提供など呼びかけ /三重アカウミガメの産卵シーズンが近づいてきた。中北勢地域を中心にウミガメの保護などに取り組む市民団体・ウミガメネットワークは「海岸で散歩や釣りをする際は、上陸跡や卵に気をつけて」と目撃情報の提供や注意を呼びかけている。アカウミガメは環境省が指定する絶滅危惧種で、伊勢湾での産卵シーズンは5月中旬から8月中旬まで。生まれた子ガメが海に帰るのは8～10月ごろだ。同ネットワークは吉崎海岸(四日市市)から香良洲海岸(津市)までの約40キロにわたって、アカウミガメの保護活動を行っている。同ネットワークの米川弥寿代会長(54)によると、卵や子ガメがタヌキなどに襲われるケースがあり、ロープやネットなどで産卵場所を保護する必要があるという。

読売新聞より (5/12)

産卵砂浜を定点観測へ 県ウミガメ協議会、浸食懸念：ウミガメが上陸する市町村や県、県教委、県警などで作る県ウミガメ保護対策連絡協議会が11日、鹿児島市で開かれた。産卵する砂浜の浸食が懸念されているため、今年度から写真撮影による定点観測を行うことを決めた。昨年度の上陸数は3511回(33市町村)で、前年度から半減したことや、減少数の大半をアカウミガメが占めたことなどが報告された。7市町村では動物による卵の被害も確認されたという。各市町村で取り組んでいる卵の盗掘防止パトロールなども紹介された。砂浜の定点観測は、各市町村で砂浜を一望できる地点を選び、台風や大雨など天候の影響を受けにくい4月か5月の干潮時を毎年継続して撮影する。砂浜の浸食で産卵場所が狭まっているかどうかなどを長期的視点で調べて、保護対策の基礎資料にするという。奄美大島・大和村のヒエン浜で昨年度から始めたリュウキュウイノシシの被害に関するカメラ監視調査結果の報告もあり、卵を食べるイノシシの姿が確認されたことや、ヒエン浜の卵の88%が被害に遭ったことも紹介された。今年度は島内の観測地点を2か所増やすという。定点観測の導入について、県自然保護課は「砂浜の消失と産卵数について客観的に説明できるデータを蓄積したい」としている。

沖縄タイムスより (5/12)

人懐っこいウミガメと触れ合う 沖縄・久米島：久米島ウミガメ館恒例行事「ウミガメ餌やり触れ合い体験」が3日、同館で開かれ、子どもたちや観光客らが楽しんだ。同館には、100キロ級のアカウミガメ3匹が飼育されており、人懐こく近寄り子どもたちを歓迎した。子どもたちは、同館塚越佳充主任の「ウミガメの生態」「ウミガメの減少問題」などの説明を受けた後、餌(レタス)やりに挑戦。千葉県から父親の赴任先・久米島を初めて訪れた田村史緒さん(松戸市立上本郷小5年)、千怜(ちさと)さん(同小3年)姉妹は「初めてウミガメと触れ合い癒やされた。小さいウミガメがかわいかった。餌やりや甲羅磨きが楽しかった」と笑顔で答えた。

川村 哲也 様より (5/16)

ウミガメ死体漂着がありました。相当、腐敗が進んでいます。発見日時：2016/5/14(日)、発見場所：和歌山県日高郡美浜町三尾、日の岬灯台へ登りはじめる所と、日の岬オートキャンプ場との中間ぐらゐの所です。事務局より：写真には甲羅だけになったアカウミガメが写っていました。

高知県 溝渕 幸三 様より (5/16)

今朝、大岐浜で1号が産卵しました。足跡幅約80^{mm}と小型でした。卵の直径は4^{mm}丁度。自然孵化に任すため、総数は不明。岡田幸生さんと二人で確認しました。なお、四万十市下田海岸にも今朝上陸痕がありました。砂利浜で8か所ほど試みていたものの諦めたようです。ここは台風の時には岸边まですべてけずり取られる場所となっています。

静岡県 西野 様より (5/18)。

5月18日(水)白須賀海岸にて初上陸、初産卵を確認しました。砂掛けのカモフラージュの跡などから、初産卵と確認しました。この産卵場所は水没の可能性が大きいです。

黒島研究所 亀田 和成 様より (5/18)

西表島ウブ浜とサザレ浜の前方で、5月12日にアカウミガメ、5月18日にアオウミガメの交尾を確認しました。5月12日のアカウミガメはオスがメスに乗ろうとすると、メスが暴れしていました。タイプでは無かったようです。5月18日アオウミガメは交尾しているカップルの周りを、もう一個体のオスが羨ましそうに見ていました。シュノーケリング中の私に求愛してきましたが、丁寧に断りました。

ウミガメ協 平井 紗綾 様より (5/20)

昨日、徳島の犬山松原より初産卵の連絡がありました。15日に初上陸、16日に初産卵、昨日卵を確認したそうです。ちなみに南紀ではまだ上陸も確認していません。

沖縄県国頭村 嘉陽 様より (5/20)

現在、ユッパの浜を調査中です。国頭の全体でアカウミガメが30カ所ほど産卵しています。今までアオウミガメはスタートが遅い印象ですが、近年は早くなってきたように感じます。

■ウミガメ速報16-7 (6/5)

沖縄ではアカウミガメのシーズンが最盛期に入りました。今のところアカウミガメは去年並みかそれよりも少ないと言う話が多く聞かれます。今日は徹夜で本島北部を歩いてきます。

山口大学 Andhita Triwahyuni 様より (5/19)

山口県のトキワ海岸でウミガメの死骸を見つけました。私はインドネシアからの留学生ですが、インドネシアでは、ウミガメを見つけたら地方行政に連絡します。日本でも同じようにすればいいのでしょうか。私はこのウミガメがどのように処理されるのか知りたいです。事務局より：成熟サイズのアオウミガメでした。山口県が埋設処理したそうです。

高知県 溝渕 様より (5/22)

今朝は双海と下田に上陸が有りました。下田は砂利のため産卵できませんでした。甲長89センチ、甲幅85センチで、護岸ブロックで四肢に傷ができ血が出ていました。砂利で身動きできなくなったのをスコップで砂利を取り除き、帰海させました。双海も砂が少なく、上陸のみです。足跡幅約85センチ。

阪地 英男 様より (5/23)

2016年5月3日、神奈川県三浦市の小網代湾口をシーカヤックで航行中、アカウミガメ死骸が海藻に絡まっているのを発見しました。

琉球大ちゅらがーみーOGより (5/23)

大分県別府市北的ヶ浜町の浜にアカウミガメのストランディングがガスが溜まった状態であがっているとのこと。琉球大学の海洋生物卒業の同級生が旅行中に発見したそうです。タグはなさそうで、外傷もなさそうに見えたとのこと。別府タワーの前だそうです。事務局より：おおい環境保全フォーラム様に対応をお願いします。

石垣島 勝見 様より (5/24)

今年久しぶりに石垣島北部・米原海岸にウミガメの上陸が確認されました。このまま自然に任せて観察するだけでよろしいのかどうかお尋ねいたします。事務局より：石垣島ウミガメ研究会に対応をお願いします。

南あわじ市沼島 寛真 様より (5/24)

昨年8月5日に続いて、先日5月19日木曜日に底曳網にかかりました。ウミガメを見たことのない地元小学校の先生や子どもたちに見せてあげた後、沖に返しました。事務局より：写真には大きなアカウミガメが写っていました。

国土交通省高知海岸出張所 加納 知加子様より (5/24)

ウミガメの漂着死骸がありました。5月16日(月)に打ち上がっており、すでに原型がない状態でした。その後、波浪によって見えなくなり、再度5月21日(土)午前7時頃に発見されました。タグは見つかりません。場所は、高知県高知市長浜、桂浜から西になります。高知県環境共生課の宮地さんによると、今年度は死骸発見の連絡が多く今回の件は高知県内で7件目だったそうです。

徳島県 阿南市役所文化振興課 阿部 直樹 様より (5/25)

市内の淡島海岸にてアカウミガメが上陸しました。今回は上陸のみで、産卵はありませんでした。なお、この上陸をもって阿南市初上陸となります。

紀伊民放より (6/4)

87歳、2年ぶり千里の浜へ 「ウミガメ先生」後藤さん：和歌山県みなべ町の千里の浜で30年にわたってアカウミガメの調査、保護活動をした同町東吉田の後藤清さん(87)が今年、2年ぶりに浜に出る予定にしている。交通事故に遭うなどしたが、リハビリを重ね、歩けるまでになった。長年情熱を懸けたウミガメ産卵の場に立つことを楽しみにしている。

フォーカス台湾より (5/25)

ウミガメのアート、台湾の砂浜に出現 環境保護を訴え＝世界亀の日：5月23日は「世界亀の日」。屏東県環境保護局や同県琉球郷公所(役所)、芸術団体らは22日、南部の離島・小琉球の砂浜で、ウミガメをイメージした直径5メートルの芸術作品を制作した。素材には海洋ごみを利用。海洋の生息環境をともに重視するよう呼び掛けた。世界亀の日に合わせて取り組みが実施されるのは、今年で3年目。小琉球は重要なウミガメの生息地。住民やボランティア、観光客など約100人も活動に加わり、砂浜のごみ拾いな

どを行った。

新潟県 匿名の方より (5/25)

アオウミガメの漂着の連絡がありました。新潟市西区の五十嵐浜で、体長は 35センチくらいようです。

大分県 東国東郡姫島村 堀内 様より (5/25)

今日、姫島村の砂浜でウミガメが死亡漂着していましたのでご報告します。種類はよくわかりませんがアカウミガメでしょうか。事務局より：写真にはアカウミガメが写っていました。

日向市アカウミガメ研究会 黒木様より (5/26)

今朝お倉ヶ浜海岸に上陸がありました。ただ上陸後すぐに帰っています。浜にはきれいな馬蹄形の足跡が残っていました。近日中に産卵がありそうです。

産経 WESTより (5/28)

ウミガメを自然に帰そう、レスキュープロジェクト10年目 神戸・須磨海浜水族園：漁船との衝突事故などで傷ついたウミガメを保護し、自然に帰そうと神戸市と市立須磨海浜水族園（同市須磨区）が取り組んでいる「瀬戸内海ウミガメレスキュープロジェクト」が今年、10年目を迎えた。この間、外洋へ戻されたウミガメは22匹にのぼる。担当者は「大阪湾や播磨灘など身近にウミガメがいることを知らない人は多い。死ななくてもいいウミガメが死んでいることを知ってほしい」と話している。

高知県 溝渕 幸三 様より (5/29)

5/27 平野浜でアカウミガメの産卵、今年第一号がありました。5月29日黒潮町入野浜でアオウミガメの漂着がありました。甲長40cmです（巻尺計測）。タグや目立った外傷は見られなかった。傍にはミズナギドリの死骸2羽。

高知県 溝渕 幸三 様より (5/30)

双海に産卵がありました。今まで変形卵扱いしてきた長円形の卵はまた違い、ニワトリの卵を思わせるようなものでした。112個中、72個が長円で、3.5×4.2センチ。他のものは3.6~3.7センチでした。今朝は大岐でも2号目が産卵しました。事務局より：長楕円の卵が数個みつかるのはよくありますが、こんなにたくさんというのは、松沢も1、2例しか見たことがありません。輸卵管の締め付けの具合によるものだと理解しています。

NPO法人表浜ネットワーク 田中 様より (5/31)

表浜も順調に上陸が始まったようです。今朝、残留していたアカウミガメの情報をお伝えします。直甲長79.6cm、直甲幅61.7cm インコネルタグ JP89274。四肢問題なしの、小柄な別嬪さんでした。

延岡市教育委員会 森 様より (5/31)

本日、延岡市の長浜海岸で産卵中のアカウミガメが確認され、両後肢にタグを装着しましたのでご報告します。5月31日 午前5：10装着プラスチックタグ

(黄色)JPN79901。右後肢JPN79902。左後肢、甲長90cm程度の個体でした。

阿南市市民部文化振興課 阿部 直樹 様より (6/1)

市内の淡島海岸にてアカウミガメが上陸しました。今回も上陸のみで、産卵はありませんでした。場所は、海岸の真ん中付近、前回5月24日に上陸した付近に足跡を発見。ピットの形跡はなく、草むら手前で引き返したものと思われます。

徳島新聞 (6/1)

美波・大浜海岸、ウミガメ今季初上陸 産卵確認できず : 美波町日和佐浦の大浜海岸で1日、アカウミガメの上陸が今季初めて確認された。2015年より1カ月遅かった。産卵は確認されていない。ウミガメは甲羅の長さ76センチの小型。午前2時すぎ、町保護監視員の細野一さん(68)＝赤松＝が、上陸後、海に戻ろうとしているウミガメを海岸の北側で見つけた。穴を掘ろうとした跡も確認したが、砂利で覆われた場所だったため産卵できなかつたとみられる。日和佐うみがめ博物館カレッタの職員3人が、足跡の幅などを記録した。カレッタの田中宇輝学芸員は「上陸の時期としてはまずまずの早さ。今後の状況を注意深く見守りたい」と話した。

徳島新聞 (6/2)

アカウミガメ今年初産卵 美波・大浜海岸で110個 : 美波町日和佐浦の大浜海岸で2日未明、今年初めてアカウミガメが産卵した。記録が残る1973年以降で最も早かった2015年より32日遅く、14年より8日遅い。甲羅の長さ76センチ、幅64センチの中型。1日午後11時40分すぎ、海岸の見回りをしていた町ウミガメ保護監視員の張野俊樹さん(54)＝日和佐浦＝が、波打ち際から約20メートルの砂浜に上陸しているのを見つけた。

毎日新聞 (6/4)

環境学習ウミガメ保護活動 県内外から「留学生」も 地域と協力し一助に : 屋久島町の町立永田小は、絶滅危惧種に指定されているウミガメの生態調査や保護活動を学習の一部に取り入れている。学校近くの永田浜は世界有数のウミガメの産卵地として知られ、地域ぐるみで長年保護活動を続けてきた。児童たちの取り組みがその一助となり、県外から期間限定で移住する「留学生」も多く集まっている。

沖縄本島南部では百名ビーチでアカの産卵が2つです。座間味のアオは例年並みのようです。

■ウミガメ速報16-8 (6/13)

鹿児島県種子島タートルクルー 久米 満晴 様より

今年の夏休みに子供一人旅「キッズキャンプin種子島～ウミガメを探せ～」を企画しました。対象は小学校3年生から高校生まで。8泊9日で種子島の自然をヨットやサップサーフィン、シュノーケリングな

どで満喫し、ウミガメを探したり、地元の子供との交流や夏祭り、宇宙センターの見学、運が良ければ（まだ打ち上げ日程が公表されていませんので）打ち上げも見られるかも？です。私たちスタッフ一同、安全第一に楽しい夏休みの思い出となり、自然を大切に思う心を育めるよう準備を整えております。心よりお待ちしております。また、ご友人等にお勧めいただけたら幸いです。ご質問等はお気軽に連絡ください。

桑原 知賀子 様より (6/5)

本日午後4時ころ、神奈川県平塚市の平塚ビーチを歩いていたところ、ウミガメの死骸がうちよせられているのをみました。甲羅の直径が1メートル50センチくらいあり、腹を上に向け、びくともしておらず、からすにつつかれていたのが死んでいたのだとおもいます。湘南にもウミガメがいるんだと驚きました。*****
室戸基地 田中 優衣より (6/5)

6月4日（土）の朝6時頃、地元住民より「ウミガメの足跡がある」と連絡を受け、調査にいきました。場所は椎名海岸（室戸岬町椎名）です。ピットは確認しましたが、産卵はしていませんでした。*****
日向市アカウミガメ研究会 黒木 豊 様より (6/6)

5月の連休明けから上陸産卵調査を行っています。市内の海岸を4地区に分け、それぞれ担当者が調査をしています。私の担当していますお倉ヶ浜北では5月中に5回の上陸があり、内3回（29日1頭、31日2頭）の産卵がありました。6月はまだありません。*****
毎日新聞より (6/5)

ひと・しずおか:ウミガメ支援の「サンクチュアリNPO」理事長 馬塚丈司さん / 静岡

西日本新聞より (6/6)

ウミガメ産卵の浜 住民が一斉に清掃 岡垣町 [福岡県]
アカウミガメが産卵に訪れる岡垣町の三里（さんり）松原海岸で5日、地元住民による清掃活動が行われた=写真。各地で海岸や公園を一斉清掃する「ラブアース・クリーンアップ2016」の一環。住民千人以上が2時間かけて計約9・7トンのごみを回収した。*****
南島原市環境課 植木 健一郎 様より (6/6)

ウミガメの漂着がありましたので、ご連絡致します。発見日時：2016/6/3、場所：長崎県南島原市加津佐町 下馬松（けばまつ）海岸、発見情報：浜にうちあがっていた、浜に埋設。かなり痛んでおり、形からカメだとわかる程度、個体のサイズ：縦140cm×横70cm、事務局より写真からアオウミガメでした。*****
屋久島うみがめ館 丸野 様より (6/6)

ジャンボタグ装着の個体を確認いたしました。TAG 確認日：2016.6.2、確認地：屋久島前浜（上陸・戻り）、カメ種：アカウミガメ、TAG：ジャンボタグ（青色）91420右後ろ。他にタグはついていませんでした。

Y6589（左後）、Y6590（右後）を新たに装着しました。ジャンボタグの方は、数字が読みづらく、タグを外しました。事務局より：室戸基地からの放流個体でした。放流履歴：2013年4月28日、高知県室戸市椎名漁港混獲個体、甲長917mm、標識I87487, I89638, J87486, J91420

高知県 溝渕 幸三 様より (6/7)

6月7日・双海浜3号産卵。136個中、上層部と中層部でそれぞれ2個ずつ破損していた。直径3.6~3.7センチ。前回同様ニワトリの卵のようなものが半数近くあった。平野浜西側に3号目産卵。120個、直径4センチ。7日、双海浜入り口付近へ上陸した母ガメを確認。砂浜から水が出て産卵を諦めた。甲長80cm、甲幅75cm。*****
新宮市海ガメを保護する会 濱野 兼吉 様より (6/7)

5月24日に王子ヶ浜に初上陸を確認し、5月27日に初産卵がありました。6月7日現在、王子ヶ浜では上陸6、産卵4です。また、三輪崎海岸では上陸6、産卵1を確認しましたが、産卵巣を掘ってみたところ割れた卵の殻が数個あるのみで、盗掘されたようでした。*****
久米満晴写真研究所 久米 満晴 様より (6/3)

今年は1っか月定置網が早く終わり終了しました。ブログに簡単なまとめを載せましたのでよろしくです。詳細は⇒ <http://blog.turtle-crew.com/>

神奈川県立海洋科学高等学校 太田 真史 様より (6/7)

本校のカッター漕艇実習中に死んでしまった標識付きウミガメを見つけたのでご連絡いたします。タグNo, JPN101221、発見位置 北緯35度-13、55'、東経139度-34、88'。事務局より：高知県室戸基地より放流した個体でした。放流履歴：2016年3月27日、高知県室戸市定置網に混獲、甲長69.5cm、甲幅58.0cm、標識101221

新江ノ島水族館 佐野 様より (6/6)

本日、神奈川県藤沢市江の島沖の定置網にオサガメの入網がございました。日時：6月6日午前4時頃、場所：神奈川県藤沢市江の島沖定置網、種類：オサガメ、直甲長：7.7cm、直甲幅：65.0cm、対応：入網個体を港まで運んだ旨、水族館へ電話連絡あり。当館職員で右後肢にPITタグ(392145000274971)、左前肢にジャンボタグ(4619)装着。漁師さんが船で沖合へ放流。神奈川県環境農政局農政部水産課へ連絡済みです。

西日本新聞より (6/8)

ウミガメ産卵見守ろう 岡垣の海岸、環境保護PR [福岡県]：絶滅危惧種に指定されているアカウミガメの産卵地として知られる岡垣町の三里松原海岸で、今年も産卵シーズンを迎えた。卵の保護や生態調査に取り組む「岡垣ウミガメ倶楽部（くらぶ）」（浜田孝会長、15人）は、JR海老津駅前にウミガメの生態をまとめたパネルを設置したほか、オリジナルDVDを作製して活動を紹介する出前講座を開くなど、町民や観光客に環境保全の大切さを訴えている。

フォーカス台湾より (6/8)

食用目的か ウミガメを違法に購入の疑い…消防職員
の身柄拘束/台湾：(澎湖 7日 中央社) 保護が必要とされるアオウミガメを食べるために購入したなどの疑いで、澎湖地検は7日、澎湖県吉貝嶼の消防職員2人を野生動物保護法違反で身柄を拘束したと発表した。2人は同僚と共に、漁業関係者からアオウミガメを3000台湾元(約1万円)で購入した疑い。解体している様子を映したと見られる写真をインターネット上の掲示板に投稿したとされる。当初は澎湖消防局の調査で容疑を否認していたが、その後の地検の捜査で関与が明らかになった。

美津島町漁業協同組合 戸江 一仁 様より (6/8)

長崎県対馬の美津島町漁協よりアカウミガメ混獲の連絡がありました。甲長：約50cm(目測)、タグ：ジャンボタグ(青)左7327 右7328、処置：放流。事務局より：野間池からの放流個体でした。日付：2016年5月7日、場所：しろせ定置網(鹿児島県南さつま市笠沙町野間岬)、種類：アオウミガメ、甲長46cm、標識：7327、7328。

石垣市 小松原 様より (6/8)

ダイビング中に、ウミガメの自然死に立ち会いました。

<http://blog.goo.ne.jp/estivant-you-go/e/56139bf067e13106dbc6cd784dbbaecd>

特定非営利活動法人Turtle Crew 水谷 様より (6/9)

種子島中種子町東海岸竹屋野海岸に漂着があったので写真を送ります。事務局より：写真にはタイムイが写っていました。

匿名の方より (6/9)

和歌山県和歌山市磯ノ浦、2016年6月9日木曜日。午前5時50分頃 アカウミガメが産卵を終えて海に向かっていました。

ELNA 田中 様より (6/9)

昨日、別個体調査中に標識がついたウミガメのストランディングを発見しましたので、ご報告いたします。ただし、ほぼ白骨化していましたので、詳しい剖検は実施できませんでした。漂着後、少なくとも1か月以上は経過しているものと思われます。2016年6月8日、場所：千葉県館山市平砂浦、標識：JPN19860(裏にkusimotoの刻印)。事務局より：当時 石垣島の島達也さんにお送りした標識でした。放流履歴：1999/8/10、放流場所：石垣島(捕獲場所：沖縄県水納島)、甲長56.0cm、甲幅45.2cm、体重22.5kg、標識：J19360、I19860。約17年ぶりの再発見で、八重山から本州に移動していた珍しい事例となります。

新富町ウミガメ保存協議会 様より (6/11)

6月11日午前4時半頃、アカウミガメが産卵に上陸し、6時前に海に帰りました。甲長90cm、甲幅 約75cm、甲周83cmでした。

横浜市 鈴木 様より (6/12)

三浦半島の毘沙門湾の浜辺に添付画像のような漂着死体を発見しました。余りに珍しかったので写真を撮り、ウミガメについて調べていたところ、こちらのサイトで漂着死体情報を集めていると知り、メールさせていただきました。場所は、神奈川県三浦市毘沙門湾という釣り船屋さんの近くの浜辺です。漁港のようなところの近くです。近くで畑仕事をしている方に聞いたところ、初めて見たと言っていましたので、滅多にない事ようです。事務局より：丁寧に漂着場所の地図が添付されていました。写真よりアカウミガメでした。

徳島新聞より (6/13)

松茂に再びウミガメ 足跡確認、産卵の可能性：5月にアカウミガメの足跡が見つかった松茂町豊岡の松茂海岸で11日、ウミガメのものとみられる新たな足跡が確認された。砂浜を掘り返したような痕跡もあり、専門家は「産卵した可能性がある」と期待している。

事務局より：本件は、松茂町在住の西堀様からもご連絡を頂きました。日和佐うみかめ館が対応を検討しています。

■ウミガメ速報16-9 (7/5)

Cinema net café より

愛すべきウミガメ登場「ファインディング・ドリ」中でも、登場シーンは限られているにも関わらず、ファンからの絶大な人気を誇るのが、悠々として豪快でユーモアたっぷりのウミガメのクラッシュだ。

神奈川県 氏橋 様より (6/13)

ウミガメを目撃したので報告します。2016年6月12日午前11時頃、伊豆大島東側の筆島沖北緯34.70、東経139.44付近に死んだウミガメ漂流していました。大島付近では何度か目撃していますがようやく写真にとれました。プレジャーボートで釣りをしているときに見つけました。写真にはアオウミガメが写っていました。

千葉県 白子町 早乙女 友子 様より (6/12)

6月12日Am10:00頃、一昨年は沢山の産卵があった場所なので今年は?と思い毎日通っていたところこのウミガメを発見しました。事務局より：写真には死んだアカウミガメが漂着していました。

高知県 溝渕 様より (6/14)

土佐清水市大岐浜・岡田幸生さんが、アオウミガメの漂着死骸を見つけました。今朝見付けて測定し、埋葬しました。甲長90cm、甲幅85cm、頭部から尾の先まで約160cmでした。もう1匹は、甲長39cm、甲幅38cmでした。

宮城県 仙台地方振興事務所 上遠野 様より (6/14)

ウミガメの斃死体が座礁しているとの情報が当事務所にあり、種の特定についてご協力いただきたく、ご連絡させていただきました。場所は宮城県七ヶ浜町萱蒲田です。事務局より：写真にはアカウミガメ写っていました。

匿名の方より (6/15)

静岡県富士市の砂浜で海へ戻るアカウミガメ見つけました。産卵跡もありました。

屋久島うみがめ館 大牟田 様より (6/6)

ジャンボタグ装着の個体を確認いたしました。2016.5.11、いなか浜(上陸・産卵)、アカウミガメ、ジャンボタグ64397左後肢 (2016.5.11番号読み取りにくいため外し)、P型Y5952左後肢・Y5951右後肢 (2016.5.11装着)、甲長：90.8cm、甲幅：70.3cm。事務局より：種子島の久米さんが放流した個体でした。2010年12月29日、定置網に混獲、アカウミガメ、甲長83、甲幅68cm。

福岡県 福津市役所うみがめ課 川島 様より (6/16)

6月16日、ウミガメの産卵が福間海岸(ステラビーチカフェ前)にて確認されました。福津市のウミガメの産卵確認は5年ぶりです。6月15日午後3時過ぎに福間海岸飲食店の方から、ステラビーチカフェ前の砂浜にウミガメの足跡があるので、確認してほしい旨の連絡がありました。すぐに職員が現地調査したところ、平成23年の福津市勝浦浜での上陸写真の足跡と同様であったので、福津市内のウミガメ保護団体である「勝浦うみがめ塾」に連絡しました。「うみがめ塾」によると、ウミガメの足跡に間違いなく産卵している可能性が高いということですので卵を探しましたが見つかりませんでした。6月16日になって朝9時過ぎごろから卵を探したところ、産卵場所を確認しました。

南日本新聞社より (6/16)

ウミガメ産卵ピーク 奄美大島龍郷：奄美大島でウミガメの産卵がピークを迎えている。16日未明、龍郷町安木屋場(あんきゃば)の渡連(どれん)海岸には、アカウミガメとアオウミガメが1頭ずつ上陸。新たな命が産み落とされる瞬間に立ち会った。

千葉県長生郡白子町 早乙女 友子 様より (6/19)

6月19日 AM8:00頃、先日訪れた千葉県長生郡白子町五井の砂浜にウミガメの足跡を見つきました。無事産卵を終えて海に戻ったようです。

一宮町 渡部 明美 様より (6/19)

一宮町では、6/11に初上陸、6/18に2回目の上陸で初産卵を確認しました。それより早く、お隣の長生村の城之内海岸で6/8に上陸がありました。長生村の海岸で今年は、一宮ウミガメを見守る会のメンバーで長生村在住の方が調査を始めました。一宮町も長生村も砂浜がかなり削られて心配ではありますが、今年もウミガメの足跡を見ることができて一安心しています。

川崎市 栗田 様より (6/20)

熱海市下多賀で体長1メートルはある大きな海亀が死んでいます。少し腐敗しかけていました。防波堤と、コンクリートの柱の間にあります。伊豆半島ドライブ旅行中に偶然見かけました。可哀想で写真も取らなかったのですが。

中日新聞より (6/21)

ウミガメ、今年も産卵 明和・北藤原海岸：アカウミガメの産卵地で知られる明和町北藤原の北藤原海岸で、今年も産卵が確認された。アカウミガメは環境省の絶滅危惧(きぐ)1B種に指定されている。5~8月にかけて、県内の海岸に産卵する。産卵を調査している志摩半島野生動物研究会の若林郁夫代表(51)=伊勢市鹿海町=が8日、北藤原海岸でアカウミガメの足跡を見つけた。

徳島県 阿南市役所文化振興課 阿部 様より (6/23)

市内の淡島海岸にてアカウミガメが上陸しました。今回は産卵が一頭確認されました。本年度、阿南市で初産卵になります。

沖縄タイムスより (6/24)

ブロックに挟まったウミガメ、身動きできず重機で救出 沖縄・渡名喜島。体長140センチの大きなアオウミガメが17日、沖縄県渡名喜漁港の消波ブロックに挟まり身動きが取れない状態で見つかり、村民の通報で駆け付けた村役場職員や工事作業員らによって救出された。

名古屋港水族館より (6/24)

アカウミガメの赤ちゃんを展示します：隣接するカメ類繁殖研究施設の人工ふ化場で、6月23日(木)にアカウミガメの赤ちゃんがふ化しました。アカウミガメの産卵ふ化は、平成7年に初めて成功して以来、今年が21回目となります。

深沢 様より (6/26)

本日、AM5時頃、静岡県三保海岸にて、今朝海ガメをが産卵から帰る所を見たので連絡します。海ガメはそのまま海に帰って行きました。事務局より：写真には釣り人の間と通るアカウミガメ写っていました。

福岡県福津市役所うみがめ課 花田 様より (6/26)

6月26日 津屋崎浜海岸にてアカウミガメのストラディングがありましたので添付書類にてご報告いたします。福津市民より津屋崎浜海岸にウミガメの死体が漂着しているとの通報があり、現場確認。外傷なし。タグなし。腐敗が進んでいたためインナータグは確認できず。計測等を行ったのち埋設した。性別：不明、標準直甲長1000mm、直甲幅580mm

串本海中公園センター 吉田 徹 様より (6/27)

先日、標識個体漂着の連絡がありましたのでご連絡します。6/25、和歌山県東牟婁郡串本町串本付近海岸、アオウミガメ、直最小甲長67.4cm 直甲幅49.7cm、JPN15548(黄色タグ)、死亡漂着、頭部に損傷

あり。事務局より：串本海中公園センターのヘッドスタート個体でした。放流情報：2003年9月1日、串本町鯖浦、アオウミガメ、甲長40.2cm、甲幅33.0cm、体重9.9kg、標識：J15547、J15548、※2001年8月串本海中公園内 生まれ。担当：宮脇逸郎。約13年ぶりの再発見です。

 アクアワールド茨城県大洗水族館 徳永 幸太郎 様より (6/27)

先月、ウミガメの放流を行いましたので、ご報告致します。5月26日、アカウミガメ、直標準甲長45.6cm、甲幅39.6cm、体重14.2kg、標識：JPN79576、JPN79575、当館前の海岸に放流。※子ガメの時に保護した個体。今月、産卵上陸がありましたので併せてご報告致します。第一報：6月20日、当館スタッフ確認：6月22日、場所：茨城県神栖市波崎の海岸。

 静岡県 おがわ みちひろ 様より (6/27)

標識がついたウミガメを確認しましたのでご連絡します。2016.6.27 午前6時ころ、発見者：おがわみちひろ様、静岡県伊東市川奈の定置網に混獲（いとう漁協川奈支所に所属）、タグ：青色7238、大きさ：甲長の目測：50cm、処置：生きていたのでそのまま放流。事務局より：鹿児島県野間池で放流された個体でした。2015年11月25日、鹿児島県南さつま市笠沙町野間岬、アオウミガメ、体サイズ：甲長753mm、タグ：7237（左）、7238（右）、処置：体サイズ計測・タグ付け後、放流

 長崎市 木村 智美 様より (6/20)

5月25日に、長崎県野母崎半島の小型定置で標識JPN7305/7306の付いたウミガメが混獲されました（事務局より：この個体は宮内叶さんが鹿児島県野間池の定置網から2016年4月27日に放流した個体）。残念ながらウミガメは袋網の中ですでに死亡していました。なお、過去にもウミガメの混獲が何度かありました。特に、近くのほかの定置網で捕獲されたウミガメが砂浜から離れた直後には、同じ個体と思しきウミガメの混獲が起きます。

 斉藤 様より (6/29)

福島県南相馬市の海岸でウミガメ漂着しています。日本ウミガメ協議会ホームページを見て先程連絡しました。腐敗臭が少しするのでつい最近打ち上げられたようです。事務局より：写真にはアカウミガメが写っていました。

 琉球新報より (7/3)

はじめまして ウミガメの赤ちゃん 与那国児童らと“交流” 海に返す：【与那国】6月26日午前7時ごろ、与那国町の久部良漁港で、海人（うみんちゅ）が自身の漁船の側でウミガメの赤ちゃんが泳いでいるのを発見した。発見した海人は60代半ばだが、久部良の港でこのような光景を見るのは初めて。側にいた仲間の海人たちも「大きくなったウミガメは時々見掛けるが、与那国でウミガメの赤ちゃんを見るのは珍しい」と感心し、子どもたちに見せてあげ

たいとの思いから、若手の海人である市成昭太さん（32）を呼び、泳いでいた14匹ほどのうちの4匹を網ですくい上げた。事務局より：アカウミガメのふ化幼体でした。

■ウミガメ速報16-10 (7/23)

 今年度より日本ウミガメ協議会の事務局長に就任致しました松宮と申します。この場を借りてご挨拶させていただきます。今から12年間に現会長の松沢と出会い、学生時代にウミガメの話を色々と聞いたはずなのですが、当時イルカやアザラシが好きだった私は、ウミガメに興味を持つことなく卒業し、南知多ビーチランドにアザラシ担当として入社しました。その後、ウミガメのお導きがあり2009年からウミガメを担当するようになりました。まさか自分がウミガメと関わることになるとはそれまで想像すらしていませんでした。しかし同年の夏、知多半島での産卵・孵化率調査に同行し、当時ウミガメ担当だった黒柳さんから色々なことを教えていただいたことで、私の中のウミガメスイッチが入りました。そして昨年秋、またしてもウミガメのお導きがありウミガメ協議会に入局致しました。フィールドでの経験値や浜を歩いた時間が少ない私ですが、ウミガメのため、そして日々現場で汗を流しているウミガメ屋の皆様のために、できることをこれから少しずつ増やしていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひ致します。日本ウミガメ協議会 事務局長 松宮賢佑

 千葉県旭市 中谷里 様より (7/4)

ウミガメの死体を発見しました。2013年6月に報告した場所とほぼ同じ場所です。事務局より：いただいた写真にはアカウミガメが写っていました。

 フォークス台湾より (7/5)

保護されていた交雑種のウミガメ、大海原に/台湾・宜蘭県：今年4月に誤って漁網に捕まり、宜蘭県内にある行政院海岸巡防署の施設で保護されていたメスのウミガメが4日、自然に返された。保護された当初は弱った状態だったが、獣医や台湾海洋大学のチームなどによる熱心な看護で元気を取り戻し、検査の結果、野生へ返すことが認められた。このウミガメはアカウミガメとタイマイの交雑種とみられ、アジア地域で交雑種のウミガメが発見されるのは2カ国目。台湾では初めてで、希少な品種とされる。宜蘭県政府はウミガメの保護や看護に協力した関係各所に感謝を示した。

 千葉県いすみ市 森谷 香取 様より (7/6)

千葉県内では、鴨川市、一宮町、長生村などで6月上旬にアカウミガメの上陸の報が次々ある中で、いすみ市にはなかなか来てくれなくてとても心配していました。やっと、今日は報告できるのでうれしい限りです。いすみ市では、6/25和泉浦に初上陸があり、7/6は上陸2回目にして日在浦で初産卵がありました。

福岡県 福津市役所うみがめ課 川島 道俊 様 より (7/7)

勝浦海岸でうみがめの産卵が確認できましたので報告します。産卵日：2016.7.4、産卵場所：福岡県福津市勝浦海岸、種：アカウミガメ、SCL875mmSCW652mm、装着標識：82994(P型)、82995(P型)、産卵数：14個

東京都 三宅支庁産業課 堀井 善弘 様 より (7/7)

三宅島におけるウミガメ産卵場所の写真を入手しましたので、送付いたします。なお、確認できない場合には、改めて撮影に行きますので、ご連絡ください。また、産卵場所は、三宅島の東側にある三池浜と南西側にある錆が浜の2か所です。事務局より：産卵の有無については写真からは確認できておりません。

愛知県 名古屋港水族館 松田 乾 様 より (7/7)

三河湾内の幡豆漁港にて標識の付いたウミガメが泳いでいるとの情報がありましたので、連絡します。事務局より：標識番号より、南知多ビーチランドさんにより6/26(日)に放流されたアオウミガメとわかりました。

香川県 岩黒島の漁師の方より (7/7)

7月7日に「こませ網」というという漁法でマナガツオを狙っていたところ、標識(97379)を付けたアカウミガメがかり死亡していました。ウミガメの混獲は今年これが2回目、最近ウミガメが増えてきている気がしています。事務局より：日和佐うみがめ博物館カレッタさんにお送りした標識で、2016年2月9日に徳島県海陽町の鞆浦漁港で混獲された際にインコネルタグ9042Aとともに装着し、その後那佐湾から放流されたものでした。その時の大きさは甲長83.8cm、甲幅67.0cmでした。

フォーカス台湾より (7/7)

離島・小琉球のPR映像、ウミガメ生息環境保全への関心を喚起/台湾：ウミガメが生息する離島・小琉球周辺海域の環境保全に関心を持ってもらおうと、大鵬湾国家風景区管理处はミュージックビデオ(MV)を特別に製作した。同処はMVを通じ、小琉球で環境にやさしく、のんびりとした旅行を楽しんでもらえればとしている。「沒有煩惱の小島」(悩みのない小さな島)と題されたMVでは、都会から1人旅に来た女性を主人公に、小琉球の美しい自然と魅力的な文化を映し出す一方、プラスチック製品の大量消費による環境破壊の現状を伝えている。同島の海岸では今月中旬から下旬にかけて、ごみ拾いイベントが開かれる。

毎日新聞より (7/8)

ウミガメ産卵の当たり年 前年の2倍に 和歌山：本州最大のアカウミガメの産卵地として知られる、和歌山県みなべ町の千里の浜で、母ガメの産卵回数が前年同期の約2倍に上っている。今年は産卵の「当たり年」のように、7月1日には県立自然博物館(海

南市)が初めて観察会を開催するなど注目を集めている。千里の浜は全長約1.3キロの砂浜。昨年9月には吉野熊野国立公園に編入された。町教育委員会や日本ウミガメ協議会(大阪府枚方市)の学生調査員らが毎年、母ガメの上陸回数や産卵数の調査、個体識別のためのタグ付けや甲羅の測定などを実施している。協議会によると、今年は5月17日に初産卵を確認して以降、今月3日までに上陸は129回、産卵は60回だった。2年連続で調査に訪れている帝京科学大(山梨県)4年の高山敦至さん(21)は「カメの産卵は約3年周期。3年前も産卵が多かったのですが、その時の母ガメが戻ってきたのではないかと話していた。アカウミガメの観察は夜間で無料だが、町教委に事前申請が必要。

当会事務局 松沢 慶将 様 より (7/9)

高知県室戸で標識放流した個体が、以下の通り和歌山県みなべ町千里浜で上陸・産卵しましたので、報告します。発見日：2016/6/17, 6/18, 6/20(いずれも上陸のみ産卵なし)、左前肢：タグなし、右前肢：JP75974(インコネル)、右後肢：JPN 78864(ジャンボ青)、左後肢欠損、サイズ計測せず。室戸からの放流情報は下記の通りです。放流日：2011年6月28日、放流場所：高知県室戸市室戸岬町三津漁港、種：アカウミガメ、計測値SCL:633mm, CCL:647mm, SCW:601mm, CCW:719mm, BW:66.5kg、備考：左後肢根元から背甲後方大きく欠損

匿名の方より (7/9)

本日、茨城県鹿島灘にて大きいウミガメの死体を発見しました。発見日時：7月9日午前10時、発見場所：茨城県鉾田市、アクセス：茨城県鉾田市の国道51号を水戸方面より進み、ラーメンとん太を過ぎ、51号ドライブイン近くの交差点を海岸方面に左折。海岸につきましたら、北側のヘッドランド方面にありました。事務局より：大洗水族館に対応をお願いし、アカウミガメとわかりました。

茨城県 大洗水族館 徳永 幸太郎 様 より (7/9)

先日、アカウミガメの上陸がありましたのでご報告致します。日時：7月5日(火)、場所：茨城県東茨城郡大洗町 大洗サンビーチ北側、計測：体重61.8kg、直標準甲長74.5cm 甲幅59.8cm、穴掘り跡等の痕跡は無し。当館に収容して、その日のうちにタグ付け後放流。タグNo：右前肢JPN79577、左後肢JPN79578

茨城県 大洗水族館 徳永 幸太郎 様 より (7/10)

先日、アオウミガメの捕獲があり、放流を行いましたのでご報告致します。日時：7月4日(月)、場所：茨城県日立市会瀬漁港外洋側。イセエビ刺し網漁にて。水温：23.0℃、当館に持ち帰り、計測・タグ付け後、当館前の海岸より放流。直標準甲長：40.4cm、体重：9.2kg、タグNo：左前肢：JPN30429(プラスチック)、右後肢：JP59797(金属)

琉球新報より (7/10)

母なる海へと泳ぎ出す ウミガメ140匹を放流 海

洋博公園：海洋博公園（本部町石川）が飼育したウミガメ約140匹の放流会が10日午前、同公園エメラルドビーチであり、公募で選ばれた県内外の親子連れを中心に約300人が参加した。子どもたちはなかなか触れ合う機会のないウミガメに興味津々で、ウミガメを波打ち際から東シナ海に帰し、無事を祈って泳いでいく姿を見届けた。放流したのは海洋博公園で飼育した1歳のアカウミガメとアオウミガメで、標識を付けて放流した。同公園によると、1985年7月に放したアカウミガメが太平洋を横断し、87年11月に米国の西海岸・カリフォルニア州沖で見つかった例がある。中城村から兄弟そろって参加した清水優紀さん（6）はウミガメを砂浜に置いて見送った後「かわいかった。海では家族と一緒に遊んでほしい」と思いを巡らせた。

 国頭村 嘉陽 様・琉大ちゅらがーみーより（7/11）

今年の田名はアオウミガメがたいへん多く上陸しています。先週の調査では30カ所以上の産卵がありました。

 PR TIMESより（7/13）

トレンドのペイズリー柄が実はウミガメ！？な支援Tシャツをikkaから発売！ウミガメの保護を通じた環境保全活動「Blue Ocean Project」取り組み5年目！！お買い上げ額の一部をNPO法人日本ウミガメ協議会へ寄付します。

■よく見るとウミガメ発見！ペイズリー柄Tシャツがカワイイ！■

イオングループの株式会社コックス（本社：東京都中央区日本橋浜町1-2-1、代表取締役社長：吉竹英典）は、主力ブランド「ikka（イッカ）」の全国146店舗とWEBストア各店で、2016年7月15日（金）より「ブルーオーシャンプロジェクト」の支援商品を発売します。取り組み5年目となる今回の支援商品は、ikkaのメンズ VネックTシャツ全3型です。中でもイチオシは、トレンドの ペイズリー柄デザインTシャツ。フロントに配したペイズリー プリントをよくよく見ると、なんとウミガメのシェイブになっています！バイヤーのアソビゴコロが詰まったこちらのデザイン、一見すると普通のペイズリー柄で、ホワイトとブラックの シンプルな色使いなので着回し力も抜群です。メンズのみの展開ですが、女性がメンズライクにオーバーサイズで着こなすのもおすすめ。M/L/LLの3サイズ展開、2,300円（税別）です。

■Blue Ocean Projectとは■

「ブルーオーシャンプロジェクト」は、ウミガメなど海洋動物や海浜環境の保護・保全を通して、海のそばで暮らす人、漁業者、ウミガメと接する人々の暮らしや文化の保全方法も模索していく 取り組みです。当社はこの活動に賛同し、2012年の活動初年度よりこのプロジェクトに参加 しています。オーガニックコットンブランド「オーガビッツ（orgabits）」を使用したオリジナル商品の販売により、お買い上げいただいた金額の一部をNPO法人日本ウミガメ協議会へ寄付しています。これまでに約3万3千点の支援商品を販売、約33万円をNPO法人日本ウミガメ協議会へ寄付しました。当社はこれからも、

ファッションを通じた環境保全活動に取り組んでまいります。

■Blue Ocean Project2016 展開商品■

今回の支援商品は、「ネイティブカジュアル」や「サーフ」といったテーマで、今年らしいデザインに仕上げました。ペイズリー柄のほか、定番のフォトプリント、ポケット付の サンセットデザインをご用意しています。商品には、良質なオーガニックコットン「orgabits」を10%使用。専用の下げ札をつけ、お客さまのご購入1枚につき10円を「ブルーオーシャンプロジェクト」に寄付し、ウミガメの保護や産卵場の環境保全活動に役立てていただきます。背裏ネームには、活動をイメージして、ウミガメの卵をやさしく両手に抱くデザインをプリントしました。

 紀伊民報より（7/13）

千里の浜でウミガメ調査 県外からボランティア15人：一般市民を環境ボランティアに派遣する活動をしているNPO「アースウォッチ・ジャパン」（東京都文京区）の事業で10～12日、和歌山県外からの一般ボランティア15人が、みなべ町山内の千里の浜でアカウミガメの上陸、産卵調査を手伝った。14～16日にも同事業でグループが訪れる予定。アースウォッチ・ジャパンは、市民が自然環境や生物の変化に対する認識や理解を深め、地球環境を守っていく社会づくりを目指し、参加者を募集して、野外での研究者の科学的な調査に市民をボランティアで派遣する事業をしている。

 福井県 海浜自然センター 宮田 克士 様より（7/14）

昨日、アオウミガメの混獲の情報提供がありましたのでお知らせいたします。混獲日：平成28年7月13日（水）午前5時、場所：大島地先（大島定置網内に迷入）、種類：アオウミガメ、甲長：55cm、甲幅：51cm、体重：不明、標識：なし、再放流場所：福井県若狭町世久見鳥辺島沖

 神戸新聞より（7/14）

絶滅危惧種アカウミガメ産卵 洲本で発見：兵庫 県洲本市由良町内田の海岸で12日夜、絶滅危惧種のアカウミガメが産卵した。由良地区での産卵は無人島・成ケ島での2013年以来。同市海岸通1の大浜海岸で6月1日に産卵したウミガメと同一個体の可能性があり、地元住民らは「大切に見守り、どうか無事にかえってほしい」と話している。近くに住む男性

（67）が同日午後10時ごろ、体長1メートルほどのウミガメが産卵後、ヒレで卵に砂をかぶせて海へと引き揚げていく姿を見守った。「最初は大きな石かと思った。テレビでしか見たことがない光景に感動した」と振り返る。地元の住民団体「成ケ島を美しくする会」の花野晃一さんや生嶋史朗さんが13日、NPO法人「日本ウミガメ協議会」と連絡を取り、産卵巣を掘り返した。直径約1メートル、深さ約40センチの穴には120～130個もの卵が。真っ白な卵を一目見ようと近隣住民らが集まり、熱心に穴の中をのぞき込んで自然の神秘に感心していた。連絡を受けた市は同日午後、産卵巣を守るため周囲を柵で囲い、

手書きの看板を設置した。

徳島県 文化財振興課 阿部 直樹 様より (7/15)

徳島県阿南市淡島海岸に3箇所のウミガメの上陸跡がありました。いずれも産卵の有無の判断がつかないので、ご確認のほどよろしくお願いします。1箇所目：足幅80cm程、海水浴場側より降りて、200m程の場所で上陸。備考：足跡はかなり薄くなっており、2~3日前に上陸したと思われる。草むら乗り越えて、その中に複数ビット痕を形成しているが、産卵の有無は判断できなかつた。2箇所目：海水浴場側より降りて、300m程の場所で上陸。備考：足跡はかなり薄くなっており、2~3日前に上陸したと思われる。草むら乗り越えて、その中にビット痕を形成しているが、表面に草が多いかぶさっているため、産卵はしていないものと思われる。3箇所目：足幅90cm程、王子製紙の工場が正面に見て取れる場所に上陸。備考：草むら乗り越えて、その中に複数ビット痕を形成しているが、産卵の有無は判断できなかつた。事務局より：写真を拝見しましたが、どれも産卵していないものと思われます。

神戸新聞より (7/15)

産卵、今度は内田海岸 大浜海岸に続き /兵庫洲本市由良町内田の内田海岸にウミガメが上陸し、砂浜に卵が産み落とされているのが確認された。NPO法人「日本ウミガメ協議会」(大阪府枚方市)によると、アカウミガメとみられる。内田海岸でのアカウミガメ上陸は2年ぶり。12日午後8時半ごろ、近くの主婦、橋本千鶴子さん(70)が自宅から約100メートル離れた内田海岸の砂浜を歩いていたら、そばに黒い影のようなものが見えた。懐中電灯で照らすと、甲羅の長さが1メートルほどのウミガメがうずくまり、後ろ足を動かしていた。橋本さんはすぐその場所から離れた。30分ほどして同じ場所に戻ったところ、ウミガメは最初に見つけた場所から約3メートルほど陸寄りに移動していた。橋本さんは「卵を産みに来ているのをじゃましてはいけないと思い、その場から離れてそっとしておいた」と言い、「無事に卵がかえって海に戻ってほしい」と話した。連絡を受けた環境省自然公園指導員の生嶋史朗さん(54)が13日午後4時ごろ、砂浜を掘ったところ、産み落とされた卵十数個を確認した。市商工観光課は同日、卵を保護するために産卵場所にバーとコーンで囲った。

のとじま水族館 池口 新一郎 様より (7/19)

7月19日 石川県羽咋郡志賀町西海沖定置網にアオウミガメが混獲されました。メジャーで測定した結果、甲長42cm、甲幅33cmでした。生きていたのでそのまま放流されました。

千葉県 船橋市 大野 祐 様より (7/23)

7/23、千葉県勝浦市市原海岸にて上陸形跡を見つけましたのでお知らせします。見た感じでは上陸したものの、護岸に突き当たり引き返したように見えました。事務局より：現地を調査している高梨さんに連絡しました。「この足跡も含めて、今日は上陸1

回、産卵1回で、たぶん同じ個体じゃないかと思う。これで今年は上陸8回産卵4回です。去年は0回だったから増えたと思います」

千葉日報社より (7/23)

ウミガメが産卵できる環境を守ろうと、県立大原高校(浅野照久校長)岬キャンパスの3年生72人が、いすみ市和泉浦海岸で砂浜をきれいにするビーチコーミングを行った。

日高新報社より (7/23)

海南市船尾の県立自然博物館で特別展「泳ぐカメ ウミガメのふるさと和歌山」が始まり、夏休みに入った小学生らでにぎわっている。和歌山県近海ではアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの3種類のウミガメがみられ、みなべ町の千里の浜は日本有数のアカウミガメの産卵地として有名。特別展ではこの3種類のウミガメが泳ぐ姿を見ることができ、ゾウガメなど海外原産の珍しいカメも多く生体展示されている。

匿名の方より (7/23)

牧之原市のシーサイドプール地頭方の近くの浜に、大きなウミガメが2頭漂着しています。事務局より：現在、カメハメハ王国の山本さんが調査に向かわれています。

■ウミガメ速報16-11(8/28)

うみがめニュースレター編集委員会より

日本で唯一のウミガメに関する総合情報誌「うみがめニュースレター」の104号が発行されました。今号には6編の記事を寄稿いただいた。1. 山口氏らの論文では水中で使えるデジタルカメラの画像をつかった個体識別から、アオウミガメの生態解明を目指されている。この手法は世界的にも注目されつつあり、自動識別できるプログラムやアプリ、ネットワークが出来上がる日もそれほど遠くはなさそうだ。2. 海洋大かめ研の論文はアオウミガメが繁殖期には何を食べているのか、というもの。ウミガメは繁殖期には摂餌よりも繁殖への都合を優先するので、餌を食べないことも少なくない。アオウミガメの産卵地として国内では突出した存在で、世界的にも重要な位置にある小笠原ではどうしているのか。3. 木野氏らの論文ではウミガメの甲羅クリーニング、特にタイマイにとってはどの魚種が貢献しているのか、その解明の端緒が開かれた。4. 山崎らでは、特に幼体飼育時にみられる皮膚疾患について症例報告をいただき対処方法の提案をしていただいた。5. 岡本氏にはウミガメの調査現場と大学・水族館とがどのように関わってきたか、そして今後の関係はどうあるべきかを問うシンポジウム、ウミガメ親父の反省会、への参加報告をいただいた。ウミガメの調査・保護に関わる方々には特に、どのような話し合いがもたれたのか、ご一読いただきたい。6. 第27回日本ウミガメ会議へのご案内が掲載されている。産卵地ではなく、初めて漁業と結びついたウミガメどころでの開

催だ。開催地となる高知県室戸市は、昔から私もお世話になっているが、一度は訪れる価値のある場所である。正直アクセスは良くないが、この機会に黒潮の恵みとともにやってくるウミガメに会いに行くこととお勧めする。

PDF版が下記URLから無料ダウンロードいただけますので、是非ご覧ください。

<https://onedrive.live.com/?authkey=JTZSYhWenoU%24&id=F4F1F62342E3DEDD%21105&cid=F4F1F62342E3DEDD>

岩手県 碁石海岸インフォメーションセンター 中野貴之様より (7/22)

大船渡市末崎町の「碁石海岸、大浜」に打ち上げられていたウミガメの写真を送信させていただきます。甲長：65.0cm、甲幅：45.0cm、標識なし。なお、撮影・計測後、海に流されました。事務局より：いただいた写真にはアカウミガメが写っていました。

日高新聞より (7/23)

ボクを見に来てね！：海南市船尾の県立自然博物館で特別展「泳ぐカメ ウミガメのふるさと和歌山」が始まり、夏休みに入った小学生らでにぎわっている。今回の特別展は和歌山県の近くの海で見られるウミガメなど「泳ぐカメ」を中心に、14種類、20匹以上の生きたカメや標本を展示。ウミガメは本州の海岸で卵を産むアカウミガメ、小笠原諸島や南西諸島を主な産卵場所とするアオウミガメ、日本の石垣島などが最北の繁殖地のタイマイの3種類が生体展示され、水槽やプールで泳ぐ姿を見ることができる。このうち、アカウミガメについては、みなべ町の千里の浜での上陸・産卵回数の経年表、同町のウミガメ調査・保護活動などを紹介するパネルもあり、1980年代から続く上陸調査、全国のアカウミガメの産卵状況などが示されている。学芸員の竹中利明さん(43)によると、和歌山県内でアカウミガメの上陸、産卵はみなべ町の千里の浜、白浜町の日置大浜(志原海岸)、田辺市の扇ヶ浜など県南部の海岸で見られるが、最も多いのは千里の浜。「夜になれば海岸が暗くて人もおらず、何より未開発の砂浜の幅が広い点が産卵に適しているのだと思います」と話している。アカウミガメは水槽内を泳ぐ姿を見ることができ、10匹の生まれたての赤ちゃんも展示されている。

千葉県いすみ市 森谷 香取様より (7/23)

ウミガメ漂着死骸及び、やっと産卵3回となった報告をいたします。(1)7月22日に漂着したウミガメ死骸の報告。1. 日在浦に漂着 アカウミガメ 直甲長65.5cm、直甲幅55.5cm、2. 和泉浦に漂着アオウミガメ 直甲長44.0cm、直甲幅36.2cm、(2)産卵がやっと3回となりました。7/6の初産卵以降は、7/18に夷隅川北岸に3回目の上陸があったものの産卵無しのため、近々にと期待していたところ、7/23になって、夷隅川北岸と日在浦に産卵がありました。これまでに、上陸5回、このうち産卵3回となりました。(3)大原高校と長者小の生徒さんによる7/22のビーチコーミング行事の意義。流域面積約300平方KM

にわたる夷隅川の河口がある和泉浦には、夥しい量の流竹木が絶え間なく打ち上がり山積するためアカウミガメの上陸が困難を極めています。私も毎年5/1から毎日、夜明け時より和泉浦の漂着ゴミ拾いを伴うパトロールを16年続けていたことが、昨年、「千葉日報」に載りました。

石井 沙奈様より (7/23)

初めまして。今日(7月23日)の5時過ぎにウミガメの死体を発見しました。茨城県神栖市の日川浜海岸に漂着していました。腐敗していました。大きさはだいたい40~50cmくらいでしょうか。写真も一緒にお送ります。事務局より：いただいた写真にはアオウミガメが写っていました。*****
静岡新聞より (7/25)

アカウミガメ 産卵を初確認 16年度・三保真崎海岸：24日早朝、静岡市清水区の三保真崎海岸で産卵中のアカウミガメを散歩中の住民が発見し、市に連絡した。同日午前、市環境創造課の担当者が砂浜で卵を発見した。市内でウミガメの産卵が確認されたのは2016年度初。午前5時ごろ、同区の会社員浜尾英一さん(50)が犬の散歩をしていたところ、海岸の砂浜で陸側に頭を向けてじっとしているカメを発見した。その後浜尾さんから連絡を受けた市職員が砂浜を丁寧に掘ると、1メートルほどの深さから卵が見つかった。ゴルフボールくらいの大きさで、40個ほどあるとみられる。立ち会った浜尾さんは「産卵できていたようでよかった」と胸をなで下ろした。市と共同でウミガメの保護にあたっている東海大海洋科学博物館(同区)の職員も駆け付け、卵の状態を確認した。人や車の通行が多い場所ではないことや卵を動かすリスクを考慮し、その場に埋め戻す判断をした。同課によると、16年度はこれまでに2回、久能海岸でウミガメの目撃情報があったが、産卵が確認できたのは今回が初めて。担当者は「カメが人間に気付くと、安全ではないと感じて産卵をやめて海に戻ってしまうことがある。見つけたら刺激しないよう気を付けてほしい」と話した。

静岡県富士市役所環境保全課 和泉 様より (7/26)

ウミガメの情報を報告させていただくとともに、孵化までの期間について教えていただきたいので、メールをさせていただきました。まず報告ですが、先週、7月21日の夜(と思われませんが)、ウミガメの産卵がありましたので、報告させていただきます。富士市では、なかなかウミガメの上陸がありません。場所は、JR東田子浦駅の南東の海岸になり、柏原1丁目公会堂から、南下した海岸のところ。砂の中の卵を確認(一番上の5-6個を確認し、埋め戻したので、総数はわかりませんが)しております。

高知県 早稲田 沙織様より (7/26)

高知県東洋町・生見海岸調査中です。7月25日(月)、高知県東洋町・生見海岸においてウミガメの死骸を発見しました。損傷が激しく、雌雄の識別や個体識別のタグは見受けられませんでした。事務局より：いただいた写真にはアオウミガメが写っていました。

高知県 溝渕 幸三 様より (7/31)

今朝は、四万十市双海海岸にて、5月30日産卵のものが15匹孵化脱出していました。事務局より：朝日とともに海へ向かう子ガメの美しい写真を送っていただきました。

高知県 溝渕 幸三 様より (8/1)

今朝、土佐清水市の大岐浜でも子ガメの脱出がありました。かなりの孵化率になりそうです。5月30日産卵のもの。5月16日も間もなくです。

日本経済新聞より (8/5)

希少ウミガメ盗まれた？ 青森の水族館が被害届：青森県営浅虫水族館（青森市）は4日、絶滅危惧種のアオウミガメ1匹が飼育用のプールからいなくなったと明らかにした。何者かに盗まれた可能性があるとして被害届を提出し、県警は窃盗事件として捜査を始めた。同水族館によると、盗まれたカメは甲羅の大きさ約50センチ、体重約15キロで推定4〜5歳。アオウミガメ計9匹を屋外で飼育しており、2日朝、巡回中の飼育員が1匹足りないことに気付いた。飼育員の櫛引俊彦さん（50）は取材に「ウミガメは一般の人には飼育できない。もし手元にあるならすぐに返してほしい」と話した。プールはフェンスで囲まれており、カメが逃げ出すことは困難だが、人がよじ登ることは可能。3日に被害届を出したという。アオウミガメは産卵場所の砂浜が開発されるなどして数が減少し、絶滅の恐れがあるとして国際的な取引が禁止されている。環境省もレッドリストで絶滅危惧種に指定している。

匿名の方より (8/5)

8月5日午前5時頃に、宮城県七ヶ浜町の菖蒲谷海水浴場にてウミガメが漂流しているのを見つけました。私は生きていてと思って写真を撮ったのですが、鼻と目から血を流して、目から流れる血については空気がブクブクと出てきながら血が流れていました。そのことから専門の方に写真を添付して見てもらったところ死後10時間程の死骸という回答を頂きました。その場では死んでいると思わなかったためそのままにして帰ってきてしまいました。画像を添付して送るので、海水浴客の晒し者になる前に助けてあげて欲しいと思います。よろしく願い致します。事務局より：いただいた写真には小型のアオウミガメが写っていました。

狄 道子 様より (8/7)

8月6日（土）15時頃、神奈川県の逗子マリーナの駐車場から大崎公園を望む方向のテトラポットに引っかかるようにして仰向けの体勢で死んでいました。初めてあんな大きな生き物の死体を見たのでショックです。死ぬことは分かっているもなんだか怖くなってしまいました。カメは回収されて葬ってもらえるのでしょうか？もし分かるのなら年齢、死因など知りたいです。事務局より：いただいた写真にはアオウミガメと見られるカメが写っていました。

静岡新聞より (8/8)

ウミガメの卵守れ 湖西・新居海岸でパトロール：近い将来、絶滅の危険性が極めて高いとされるアカウミガメの産卵環境を守るため、静岡県と湖西市、湖西署は8日早朝、同市の新居海岸で、卵の盗掘防止パトロールを行った。県内のウミガメの保護団体から「同海岸で盗掘が行われている」との情報を受け、県が同市で初めて実施した。日の出後の午前5時すぎから約2時間、職員と警察官計9人が2班に分かれて海岸を歩いた。この日は不審者は確認されなかった。一方、海から足跡が一直線に続き、アカウミガメが産卵したか、産卵を試みたとみられるくぼんだ砂地が1カ所見つか、同海岸への上陸が確認された。アカウミガメは県のレッドデータブックで、野生で絶滅の危険性が最も高い「1A類」に位置付けられる。捕獲だけでなく卵の採取にも「1年以下の懲役または100万円以下の罰金」が科せられる。2015年度は御前崎市から浜松市までの遠州灘沿岸に309匹が上陸し、181カ所の産卵跡が見つかった。湖西市では常時監視している団体がなく、データが乏しい。

千葉県いすみ市 森谷 香取 様より (8/9)

残暑お見舞い申し上げます。日本中連日猛暑の日々ですが、こちらでも毎日夜明け前から海岸全域（日在浦、和泉浦、夷隅川北岸、太東漁港脇砂浜）に於いてパトロールと漂着ゴミ拾いを頑張っています。ご心配頂いておりました台風5号は沖を通過し、6〜7mの高波が続きましたが、8/9現在まだ3ヶ所しかない産卵巣は高台に移植しておきましたので無事でした。そして台風は大量の流竹木とゴミの漂着を置き土産に去って行きました。例年この地ではアカウミガメの上陸・産卵が9月中旬までであることや、8月末からは子ガメの孵化・脱出も始まるため海岸全域5.5kmを覆う漂着ゴミの問題は、片付けども片付けども、日常的に絶え間なく夷隅川と海からの漂着が続くため深刻です。さて、8/1夕刻に太東漁港の中にウミガメの死骸が浮いていると通報がありました。かなり大きくて人力では無理なため紐をかけて係留しておき、翌朝に市で頼んだフォークリフトで引き上げて計測しました。アカウミガメで標準直甲長は80.5cm、直甲幅は62.3cmでした。

匿名の方より (8/9)

本日、シュノーケリング中にウミガメの骨を発見しました。場所は瀬戸内海、広島県福山市の走島近辺です。何の骨か分からず調べていたらウミガメだと判明したんですが、瀬戸内海で見つかるのは珍しいみたいなのでお知らせしてみました。ちょうどそちらのHPにも辿り着きましたので。事務局より：いただいた写真にはアカウミガメの下顎、背甲、腹甲などの骨が写っていました。

南海日日新聞より (8/10)

アカマタがウミガメの幼体捕食：ふだんは主に山に生息する無毒蛇のアカマタが海辺に繰り出して子ガメを飲み込んでいる場面が8日夜、奄美市名瀬の大浜海浜公園で撮影された。奄美海洋生物研究会の興克樹会長が撮影した。アカマタは全長約1m。砂浜上で

甲羅の長さが4寸ほどの子ガメ1匹を頭からゆっくと飲み込んでいた。

紀伊民報 (8/11)

ウミガメのふ化を観察：和歌山県串本町有田の串本海中公園センター水族館は、飼育しているアカウミガメが産んだ卵を展示している。ウミガメを繁殖させている水族館は全国でも少なく、特色を生かした展示になっている。順調にいけば卵は9月上旬にふ化する見込みで、同水族館の飼育員、吉田徹さん(34)は「運が良ければ、来場者もふ化する様子が見られます」と話している。*****
いずみ様より (8/14)

国頭村伊地の駐車場前で、ウミガメの死骸が漂着しています。腐敗しており、1mぐらいの大きさです。事務局より：国頭村の嘉陽さんに対応をお願いしました。甲長80cmのアオウミガメでした。

西日本新聞 (8/16)

アカウミガメの卵がふ化 100匹が玄界灘へ [福岡県]：6月16日に福津市西福間の福間海岸で同市では5年ぶりに産卵が確認されたアカウミガメの卵が14日未明にふ化し、保護団体のメンバーらが見守り中、約100匹が玄界灘に泳ぎだした。今回、発見された卵は135個。福間海岸は海水浴などのレジャー客が多いため、同市のウミガメ保護団体「勝浦うみがめ塾」のメンバーが卵を保護。市内の別の海岸に移し、2か月にわたり監視していた。砂からはい出した子ガメは、光を目指して進む習性があることから、職員らが懐中電灯で海の方へ誘導した。

九十九島水族館海きらら 栗須 様より (8/16)

7月末から海きらら付近でアカウミガメを確認しました。入り組んでいる九十九島内にウミガメが入り込むという情報は少ないです。迷い込んできた可能性は十分にあるとは思いますが、毎日のように姿は確認しておりません。しかし、ここ最近、姿を確認することが無くなり、沖に出たのだからと思うのですが、8月14日に、船着き場で右前肢をロープにひっかけているところを確認しました。その連絡を受け、救助に向かったところ、右前肢は何らかの理由で、短くなっていました。ここまで前肢が短くなっているウミガメを見るのは初めてで原因がわかりません。

高知県 溝渕 様より (8/17)

平野で産卵がありました。砂も少なく、大量のゴミの中に産卵し、砂も掛けられず、10cmも無いくらいで卵が出てきました。141個の中ゴミで8個破れていました。直径は4.2cm。足跡幅約85cmでした。

福津市うみがめ課 川島 様より (8/18)

福間海岸にて産卵があったアカウミガメの卵のふ化率調査をしました。135個のうち115個がふ化しました。3つはふ化したものの脱出できず、16個は未孵化でした。

Yomiuri Online より (8/18)

ウミガメ産卵105個 洲本・大浜海岸：アカウミガメの卵が孵化ふかした洲本市の大浜海岸で17日、環境省自然公園指導員の生嶋史朗さん(54)(洲本市)が産卵場所の砂を掘り起こし、砂の中から新たに3匹の子ガメを見つけた。卵の殻の数から、産卵数は105個と確認した。生嶋さんによると、8日朝と昼に各1匹の子ガメが砂浜で目撃され、それ以外にも海に向かった多くの足跡が確認された。その後も、同日夜に10匹、9日夜に4匹、10日夜に6匹が砂からはい出てきたという。

南房総市役所農林水産課 加藤 博隆 さまより (8/18)

ウミガメが座礁していました。死亡・腐敗により、埋設処理しました。種：アカウミガメ、座礁：千葉県南房総市千倉町白子2587-6地先。甲長：約60cm、標識：JP26456。事務局より：2002年石垣島の西海区水産研究所の小林様にお送りした標識でした。放流時は2002年10月に放流。甲長22.7cm、体重2.3kg、放流時の年齢は1歳でした。

鹿児島県自然保護課 フルヤ 様より (8/20)

7月2日に市来海岸に上陸したアカウミガメに7361の標識が付いていました。事務局より：鹿児島県野間池の宮内さんにお送りした標識でした。放流情報は、日にち：2016年6月4日、場所：鹿児島県南さつま市笠沙町野間岬、種類：アカウミガメ、標準直甲長：75.8cm、標識番号：7360(左)、7361(右)。

シネマズニュースより (8/20)

ジブリ最新作『レッドタートル ある島の物語』とコラボ！「ウミガメ展」開催決定：映画『レッドタートル ある島の物語』は、オランダのマイケル・デュドク・ドゥ・ビット監督が、8年の歳月をかけて完成させた初長編アニメーション映画で、スタジオジブリにとって初の海外作家の映画製作となる作品。「海」や「いのち」をテーマに、人生の真実を描き出す。このたび、本作の公開を記念したコラボレーション企画として、東京・墨田区にある、すみだ水族館にて「ウミガメ展」が開催される。特設展示ブースでは、映画の中で描かれたいきものたちについて実在のいきものと比較した解説や、また日本初公開となるマイケル・デュドク・ドゥ・ヴィット監督自らの手によるスケッチ・映画の各シーン展示や、トリックアートを使用したレッドタートルと出会うフォトロケーションでの水中疑似体験などを楽しむことができる。

くまにちコムより (8/20)

ウミガメ産卵地守ろう 荅北町、親子ら海岸清掃：アカウミガメが産卵する環境を守ろうと、荅北町で20日、海岸の一斉清掃があった。家族連れや大学生ら約110人がごみ拾いに汗を流した。トヨタ自動車のハイブリッドカー「アクア」の販売に合わせて全国展開している環境保護活動「アクア・ソーシャル・フェス」の一環で、熊日主催。参加者は、海岸沿いの砂浜や岩場を約1時間巡り、ペットボトルや空き缶、

ビニール袋などを拾い集めた。熊本学園大4年の万田麻央さん(21)は「一見きれいでも、実際に歩くとごみがたくさん埋まっているということに気付いた。みんなで楽しく清掃できて良かった」と話した。町役場では、県希少野生動物調査員の吉崎和美さん=天草市=がアカウミガメの生態や産卵状況などについて解説した。

日高新報より (8/20)

千里の浜のウミガメ産卵 ことしは122回：みなべ町山内、千里の浜のアカウミガメの産卵がほぼ終了した。日本ウミガメ協議会のまとめでは、産卵は122回で、昨年の82回より40回増加。上陸は252回(昨年176回)だった。期間は5月18日から8月9日までで、上陸で一日の最高は6月29日の10回、産卵は7月10日の6回。現在は子ガメの孵化が始まっている。同協議会は「ことしは昨年と比べて時期が早く、ピークが1週間から110日程度早かった。これまでのところ、台風の高波で巣穴が流出するなどの被害はなく、孵化率は高まるのではないかと話している。

産経WESTより (8/22)

瀬戸内のウミガメ、健康診断と甲羅洗いですっきり・神戸空港島：神戸空港島西緑地(神戸市中央区)で21日、人工海水池に放流されているウミガメの健康診断が行われた。甲羅洗いの体験会もあり、約50人の親子連れでにぎわった。池には、須磨海浜水族園(同市須磨区)が漁船との衝突事故などで傷ついたウミガメなど計10頭を一時的に保護している。この日は、大阪湾や播磨灘に生息するウミガメに親しんでもらおうと、そのうち5頭を健康診断を一般に公開。同園職員が身長や体重を測定し、採血も行った。甲羅洗い体験では、子供たちがたわしやタオルを手に、甲羅を力強く磨き、海藻やコケなどの汚れを落とした。同市垂水区の小学5年、内海裕稀君(11)は「ゴシゴシと磨いたら、とても気持ちよさそうだった」と話していた。

鹿児島県 ひだかりようこ 様より (8/23)

標識のついたウミガメを見つけました。発見日時：2016.8.23、場所：鹿児島県肝属郡東風泊の定置網に混獲、タグ：101360、101361、大きさ：甲長の目測：40~50cm、処置：生きていたのでそのまま放流。事務局より：当会の室戸基地で放流された個体でした。放流日時：2016年7月14日、場所：三津漁港(室戸市室戸岬町)、種類：アオウミガメ、標準直甲長：44.3cm、体重11.7kg、Pタグ：101360(左)、101361(右) インコネル：9673A(左)、9674A(右)。

千葉県立博物館 柳 研介 様より (8/25)

本日、千葉県勝浦市農林水産課から、以下の情報をいただきました。発見日：2015年8月15日、発見者：地元住民、発見場所：千葉県勝浦市部原地先、種名：アカウミガメ標準直甲長：710 mm、直甲幅：575 mm、当該漂着個体は漂着場所付近に埋設済み。

Yomiuri Online より (8/25)

ウミガメの産卵地として天然記念物に指定されている徳島県美波町・大浜海岸での今年の上陸、産卵シーズンはほぼ終了した。保護監視期間中の3か月間にアカウミガメが上陸したのは7回で、連続した観察記録が残る1967年以降、2番目の少なさだった。産卵が確認されたのは、2回だった。同海岸では毎年5月20日~8月20日、保護監視員が上陸と産卵を観察している。今シーズンは5月31日未明に初上陸の足跡を発見し、6月1日深夜から2日未明にかけては初産卵と、別の2頭の上陸を確認。相次いでの上陸に、保護監視員も多数の上陸を期待した。しかし、その後の確認は3回にとどまり、15回だった昨シーズンの半数以下で、2006年の2回に次ぐ少なさだった。保護監視員の南利明さん(71)は「来年に期待したい」と話している。

※ウミガメ速報は会員への特典です。無断転載はお断りしております

■うみがめ速報16-12 (9/17)

和歌山東漁協 様より (8/19)

標識のついたウミガメの混獲がありました。日時：2016.8.10 朝。場所：和歌山県東牟婁郡串本町檜野の定置網にて混獲。処置：生きていたのでタグを回収して放流した。事務局により：標識はプラスチックが傷れて最後の1・2行がわかりませんでした。番号は5600?と560??でした。番号より小笠原海洋センターにお送りしたものでした。ELNAの近藤さんからは、おそらく2010年に母島より放流した個体と思われるそうです。

青森県 川北 伊織 様より (8/21)

ウミガメのストランディングと思いき漂着物がありましたので連絡させていただきました。発見日時：2016.8.20 13:30頃。発見場所：青森県三沢市高瀬川河口。ウミガメは立ち入り禁止区域にあり、対岸から観察していました。素人であるため、オサガメではないかという以外特徴は特に分かりませんでした。事務局より：写真には腐敗したオサガメが写っていました。

島根県松江水産事務所水産課 原 颯太郎 様より (8/19)

標識のついたウミガメが混獲されましたのでご報告します。採捕状況：平成28年8月18日5:00くらいに島根県松江市島根町多古漁港沖合にある定置網(多古大敷)にかかったのを発見。一端、船上に揚げ、写真を撮り、タグ番号を控える。生きていたため、その後、海へかえす。発見場所：島根県松江市島根町多古漁港沖合。タグ番号：JPN7566。発見者：多古大敷小川徳積。事務局より：2016年6月30日鹿児島県笠沙町野間池に送った標識でした。

AOL News より (8/29)

ウミガメを空高く放り投げるイジワルなシャチ：シャチの貴重な瞬間をニュースサイト<Caters TV>が公開。巨大なシャチが水しぶきを上げながら大き

くジャンプし、エサらしき物体を放り投げて遊んでいる。エサをよく見ると、どうやらアオウミガメのようだ。シャチがウミガメを捕食することは稀らしいそうだが、このシャチは腹ペコだったのかもしれない。なぜシャチがエサを放り投げるのかは解明されていないものの、世界中の海で目撃されている行動のようだ。

中日新聞より (8/29)

アカウミガメが産卵する美浜町の奥田海岸で二十八日、トヨタ自動車の社員団体HORYU(豊隆会)の会員や家族ら三百人が、近くの南知多ビーチランドで育った四歳のウミガメ二匹を放流した。北太平洋で唯一のアカウミガメ産卵地域である日本国内の育成環境悪化が懸念される現状を踏まえ、HORYUが二〇一三年から続けている産卵地保全活動の一環。昨年からは南知多ビーチランドの協力で、保全に関する勉強会や奥田海岸の清掃などに取り組んでいる。

長野県 川崎 公夫 様より (8/19)

8月21日に宮城県東松島市の野蒜海岸にて、アカウミガメの漂着死体を見つけたので報告します。発見時は逆さまでしたので、ひっくり返りました。頭部、四肢は付いていましたが、全体の腐敗は進んでいました。甲羅や頭部に、大きな傷は見当たりませんでした。前肢には、標識や標識の脱落跡は見当たりませんでした。後肢は多くが欠損していたため確認できませんでした。尾も欠損していたため、雌雄は不明ですが、腹甲の印象や前肢の爪はメスカなどはおもいました。計測は、まっすぐな竹を当てて、後からメジャーで計りましたので若干の誤差(それでも2センチ以下かな)がありますが、直甲長 75cm、直甲幅 56cm。現在、宮城県は台風9号が直撃しているので、流されてしまうかもしれません。

千葉日報より (9/1)

いすみ市の和泉浦で29日夜、アカウミガメの産卵巣2カ所が何者かに荒らされているのが見つかった。柵が壊されて掘られた形跡があり、複数の足跡が確認された。ボランティアで保護活動をしている森谷香取さん(74)が見つけた。2カ所とも7月中旬に産卵されたもので、ふ化間近。四隅にポールを立てロープで囲い、産卵巣を伝える看板を設置していた。いずれも看板が壊され、1カ所はポール2本が引き抜かれていた。掘り返しは浅く、卵まで到達していないとみられる。29日早朝、森谷さんがパトロールした際には異常はなかった。同市が2007年にウミガメ保護条例を制定して以降、被害は初めてという。市の担当者は「ウミガメは絶滅危惧種。いたづらを防止するよう対策を講じたい」とコメントした

紀伊半島ウミガメ情報交換会事務局 濱野 兼吉 様より (9/1)

8月23日那智湾内の旅館「一の滝」近くの海岸に、アオウミガメの漂着死体がありました。宇久井ビジターセンター勤務の生熊さんより連絡を受け、環境省職員2名と生熊さんのご主人の協力で、打ち上げら

れた砂浜に埋めました。大きさは概ね甲長87cm・甲幅70cm。今年、近隣では初めての漂着死体です。

徳島新聞より (9/3)

ウミガメ、産卵シーズン 上陸0 蒲生田海岸：世界で最も長い期間、ウミガメの上陸調査が行われていることで知られ、アカウミガメの産卵地として徳島県の天然記念物に指定されている阿南市椿町の蒲生田海岸で、今年の産卵シーズン(5~8月)の上陸がゼロだったことが市の調査で分かった。住民らが1954年に調査を始めて以来、上陸が確認されなかったのは初めて。詳しい原因は分かっていない。

西川名オーシャンパーク 富山 隆弘 様より (9/5)

千葉館山にある西川名オーシャンパークの富山と申します。水中で発信器つきのアカウミガメを見かけました。撮影日時 2016年9月5日 14:00。撮影場所 西川名オーシャンパーク ピナクル岩付近。写真はありますが動画をアップしてあります。

News salt より (9/5)

保護したアカウミガメの卵がふ化 鴨川シーワールド：鴨川シーワールド(千葉県鴨川市)が保護していたアカウミガメの卵が8月12日にふ化し、同日、海に放流された。同館は、ふ化に適さない場所に産卵されたアカウミガメの卵をウミガメ専用展示施設「ウミガメの浜」に保護し、生まれた子ガメを海に放流する取り組みを2002年から実施している。同館がある東条海岸には毎年アカウミガメが産卵しており、今年は8回の産卵を確認。そのうち、6月10日に確認された卵が河川沿いで大雨による冠水や流失の恐れがあったため、保護収容した。8月1日の18時21分に砂の中から最初の子ガメの頭部が現れ、18時56分には子ガメが一斉に姿を現した。その後、「ウミガメの浜」から砂浜に伸ばした特設の橋を人の手を介さずに自力で渡り、砂浜を歩いて海に帰った。アカウミガメは硬い甲羅を持つカメの中で最大のもの。成体のオスは背甲が約1m、体重は約110kgに達する。1978年から絶滅危惧種に指定されている。日本では福島県以南の太平洋沿岸、能登半島以南の日本海沿岸の砂浜へ産卵に来ることで知られる。4~8月の夜中に砂浜へ上陸し、1回に約100個の卵を産卵する。

山口県 萩水産事務所普及振興班 勢登 章司 様より (9/5)

管内漁業者より、次のとおり混獲情報がありましたのでご報告いたします。混獲日時：平成28年9月4日(日) 午前10時。混獲場所：山口県萩市地先(山口県漁協玉江浦支店自営小型定置網)。標識：7565。揚網後、ウミガメの混獲を確認。タグNo.を確認後、速やかに網の外へ再放流した。操業中であり、種判別やサイズ測定等は行っていません。事務局より：2回目の再発見です。放流は日時：2016年8月2日、場所：鹿児島県南さつま市笠沙町野間岬、種類：アオウミガメ、大きさ：標準直甲長727mm、最小直甲長725mm、タグ番号：7565、7566、処置：体サイズ計測・タグ付け後、放流。その後、日時：2016年8月18日、場所：島根県松江市島根町多古、処置：

写真を撮り、タグ番号を控えた後に海へかえす。

毎日新聞より (9/7)

洲本・今季産卵 198個ふ化 生嶋さん「3カ所確認は初」 /兵庫：今夏、洲本市の海岸に上陸して産卵したアカウミガメについて、環境省自然公園指導員の生嶋史朗さん(54)が産卵状況を調査をしたところ、3カ所で確認された産卵個数は計337個。うち198個がふ化し、砂浜を脱出した子ガメは185匹とみられることが分かった。生嶋さんは「洲本市内の海岸で1シーズンに3カ所で産卵が確認されたのは初めて」と話している。

匿名の方より (9/9)

川崎市の川崎新堤で目撃したウミガメの画像です。呼吸の為に何度か水面から顔を出してその後水中へ潜って行きました。事務局より：写真には遊泳するアカウミガメが写っていました。

茨城県神栖市波崎 篠塚 様より (9/10)

ウミガメの漂着死骸を見つけました。場所：茨城県神栖市波崎(波崎海岸砂丘植物公園下)。毎朝、家の近くの波崎の海岸をランニングしていて、今年は8月中にもう1個体、漂着を目撃しています。事務局より：写真にはアカウミガメが写っていました。

八重山毎日新聞社より (9/12)

ウミガメの産卵地きれいに。清掃作業がスタート：国立公園内6海岸：ウミガメの産卵地となっている石垣島の西表石垣国立公園内の6海岸で10日、漂着物などの清掃作業が始まった。石垣市観光交流協会が環境省から受託したウミガメ繁殖地等保全事業で、地域の公民館の協力を得て実施しているもの。今年は9月から10月にかけて、白保、崎枝、明石、米原、伊原間、川平石崎の6カ所で計画する。この日は明石海岸で行われ、明石地区の住民約30人が数百匹の海岸を歩きながら漂着物を拾い集めた。参加者のうち石嶺真実(まさみ)さん(30)は「私が小学生のころはよくウミガメを見たが、最近ほとんど見なくなった。昔の海岸はくぼみもなかった。清掃は誰かがやらないといけない」と清掃活動の必要性を強調。公民館の伊波誠館長は「毎月1回の農休日には公民館周辺を清掃しており、海岸も年1、2回清掃すればきれいになる」と話した。

釧路市立博物館 野本 和宏 様より (9/16)

アカウミガメの漂着死骸を見つけました。甲長65cmほどです。場所は釧路市桂恋です。

■うみがめ速報16-13 (10/12)

高知県の溝渕さんより子ガメ脱出の報告がありました。今年のシーズンもそろそろ終了のようです。調査者の皆様には、全国のウミガメの情報を集約するためにアンケートを配布しております。この結果は冊子としてまとめられ、第27回日本ウミガメ会議室戸大会(12月9-11日)で報告されます。皆様のご協力をどうか宜しくお願い致します。

事務局より：シンポジウムのお知らせ

10月29日(土)午後、鹿児島大学総合教育研究棟203号室にて、鹿児島大学重点領域研究(島嶼)シンポジウム「島々が育むウミガメたち-研究と保全の最前線から-」が開催されます。演者は奄美の興克樹さんと須磨の石原孝さんで、松沢が前座を務めます。研究者向けではありませんので、わかりやすくお話しします。参加無料、事前登録不要です。お近くの皆様は、是非お誘いあわせの上、お気軽にご参加ください。

青森県八戸市市役所環境政策課 かむむら 様より (9/16)

ウミガメが海岸に打ち上げられているのを地元住民が発見しました。かなり腐敗臭があるため市役所に連絡がありました。発見日時：2016/9/15、発見場所：青森県八戸市大須賀海岸、大きさ：全体で50cmくらいの印象とのこと、処置：市から派遣された回収業者が回収し、消却処分の予定。

釧路市立博物館 野本 和弘 様より (9/16)

釧路市桂恋において、アカウミガメの漂着がありました。甲長は65cmでした。、情報提供をさせていただきます。

岩田 勝幸 様より (9/19)

昨日、磯釣りに中に標識付の海亀を釣りましたので連絡します。場所、東京都八丈島 月夜ヶ鼻。写真添付します。事務局より：写真から、未成熟のアオウミガメでした。後ろ足に白のロートタグが付いていましたが、標識番号は読み取れませんでした。

朝日新聞社より (9/19)

静岡)ウミガメ飼育の御前崎小学校に子ガメ20匹

高知県椎名 宮崎 一志 様より (9/23)

ウミガメの漂着がありました。事務局より：室戸基地の田中が調査に向かいました。場所：椎名漁港の食堂裏の浜(室戸岬椎名)、種類：タイマイ、状態：死亡、体サイズ：標準直甲長 312mm、最小直甲長 298mm、標準直甲幅 236mm、処置：体サイズ計測後、砂浜に埋設

株式会社テツゲン名古屋支店水処理センター 飛田 様より (9/26)

新日鐵住金(株)名古屋製鐵所内の海水除塵設備にタグを装着したウミガメの死骸が漂着しましたのでご連絡させていただきました。事務局より：標識番号より、南知多ビーチランドから放流されたアオウミガメでした。

北海道根室地区水産技術普及指導所 遠藤 様より (9/26)

本日、ウミガメが定置網に混獲されました。曲標準甲長 67.0cm、曲甲幅 65.8cm。標識の有無 四肢ともに無し(痕跡も無し)。写真を添付いたしましたので、種類等をお教え願います。事務局より：

写真からアカウミガメとわかりました。

朝日新聞社より (9/27)

目合った？ 1歳ウミガメ、360度カメラに興味津々：鴨川シーワールド（千葉県鴨川市）の「エメラルドの入り江」と呼ばれる水槽は、幅16・5メートル、奥行き13・5メートル、深さは1・3メートルもある。白砂が広がる水底に360度動画用カメラを設置した。

Yomiuri Online より (9/28)

美波町の日和佐うみがめ博物館「カレッタ」で27日、今月初めに生まれたアカウミガメの赤ちゃん10匹が、一般公開された。

匿名の方より (9/29)

私は鹿児島で漁師をしています。本日、南さつま市笠沙町野間池沖において、標識のついた海亀が網にかかっておりましたので、報告いたします。誠に残念ですが既に死んでおりました。事務局より：野間池の宮内さんが放流した個体でした。放流情報は、日時：2016年5月23日、場所：鹿児島県南さつま市笠沙町野間岬、種類：アオウミガメ、大きさ：甲長368mm、タグ番号：7346、7347でした。

千葉県香取市 長嶋 秀樹 様より (10/3)

早速ですが昨日（2016年10月2日 13:00頃）。茨城県神栖市日川の日川浜海水浴場に写真撮影に訪れた際、波打ち際でウミガメの死骸を発見しました。事務局より：写真からアオウミガメでした。

CNET Japanより (10/4)

新江ノ島水族館「ナイトワンダーアクアリウム2016」10月8日（土）より新コンテンツ「ウミガメ親子のおとぎ話」がスタート！：10月8日（土）からスタートする新コンテンツは、夜の砂浜で、お母さんウミガメが語るおとぎ話。子ガメたちが夢中で聞いていると、不思議な世界が目の前に広がります。プロジェクトマッピングが描く夢の物語をお楽しみください。◇ナイトワンダーアクアリウム2016～月光に漂う水族館～ ◇2016年7月16日（土）～12月25日（日）17：00～20：00、休催日：10月15日（土）

NHK News Webより (10/8)

News Up ウミガメ上陸初のゼロ産卵地に異変：海を旅して砂浜にやってくるウミガメが、徳島県のある海岸にことしの夏は1回も姿を見せませんでした。その場所は、アカウミガメの産卵地として知られる徳島県阿南市の蒲生田海岸です。産卵の時期に上陸がゼロだったのは、地元の住民らが調査を始めた昭和29年以来、初めて。

山口県 浜地 様より (10/11)

山口県阿武郡阿武町奈古筒尾、山口県外海第二栽培漁業センターの近くにウミガメの死体が打ち寄せられていました。事務局より：写真には未成熟のアオウミガメが写っていました。

愛知県春日井市 笠原 様より (10/10)

愛知県美浜町富具崎漁港内、漁港で釣りをしてい

る最中に、アオウミガメと思しきウミガメが現れました。甲羅の長さで60-70cmくらいでした。2016年10月10日午前10時～10時半。これまでで初めての経験でした。ネットで調べ、協議会のサイトにたどり着き電話しました。また見かけたらご連絡します。

高知県 溝渕 様より (10/12)

おはようございます。今朝、8月17日アカの産卵141個中8個割れで、133個から72匹が55日目で脱出しました。

■うみがめ速報16-14 (11/23)

元ウミガメ協議会会長 亀崎 直樹 様より (10/17)

ストランディング情報です。発見日は10月17日、場所は北海道苫小牧市。アカウミガメです。北海道の三小田 和宏さんより「本日ウミガメを発見しました。かわいそうなので、亡骸の近くで弔い火を起こしております。」とのことでした。

宮崎県 匿名の方より (10/17)

定置網にウミガメがかかっていたので、連絡しました。捕獲日：2016年10月17日、場所：宮崎県日向市細島の定置網、標識：78686、種：おそらくタイマイ。アカ、アオは頻繁に混獲されるが、それとは異なる。背甲縁辺部がギザギザになっていた。対応：その場で生きたまま放流。計測なし。事務局より：この個体は沖縄美ら海水族館さんにより放流されたものでした。放流日：2016年4月21日、種：タイマイ、標準直甲長：84.5cm、性別：メス

神奈川県 鈴木 様より (10/18)

標識の付いたウミガメが漂着していたので連絡しました。発見：2016/10/17、場所：神奈川県横須賀市長井漁協付近、サイズ（目測）：甲長50cm 甲幅：40cm、タグ：ロートタグJP0715、インコネル9528-A、備考：市に処分依頼の連絡をした。事務局より：この個体は徳島県日和佐うみがめ博物館カレッタさんが放流したもので、9月末に沖合放流したアカウミガメとのことでした。

千葉県 岡田 真人 様より (10/19)

腹側に屈折していたので「幅」は、生きていた時よりも狭くなっているかな 甲羅の長さが70cmプラスアルファ、幅は60cm位。事務局より：写真にはミイラ化したアカウミガメが写っていました。

島根県 しまね海洋館 村上 昌吾 様より (10/19)

本日、混獲情報がありましたので報告します。日時 2016年10月19日11時30分頃、場所 島根県隠岐郡 飯古定置（高田底建網）、種 アカウミガメ（死亡）、タグ 左後肢ブルータグJPN97289、連絡 飯古定置→隠岐支庁水産局島前出張所→隠岐支庁水産局水産課→しまね海洋館、腐臭が強く海洋投棄

したそうです。タグ歴が分かれば教えてください。事務局より：この個体は種子島タートルクルーの久米満晴さんが放流したものでした。放流日：2016年3月3日、標識：No.97289、種類：アカウミガメ、直甲長：82 cm、直甲幅：66 cm

静岡県 伊豆三津シーパラダイス 土屋 考司 様より (10/21)

防波堤で釣りをしていた方から弱ったウミガメがいるとの連絡をいただきましたので連絡します。日：2016/10/21、場所：静岡県沼津市内浦小海154付近の岩場、種：アカウミガメ、直甲長31.8cm、直甲幅25.8cm、体重5.86kg、標識：JP0542、事務局より：この個体は串本海中公園さんにより放流されたものでした。なお、その後健康状態が回復したため、10/27に三津シーパラダイスさんにより静岡県沼津市大瀬崎沖から再度放流されました。

鹿児島県 ヤナギガワ 様より (10/28)

変わったウミガメがかかったので連絡しました。発見日：2016/10/28、6:00、場所：鹿児島県肝属町内之浦漁協の定置網、タグ：青78686(1個のみ)、大きさ：全体の見目で120cm、重さ：大人4人がかりで持ち上げた、処置：元気に生きていたのでそのまま放流、事務局より：この個体は、2016/10/17に宮崎県にて発見された個体と同一個体で(上記参照)、沖縄美ら海水族館さんにより放流されたものでした。放流日：2016年4月21日、種：タイマイ、標準直甲長：84.5cm、性別：メス

吉川 洋一 様より (11/6)

弱ったウミガメが漂着していたので連絡します。仮死状態ですが、5分に1回くらいの間隔で、頸を高く持ち上げ呼吸していました。頭に鋭利なもので切ったような外傷があります。この前日の11/4午後、海まで運び放流しましたが、潜水はできませんでした。手足動かすが、遊泳力はない模様。その後、潮の流れによって浜に戻されたようです。撮影日：11月5日 15時30分頃、甲羅の長さ：約70cm、事務局より：エビとカニの水族館の平井厚志さんに連絡し、個体を保護していただきました。

匿名の方より (11/10)

千葉県富浦町の住人からウミガメ漂着の連絡が入りました。場所は館山市の沖ノ島、大きな個体とのこと。発見者：小倉博雄さん。事務局より：エバーラスティングネイチャーさんに連絡しました。

匿名の方より (11/12)

千葉県館山市坂田海岸の駐車場のトイレ前に大きなウミガメが打ち上がっています。事務局より：エバーラスティングネイチャーさんに連絡し、調査がなされたとのことでした。

福岡県 海の中道 宮地 勝美 様より (11/13)

当館の近くの定置網にてウミガメの混獲が有りましたので報告します。日：2016年11月11日、場所：福岡市玄界灘志賀島定置、種：アオウミガメ、状

態：生存、標識：左前肢のみ 青ジャンボJPN7153、甲長：77.8 cm、甲幅：60.9 cm、その他：特徴として甲羅の一部にへこみがある。写真・計測後同日沖合で放流。事務局より：この個体は鹿児島県野間池の宮内叶さんにより放流されたものでした。放流日：2015年9月7日、場所：鹿児島県野間池笠沙しろせ定置網、種：アオウミガメ、標準直甲長：77.0cm

匿名の方より (11/13)

静岡県静岡市清水区の三保の松原付近にウミガメが打ち上がっています。事務局より：いただいた写真には小さめのアオウミガメが写っていました。また、付近の学生に見に行ってもらいましたが、発見できませんでした。

定置漁業組合 森 様より (11/14)

ウミガメの混獲情報がありました。漁業者に処置を教えてあげていただけませんか。発見者：山口県長門市山口県漁業協同組合通(かよい)支店、日時：2016/11/14、状況：定置網に混獲、タグ：7613、7614、種類：アオウミガメ、事務局より：生きて元気とのことでしたので放流をお願いしました。また、この個体は鹿児島県野間池の宮内叶さんにより放流されたものでした。放流日：2016年9月28日、場所：鹿児島県笠沙町野間池しろせ定置、種：アオウミガメ、標準直甲長 735mm、直甲幅 568mm

■うみがめ速報16-15 (12/15)

第27回日本ウミガメ会議 in 室戸が12月9-11日にかけて開催され、約200名が参加し、盛況 のうちに終了しました。うみがめ産卵地以外では、初めての開催で主に漁業とウミガメについての講演が行われました。地元の漁師さんたちによるウミガメの話し、魚の美味しい食べ方、漁獲される魚の変化、今年はバショウカジキが未だに取れているなど。普段の会議とは一味違った内容となりました。ウミガメを知るためには、彼らの生活場所である【海】をもっと知らなくては行けないと強く感じました。来年度のウミガメ会議は2018年2月神戸で国際会議と同時開催となります。

ウミガメ会議でも販売していた。青幻舎が発行する実物大うみがめ絵本『BiGBOOK』がテレビでご紹介頂く事が決定いたしました。明日16日(金)の朝の情報番組、NHK「あさイチ」にて取り上げられます。*****
12月29日9:30より、NHKで沖縄県黒島の特集があります。当会付属の黒島研究所も紹介されます。

公益財団法人社会貢献支援財団 第47回社会貢献者表彰

屋久島うみがめ館 大牟田一美さんが功績：大牟田さんは、ふるさとの自然を撮りに島に戻られたところ、永田の砂浜の開発を知り、浜を守るために、そこへ産卵に訪れるウミガメに目をつけて調査をはじめられました。30年以上前のことです。当初は適当なところで人に任せるつもりでいたそうです。その

後、県ウミガメ保護条例が制定され、ウミガメ協議会が発足して永田がアカウミガメの最大の産卵地であることが判明するに至り、止めるにやめられなくなり、大勢のボランティアや学生、研究者を受け入れ、金にならない活動を「男の意地」だけで今日まで継続されてきました。意地の根源である反骨心と強い自負心と、妥協を許さない強いこだわりは、時に要らぬ誤解と反発、周囲と衝突するを招くこともありました。しかし、あのとき大牟田さんが立ち上がらなかつたならば、今頃、他の浜のように変貌し、永田はウミガメ産卵地ではなくなったかもしれません。今回の受賞の報に接し、あらためて、大牟田さんの偉大な足跡を振り返るとともに、「自然環境を守る」と言葉の重みについて思案しました。本受賞を心からお祝い申し上げます。

徳島新聞社より (12/4)

ウミガメ産卵最低の24・4% 県内台風で砂浜浸食：徳島県内の海岸に今年、アカウミガメが上陸した回数のうち産卵したのは24.4%で、1999年の調査開始以来最低だったことが3日、阿南市の富岡公民館で行われた県アカウミガメ上陸・産卵調査報告会で明らかになった。

Excite newsより (12/13)

希少動物を食べて精力増強!? 世界最大のウミガメ解体映像がネット流出。事務局より：映像にはオサガメが写っていました。

高知新聞社より (12/10)

高知県で「日本ウミガメ会議 室戸大会」保護ウミガメを放流：ウミガメの生態調査や保護活動などを報告する「日本ウミガメ会議室戸大会」が12月9日、高知県室戸市で開幕した。室戸市に研究拠点を置くNPO法人「日本ウミガメ協議会」（松沢慶将会長）が主催し、初日は保護されていたウミガメを保育園児や大学生らが放流した。

屋久島うみがめ館 様より (11/11)

11/10、西隆一郎氏より、再捕情報が入りました。長島町の東町漁協から連絡があり、JPNタグのついたアオウミガメ（の死体）が網に入っていたので、回収して冷凍庫にて預かっていると連絡がありました。外見が驚くほど綺麗な個体で、フジツボ海藻傷も全くなしです。どこかでか飼育していたものが放流されて、あまり時間がたっていない段階で弱ってしまった個体かなと思ってしまいました。青色のタグの番号が、JPN7645です。どのタグがお分かりでしたら、教えてください。事務局より：鹿児島県笠沙町野間池の定置で混獲・放流された個体でした。日時：2016年11月2日、場所：鹿児島南さつま市笠沙町野間岬、種類：アオウミガメ、大きさ：SCL66.7cm、MCL66.4cm、CCL70.5m、SCW53.3cm、CCW65.5cm、標識番号：7645、7646、処置：体サイズ計測・タグ付け後、放流

山口県漁業調整取締班 石田 様より (11/25)

タグの付いたカメが混獲されました。発見日時：

2016/11/25、場所と状況：山口県長門市 黄波戸(きわど)地区 沖の定置網に混獲。処置：生きていたので放流、タグ：JPN7637。事務局より：鹿児島県笠沙町野間池で放流された個体でした。放流日2016年10月19日、場所：鹿児島南さつま市笠沙町野間岬、種類：アオウミガメ、大きさ：SCL77.9cm、MCL77.2cm、CCL80.2cm、SCW62.3cm、CCW76.4cm、標識番号：7636、7637、処置：体サイズ計測・タグ付け後、放流

当会 平井 紗綾 様より (11/28)

友人より、オサガメの漂着情報がありました。場所：福岡市志賀島(しかのしま)国民休暇村前の浜。甲長：160センチ、四肢・頭部：欠損なし、背部・腹部・頭部：少し白骨化あり。発見者：築地 功介。マリワールド海の道が調査にされました。

ウミガメ保護監視員 中向 幸一郎 様より (11/29)

寄田海岸で魚釣りをしていた人からウミガメの死亡漂着について情報提供があった。同日11時30分から村岡と西の2名で寄田海岸を確認したところ、導流堤北側すぐの場所にアオウミガメの死体を発見した。漂着場所から約600m北側の、満潮時でも水没しない砂地に埋設した。アオウミガメ（甲羅45cm×38cm）、タグなし。

三重県 牧野 海喜 様より (12/1)

本日、三重県熊野市の漁師さんから再捕の連絡をいただきました。場所は、三重県熊野市志原沖の定置網で、生きていたので放流したとのこと。甲長が目測で60～70cm、付けていたタグが、ジャンボ（青）7705とのことでした。事務局より：北大の清水晋氏にお送りしたものでした。放流場：2016年10月11日、場所：北海道茅部郡森町尾白内沖 定置網朝起こし。種：アカウミガメ、直甲長：64.4cm、直甲幅：53.4cm、甲高さ：28.6cm、重量：44.6kg、左後脚JPN 7705、右後脚JPN 7706、内部標識 Trovan ISO型、左肩部 3921 4500 0334 633

長崎県 ニコラス 様より (12/2)

今日はrunningの途中に出会ったかめ。美しいかめが亡くなって悲しいけど報告します。長崎の五島列島の大浜町です。火ばさみは44cmのでフィンのサイズちょっとわかるのかな？海に打ち上げられていた事務局より：写真には、甲長80cmほどのアオウミガメが写っていました。

下関市立ものせき水族館 井上様より (12/2)

アオウミガメのストランディングがありましたのでご報告いたします。発見日時：12月2日、発見場所：山口県下関市JR福江駅そばの海岸、地元一般の方より当館へ連絡があり、当館のスタッフが計測、埋設実施。種：アオウミガメ、状態：新鮮。現地にて埋設。直甲長：72.1cm、直甲幅：53.2cm、曲甲長：76.2cm、曲甲幅：70.3cm、尾：3.1cm

すさみ町立エビとカニの水族館 平井 厚志 様より (12/4)

11月は混獲とストランディング4個体の情報があります。アオウミガメ3個体、タイマイ1個体です。ストランディング個体ですが徐々に回復しているようです。餌は食べませんが少しずつ四肢を動かすようになり、搬入直後に比べてよく動いています。できれば放流まで行いたいと考えています。

長崎県対馬市 西 弥生 様より (12/4)

今日、長崎県対馬市豊玉町佐保クジカ浜に於いて、漂着ウミガメの個体を見つけました。頭の前からお尻まで50センチくらいありました。亀の顎の骨がありました。最初、亀の顎と気が付きませんでしたので、他の骨を探すことができませんでした。

環境省西表自然保護官事務所 日名 耕司 様より (12/5)

タイマイがロープの束にもつれて漂着していました。発見日時：2016.12.5、発見者：前大さん、場所：野原海岸、種別：タイマイ、標準曲甲長：35.0cm、最小曲甲長：32.0cm、曲甲幅：30.5cm、体重：2720g計測方法：メジャー、引き潮時刻を待って放流しました。

■うみがめ速報16-16 (12/27)

神戸市立須磨海浜水族園にて理科授業「ロケット打上げとウミガメのつながり」を開催します。三菱重工グループはアカウミガメの一大産卵地である種子島の宇宙センターからロケットを打ち上げていきます。生物多様性の保全を目的として、2015年から地元団体「TurtleCrew」との連携による日本ウミガメ協議会の保全調査を支援していただいています。今回、三菱重工グループが主催する理科授業において、松沢が、ウミガメの生態と産卵の神秘、絶滅危惧種の決め方、そしてNASAによるウミガメ保全の取り組みなどを、ご紹介します。場所は須磨海浜水族園、対象は小学生（1～6年生）で、参加者本人と保護者代表1名が無料でご参加いただけますのでぜひお申込みください。

前回の速報に誤りがありました。「12月29日9:30より、NHKで沖縄県黒島の特集があります。当会付属の黒島研究所も紹介されます。」⇒本番組はNHK九州沖縄のみでした。全国の黒島ファンの皆様、ごっかりさせてしまい申し訳ありませんでした。全国放送されるような新しいネタを考えておきます。

NHK「あさいち」にて取り上げられた『BiGBOOK』の浦島太郎バージョンを黒島研究所でも販売致します。ご希望の方は当研究所にご連絡下さいませ。

三重県水産研究所 久野 様より (12/16)

12/11尾鷲市の九鬼定置漁業株式会社から三重県水産研究所にウミガメの混獲の情報がありました。発見日：2016.12.11、場所：熊野市尾鷲沖の定置網、標識：J6161、J6162、I5486、大きさ：全長が目測で150cm、種：アオウミガメ。処置：生きていたので

のまま放流。事務局より：標識番号より小笠原のクラブノア母島にお送りした標識でした。以下、クラブノアの増形様からの情報です。2016年4月23日 母島沖にて捕獲、産卵期間母島沖港内生簀にて過ごし、8/13に放流しております。

Yomiuri online (12/17)

アカ落としカメ年越し：美波町の日和佐うみがめ博物館「カレッタ」で16日、年末恒例のウミガメのアカ落としが行われた。

MUHAMMAD IKHSAN RAMBE 様より (12/16)

インドネシアのパプア Yapen Islandsで、標識がついたタイマイが再発見されました。標識番号の4・5ケタ目が読めなかったために詳細はわかりませんが、沖縄ちゅら海水族館から放流したものだと思われま

紀宝町 岡崎より (12/17)

鵜殿漁港で再捕獲がありました。発見日：2016.12.15、場所：三重県南牟婁郡御浜町阿田和沖の定置網、標識：97482、97483 インコネル：4898A、4899A、SCL：595mm MCL：587mm、処置：測定後に放流。事務局より：東京大学の福岡さんにお送りした標識でした。放流日：2016/10/30、放流場所：岩手県大槌湾、種：アカウミガメ、SCL：59.6cm、SCW：55.0cm、標識：97482、97483、4898-A、4899-A

徳島県立徳島科学技術高等学校 前田 陽一 様より (12/17)

12月16日、鳴門市北灘町の海岸にて生徒と漂着物調査を行っていたところ、ウミガメの死体を見つけたのでメールさせていただきました。直甲長は60cm程度でした。その際に撮影した写真を添付させていただきます。事務局より：写真にはアオウミガメが写っていました。

佐賀県玄海水産振興センター 藤崎 様より (12/19)

佐賀県唐津市の加唐島の定置網に標識がついたウミガメ(100762)が入網したとの連絡が漁業者よりありました。標識ウミガメはすぐに放流したとのことです。事務局より：当会の室戸調査基地から放流したウミガメでした。放流情報：2015/7/27、高知県室戸市、アカウミガメ、甲長74.2cm、甲幅60.3cm、標識：プラスチック100762、金属8344A、定置網による混獲

長崎県長崎市 岩永 征司 様より (12/20)

標識がついたウミガメが混獲されました。発見日：2016.12.20、場所：長崎県長崎市野母崎、磯建網による混獲、タグ：JB7586、大きさ：甲長が目測で40～50cm、処置：生きていたので放流。事務局より：鹿児島県野間池より放流した個体でした。日時：2016年9月1日、場所：鹿児島南さつま市笠沙町野間岬、種類：アオウミガメ、大きさ：SCL38.4cm、MCL37.6cm、標識：7585、7586、処置：体サイズ計測・タグ付け後、放流

 神戸市立須磨海浜水族園古満目出張所 今北 大介 様
 より (12/21)

2016. 12. 21、高知県幡多郡大月町古満目の水主大
 敷組合の定置網において標識のついたウミガメが混
 獲されました。種はアカウミガメ、標識：7929、
 7930、インコネル9967-A。事務局より：ウミガメ会
 議室戸大会の研修会でタグ付け、放流した個体でし
 た。放流情報、日時：2016年12月9日、場所：海の駅

とろむ（室戸市室戸岬町）、種類：アカウミガメ。
 大きさ：SCL76.3cm、インコネル：9967-A、
 14403-A、プラタグ：JB7929, 7930。

 鹿児島県薩摩川内市環境課 堂前 様より (12/19)

ウミガメ保護監視員の中向さまが漂着したウミガ
 メを発見しました。日付：12/19、場所：寄田海岸、
 種：アオウミガメ、処置：埋設処理

■編集後記

先日、ウミガメの交雑に関して大変気になる論文が公表された。2017年1月発行のMarine Biology誌に掲載されたSoares氏らの論文で、ブラジルのバイーア (Bahia) 州の海岸で産卵するアカウミガメやタイマイに比べて、この両種の交雑個体は遜色のない子ガメの生産能力を持っていた、というものだ。ブラジルでの交雑はここ40年程度の間に進んできたとの研究結果もあるので、交雑の更なる拡大が懸念される。一方で、交雑可能な2種が一続きの海の中でどのように種分化してきたのか、この謎に対するヒントも得られるかも知れない。私にはまだ思い浮かばないのが残念だが。

さて、今号には6編の記事を寄稿いただいた。久米氏らの論文では主要なアカウミガメの産卵地近くに設置された定置網に入網したウミガメ類の出現特性がまとめられている。他地域の定置網からの報告とも比較されており、ウミガメの全国的な動きも垣間見える。志村氏らからは沖縄島でのヒメウミガメの漂着について報告いただいた。左前肢が欠損していることや極めて小さなサイズであることから様々な考察をされている。亀田氏らからは八重山諸島西表島での長年に亘るアオウミガメの上陸状況のモニタリングとその分析結果を報告いただいた。多くの方が関わりながら1984年より続く調査によって見えてくる結果は重い。(石原)

うみがめニューズレターでは、身近な、ちょっとした出来事のお知らせや感想もお待ちしています。変な卵が見つかった、いつもは見ない場所でウミガメを見つけた、いままで付けてきた記録をちょっとまとめてみた、などなど、どんなことでも「ウミガメ」の文字が入れるものを残していきたいと思います。専門的な文章である必要はありません。気軽にnewsletter@umigame.orgまでご相談ください。

※ 次号は2017年7月末の発行を予定しています。

うみがめニュースレターに投稿される方へ

本誌はウミガメに関する国内唯一の総合情報誌として、関連するあらゆる情報を取扱い掲載しています。記事は投稿を原則として、生物学的知見はもちろんのこと、うみがめに関わる民俗、保護、論評や意見などの他に、英文誌に掲載された論文の和訳なども含みます。形式は特に定めるものではありませんので、読者の皆様もどうぞお気軽にご寄稿ください。

この他に、査読を必要とする和文原著論文も受け付けます。原著論文を希望される方は、投稿時にその旨を編集委員にお伝え頂き、下記の投稿規定に従って原稿を書いて下さい。

なお、本誌はISSN番号の登録を受けた定期刊行物で、海外の研究者へも配布しております関係上、編集の際に英文の要旨とタイトルをつけております。予めご了承ください。

【うみがめニュースレターへの原稿送付先と本誌に関わる連絡先】

E-mail: newsletter@umigame.org

〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302

日本ウミガメ協議会内 うみがめニュースレター編集委員会 石原孝

原著論文の投稿規定

～専門家の審査を希望されない方は以下の形式に整える必要はありません～

(2012年12月31日制定)

(2013年5月10日改定)

1. 投稿資格

うみがめニュースレター（以下、本誌）に投稿される原著論文は、原則として未発表のものとするが、うみがめニュースレター編集委員会（以下、本会）の協議により、特に有益と認められる場合はその限りではない。

2. 査読

本会の選任した 2 名の査読者によって、原稿の審査を行なうこととする。内容に問題があると判断された場合は、本会として著者にその旨を通知する。

3. 原稿の提出方法

本誌への投稿原稿は、E-mail による電子ファイルの送付を基本とするが、郵送でも可能とする。電子ファイルは、テキスト形式のファイルやマイクロソフト社製ワードなど標準形式のファイルを用いること。なお、郵送の場合でも、可能な限り電子媒体（CD-ROM など）に保存した電子ファイルを同封する。

4. 原稿の用語と表記

- 1) 原稿は日本語を用いて、1 ページの構成は 0 行 25 文字、24 行とする。句読点は、「,」「.」を用いることとする。
- 2) 本文中に最初に出てきた生物の種名は、標準和名と学名を併記し、標準和名はカタカナ表記、学名はイタリック体指定を行なうこととする。
例 アカウミガメ *Caretta caretta*
- 3) 本文中にて著作物を引用する場合は、次の表記に従うこととする。著者が 3 名以上の場合は和文では「ほか」、英文では「et al.」を用いる。
- 4) 地名はわかりやすい表現を用い、緯度経度の表記もしくは調査地を図示するのが望ましい。
- 5) 単位はメートル法を用いる。

5. 原稿の構成

原稿は原則として、「表題」（和文および英文）、「著者名」（和文および英文）、「代表者の連絡先」（和文および英文）、「英文要旨（Abstract）」、「Key words」、「はじめに」、「材料と方法」、「結果」、「考察」、「引

用文献」, 「謝辞」, 「表」, 「図」の項目から構成することとする。なお, 英文要旨は 300 words 以内, Key words は内容を適切に表現する英単語 5 つ以内とする。

6. 引用文献について

- 1) 本文中の引用文献の表記については下記の例を参考にすること。

例 鈴木 (1990) および田中・上田 (1995) は...
...との報告があるが (村田ほか, 2000 ; 大野, 1980a, b, 1983), ...
...である (Suzuki and Ueda, 1985 ; Tanaka et al., 1998)。

- 2) 文献の引用方法は下記の通りとする。なお, 配列順は, 第一著者の姓のアルファベット順, 第一著者が同一の場合, 第二著者のアルファベット順, 以下第三以下の著者について, 上記の指示に従うこととする。すべての著者が同一の場合は発表の年号順とし, 同一著者, 同一年に出版された著作物に関しては表題のアルファベット順に配列することとする。この際, 同一著者, 同一年に発表された著作物に関しては, 配列順に「a」, 「b」, 「c」... の記号を年号の後ろに, 2000a, 2000b のように付記することとする。
雑誌などからの引用: 氏名・年・表題・雑誌名 巻(号): 頁-頁。
単行本からの全体引用: 氏名・年・書名・出版社名, 所在地・総頁数。
単行本からの一部引用: 氏名・年・表題・引用頁・編集者(編) 書名・出版社名, 所在地。

例

Kamezaki, N. 2003. What Is a Loggerhead Turtle? The Morphological Perspective. p. 28-43. In: A. B. Bolten and B. E. Witherington (eds.) *Loggerhead Sea Turtles*. Smithsonian Books, Washington, D.C.

近藤康男 . 1968. アカウミガメ . 海亀研究同人会, 徳島 . 96p.

松沢慶将・亀崎直樹 . 2008. ウミガメ類におけるマーキング法 (特集 両生類・爬虫類におけるマーキング法). 爬虫両棲類学会報 2008(2): 133-137.

Matsuzawa, Y., K. Sato, W. Sakamoto and K. A. Bjorndal. 2002. Seasonal fluctuations in sand

temperature: effects on the incubation period and mortality of loggerhead sea turtle (*Caretta caretta*) pre-emergent hatchlings in Minabe, Japan. *Mar. Biol.* 140: 639-646.

宮脇逸朗 . 1994. 和歌山県串本町地先海域で捕獲されたウミガメ類とその直甲長について . p. 75-80. 亀崎直樹・藪田慎司・菅沼弘行 (編) *日本のウミガメの産卵地*. 日本ウミガメ協議会, 大阪 .

Spotila, J. R. 2004. *Sea Turtles: A Complete Guide to Their Biology, Behavior, and Conservation*. Johns Hopkins University Press, Baltimore. 227p.

7. 図・表

- 1) 図表はそのまま製版できるものとし, 仕上がりサイズは半ページ幅, もしくは全ページ幅になることを考慮すること。
- 2) 図には下部に, 表には上部に図 1. ...あるいは表 1. ...と図表ごとに通し番号を記し, 図表の題名, 説明文を記す。なお, 本文を読まなくても理解できる程度の説明文を記入することとする。説明文は和英併記とする。
- 3) カラー図表は印刷版には適用不可であるが, PDF 版においては適用可能であるため, カラー図表を希望する場合は, 投稿時にその旨を明記することとする。
- 4) 写真は図の扱いとする。
- 5) 図表が複数ある場合は, 投稿時は 1 つずつ別のページに記すこととする。
- 6) 表および追記のテキストが含まれる図は, マイクロソフト社製エクセルに対応した形式のものを用いること。

8. 校正

校正は原則として, 本会の責任の下に行なうこととするが, 著者に校正を依頼する場合がある。

9. 別刷

PDF 版は無料で配布される。印刷版を希望する場合は, その旨を投稿原稿表紙に朱書きする。なお 10 部単位で受け付けるが, 作製費と送料は著者負担とする。

10. 著作権

本誌に受理され, 掲載された全ての内容の著作権は本会に帰属する。

うみがめニュースレター編集委員会

編集委員長 石原 孝

編集顧問 亀崎直樹

編集委員

平間茂知・河津 勲・亀田和成・岡本 慶

デザイン

宮原尚子

Editor

Takashi Ishihara

Suma Aqualife Park, Hyogo, Japan

Editorial Adviser

Naoki Kamezaki

*Okayama University of Science, Okayama, Japan
& Suma Aqualife Park, Hyogo, Japan*

Editorial Board

Shigetomo Hirama

Isao Kawazu

Kazunari Kameda

Kei Okamoto

Designer

Naoko Miyahara

Sea Turtle Association of Japan, Hirakata, Japan

2017年1月31日発行

発行 うみがめニュースレター編集委員会

〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302

NPO法人 日本ウミガメ協議会

E-mail: newsletter@umigame.org